

令和7年度第3回 第3次半田市地域福祉計画策定委員会 次第

日時：令和7年10月17日（金）

10：00～12：00

場所：半田市役所庁議室（4F）

1. 開会

2. 委員長あいさつ

3. 議事

（1）承認事項

① パブリックコメント実施前地域福祉計画案について

4. その他

（1）連絡事項

(案)

第3次半田市地域福祉計画

計画期間：2026年度～2031年度（令和8年度～13年度）

2026年（令和8年）3月

半田市

第3次半田市地域福祉計画の策定にあたって

(市長コメント)

タイトル

(委員長コメント)

《目 次》

第1章 計画の策定にあたって・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 第1節 計画策定の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 第2節 計画の位置付け・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 第3節 計画期間・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 第4節 策定体制・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

第2章 半田市の地域福祉の状況・・・・・・・・・・・・ 5

- 第1節 統計データ等から見た状況・・・・・・・・ 5
 - Ｌ (1) 人口の推移・・・・・・・・ 5
 - (2) 高齢者の状況・・・・・・・・ 9
 - (3) 障がい者の状況・・・・・・・・ 11
 - (4) 子どもの状況・・・・・・・・ 12
 - (5) その他の状況・・・・・・・・ 13
- 第2節 市民意識調査等から見た課題・・・・・・・・ 20
 - Ｌ (1) 地域のつながり等について・・・・・・・・ 20
 - (2) 困りごとの相談等について・・・・・・・・ 21
 - (3) 地域活動の担い手について・・・・・・・・ 21
 - (4) その他・・・・・・・・ 21

第3章 基本理念等・・・・・・・・・・・・・・・・ 23

- 第1節 基本理念等・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 第2節 地域福祉活動の階層・・・・・・・・・・・・ 25

第4章 基本目標と推進施策・・・・・・・・・・・・ 27

- 第1節 基本目標・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
- 第2節 推進施策・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
 - Ｌ (1) 基本目標1. 地域づくりの推進・・・・・・・・ 28
 - (2) 基本目標2. 参加の機会の創出・・・・・・・・ 32
 - (3) 基本目標3. 相談支援の充実・・・・・・・・ 35
- 第3節 評価指標・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

第5章 半田市重層的支援体制整備事業実施計画・・・・・・・・ 43

- 第1節 半田市における重層的な支援体制の現状と課題・・・・・・・・ 43
 - Ｌ (1) 令和5年度から令和6年度の多機関協働事業等における本市の現状と課題について・・・・・・・・ 43

(2)	重層的なふくし課題の整理	46
(3)	課題により推進が必要な施策まとめ	47
第2節	重層的支援体制整備事業とは	48
第3節	基本方針	49
第4節	実施事業と実施体制	50
L	(1) 重層的支援体制整備事業と関連して実施する取組	50
(2)	重層的支援体制整備事業の実施に係る支援提供体制 に関する事項	51
第5節	計画の管理・評価に関して	56

参考資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

1. アンケート結果	… 57	2. 中学校区別人口等分析	… 91
3. 専門部会報告書	… 97	4. 市民研修報告書	…103
5. 名簿	…107		

第3次半田市地域福祉計画とSDGs

SDGs (Sustainable Development Goals) は、「誰一人取り残さない」社会の実現をめざし、平成 27 年 (2015 年) の国連サミットで採択された「持続可能な開発目標」のことであり、令和 12 年 (2030 年) までを期限とする世界共通の目標です。持続可能な世界を実現するために 17 のゴールと 169 のターゲットから構成され、経済・社会・環境を包含する統合的な取組を示しています。

国では、「SDGs 実施指針改定版」(令和 5 年 12 月 19 日)において、持続可能な経済・社会システム構築の観点からも、「誰一人取り残さない」包摂社会の実現を掲げています。そこで、本計画と SDGs の目標を関連付け、SDGs の推進を図ります。

SDGs ロゴと 17 の各目標に対応するゴール	本計画に関連するゴール
	1 貧困をなくそう 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう

第1章 計画の策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨

社会福祉法（昭和26年法律第45号）では、第1条で地域福祉を「地域における社会福祉」と定義しています。また、同法第4条で「地域福祉の推進は、地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し、共生する地域社会の実現を目指して行われなければならない。」と地域福祉の推進を明記しており、年齢や性別、障がいの有無、国籍等に関わらず、地域に住むすべての人が安心して暮らし続けることができる社会の実現を目指すこととしています。

地域福祉計画は、「行政の福祉サービスをどのように充実させるか」だけでなく、「わがまちをより住みやすく、安心して暮らし続けられるようにするために、私たち自身が何をしたらよいのか」を考える計画です。

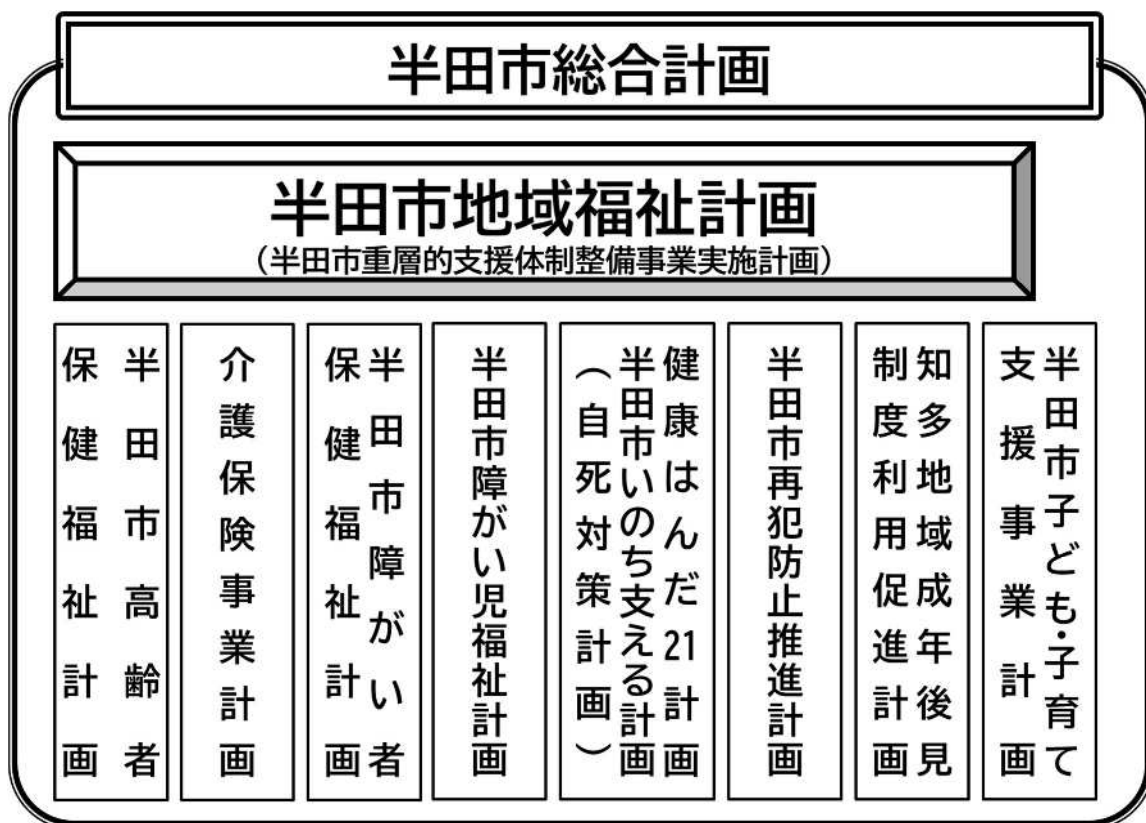
これまでに市民のみなさんや福祉活動団体、福祉事業所などの関係機関と連携して築き上げてきた半田市における地域福祉活動の基盤を継続・発展させるとともに、地域活動や社会情勢の変化を捉え、新たな課題にも挑戦していくことを目指します。

第1次半田市地域福祉計画（計画期間：平成22年度～令和2年度）、それに次ぐ第2次半田市地域福祉計画（同：令和3年度～令和7年度）の期間満了に伴い、これを継承するものとして第3次半田市地域福祉計画を策定します。

第2節 計画の位置付け

社会福祉法第107条（市町村地域福祉計画）の規定に基づき定めるもので、「半田市総合計画」や関連する各分野の個別計画と強いつながりを持ちながら、広い視野で地域福祉の実現を目指す計画となります。

また、各分野の個別計画のうち、「重層的支援体制整備事業実施計画」は、高齢、障がい、子ども、生活困窮の4分野を重ね合わせた計画であり、効果的・効率的に実施するために上位計画である地域福祉計画に包含して策定します。



第3節 計画期間

計画期間は、令和8年度から令和13年度までの6年間とします。

次期計画の策定年度（令和13年度）の翌年度（令和14年度）に関連する分野別計画の策定が予定されており、地域福祉計画を分野別計画の前年度に策定することで、地域福祉計画の中で理念を整理・明確化し、分野別計画でその理念に基づいた事業やサービスを位置づけ、福祉分野計画全体でその施策の整合性を図っていきます。

また、上記の考え方により、次回の分野別計画策定年度（令和11年度）の前年度（令和10年度）に中間見直しを予定しています。

計画（年度）		7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
半田市総合計画		○					●						
半田市地域福祉計画 （半田市重層的支援体制 整備事業実施計画）		◎			○		●				○		
関連する 分野別計画	半田市高齢者保健 福祉計画		●			●			●			●	
	介護保険事業計画		●			●			●			●	
	半田市障がい者 保健福祉計画		●			●			●			●	
	半田市障がい児福祉計画		●			●			●			●	
	健康はんだ21計画 半田市いのち支える計画 （自死対策計画）						○						●
	半田市再犯防止推進計画						○						●
	知多地域成年後見制度 利用促進計画			○		●			○		●		
	半田市子ども・子育て 支援事業計画					●					●		

◎：現計画の見直し年度（※総合計画は必要に応じて中間年度に見直し）

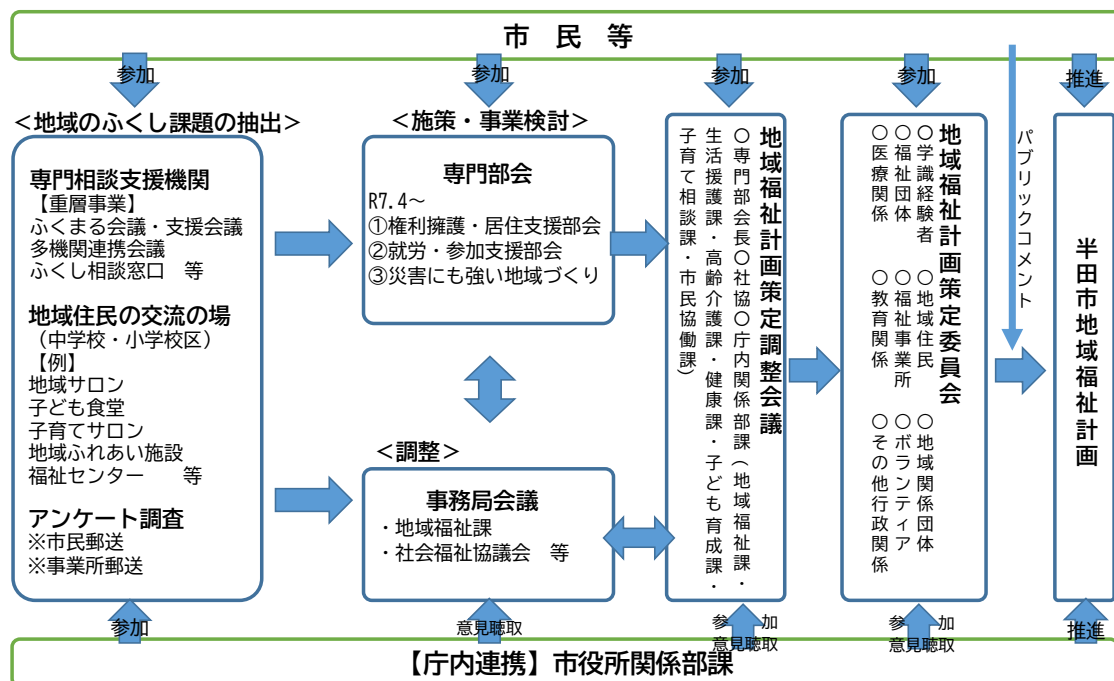
●：次期計画の策定予定年度

○：次期計画の見直し予定年度

第4節 策定体制

専門相談支援機関や地域住民の交流の場における聞き取り調査、市民アンケートによる意識調査を通じて、地域のふくし課題の抽出を行い、福祉事業所や福祉団体、地域住民など多様な関係機関・関係者が参画した専門部会による協議・検討を行いました。専門部会で議論することが困難なテーマについては、地域福祉計画策定調整会議で協議・検討を行い、地域福祉計画策定委員会による審議を経て策定しました。

第3次地域福祉計画の策定体制



第2章 半田市の地域福祉の状況

第1節 統計データ等から見た状況

(1) 人口の推移

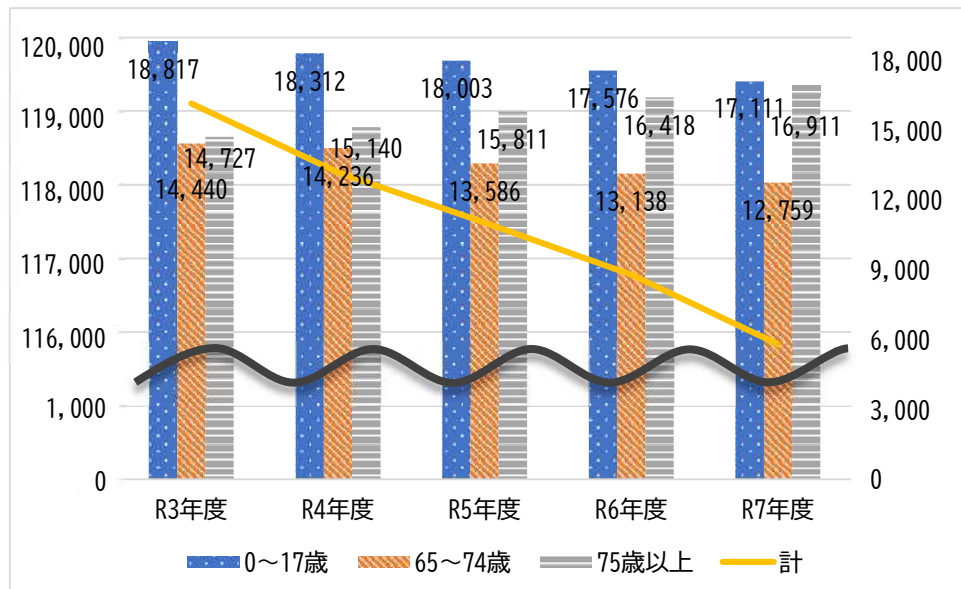
① 年代別の推移

令和7年4月1日現在の総人口は115,835人で、過去5年間で3,267人(2.7%)減少しています。年代別では、0～17歳が9.1%、18～64歳が2.9%、65～74歳が11.6%減少し、75歳以上は14.8%増加しています。

[年代別の推移]

(各年4月1日現在、単位：人)

年代別人口	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
0～17歳	18,817	18,312	18,003	17,576	17,111
18～64歳	71,118	70,478	70,084	69,646	69,054
65～74歳	14,440	14,236	13,586	13,138	12,759
75歳以上	14,727	15,140	15,811	16,418	16,911
計	119,102	118,166	117,484	116,778	115,835



※少子高齢化等の状況分析に焦点をあてているため、18歳～64歳の世代データについてはグラフには掲載していません。

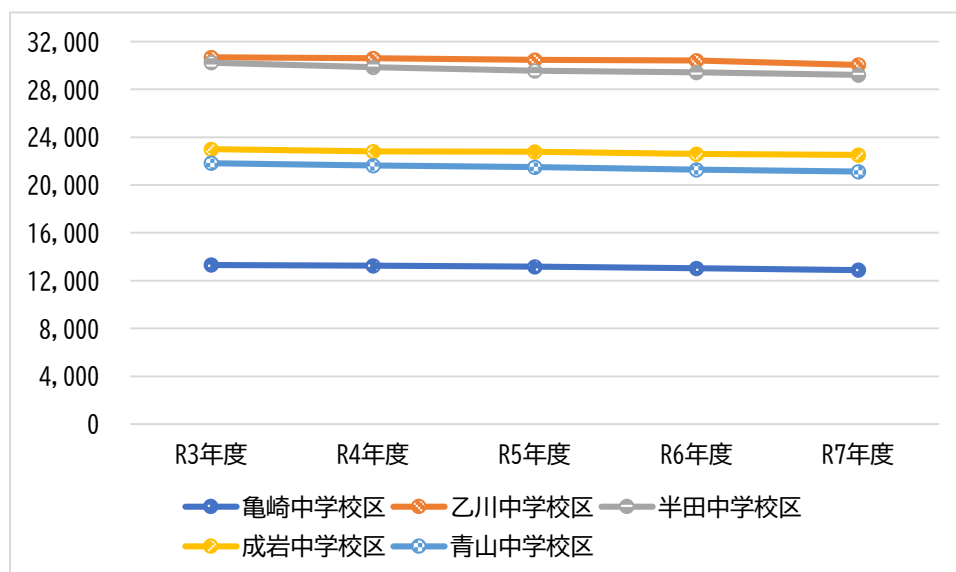
② 中学校区別の推移 【新】

過去5年間の人口について、いずれの中中学校区においても減少しており、総人口に占める中学校区別の構成比も大きく変動していません。また、人口動態も中学校区ごとの特有の傾向はみられず、市全体の人口動態と相違ないと考えられます。

[中学校区別の推移]

(各年4月1日現在、単位：人)

中学校区別人口	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
亀崎中学校区	13,326	13,264	13,181	13,045	12,899
乙川中学校区	30,688	30,607	30,465	30,411	30,065
半田中学校区	30,244	29,845	29,554	29,418	29,218
成岩中学校区	23,001	22,808	22,780	22,608	22,524
青山中学校区	21,843	21,642	21,504	21,296	21,129
計	119,102	118,166	117,484	116,778	115,835



③ 世帯数の推移

令和7年4月1日現在の単身世帯数は21,350世帯で、過去5年間で2,241世帯（11.7%）増加しています。

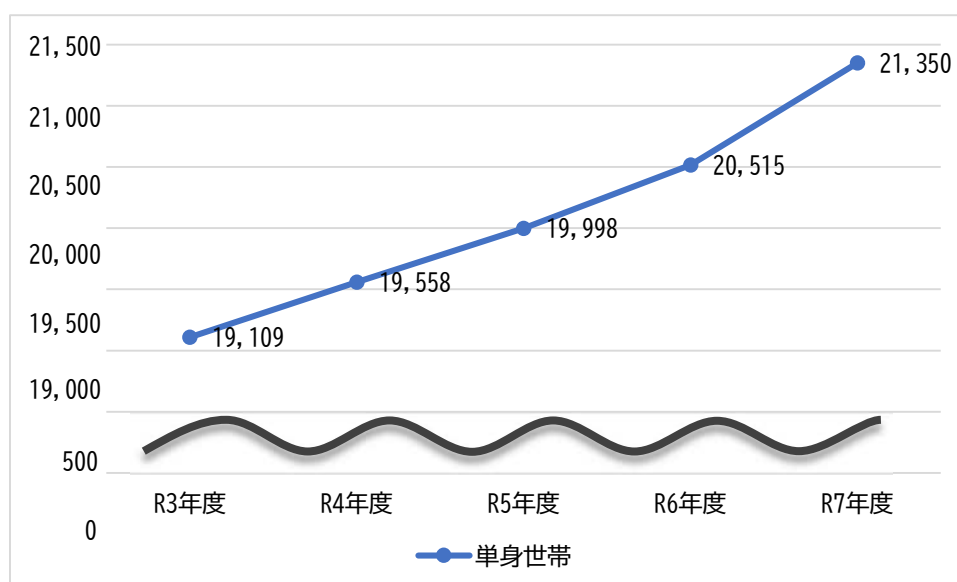
このうち65～74歳の高齢者（前期高齢者）単身世帯数は2,628世帯で、過去5年間で46世帯（1.7%）減少しています。一方、75歳以上の高齢者（後期高齢者）単身世帯数は5,503世帯で、過去5年間で962世帯（21.2%）増加しています。前期高齢者の単身世帯数は概ね横ばいですが、後期高齢者の単身世帯数は増加傾向にあります。

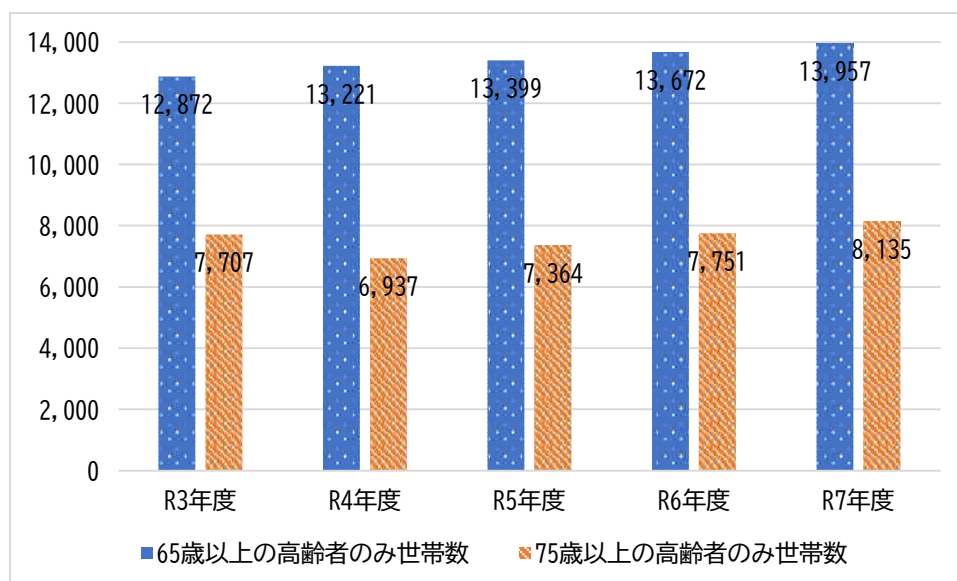
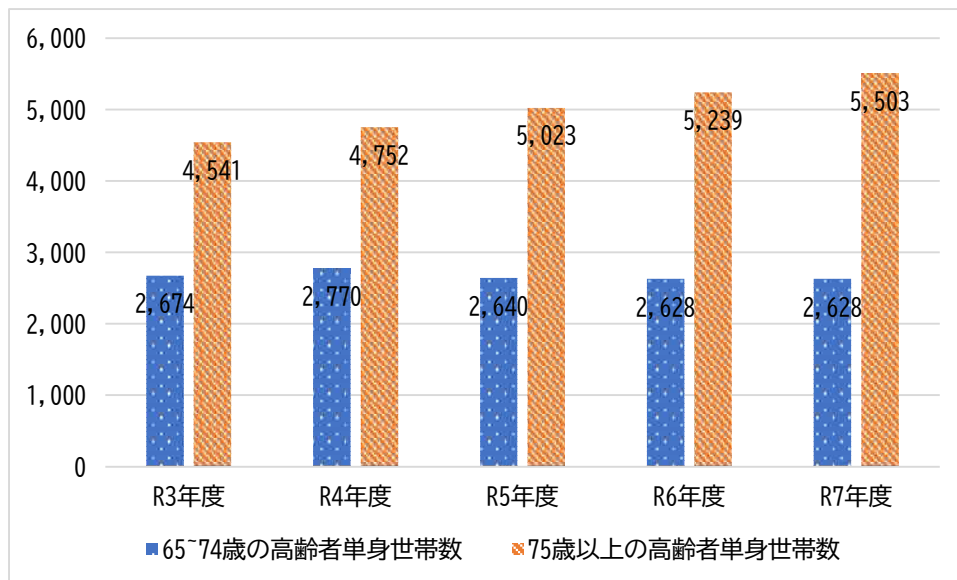
また、65歳以上の高齢者のみ世帯数は、13,957世帯で、過去5年間で1,085世帯（8.4%）増加しています。75歳以上の高齢者のみ世帯数に限ってみると8,135世帯で428世帯（5.6%）増加しています。

〔 世帯数の推移 〕

（各年4月1日現在、単位：世帯）

世帯数	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
単身世帯	19,109	19,558	19,998	20,515	21,350
65～74歳の高齢者単身世帯	2,674	2,770	2,640	2,628	2,628
75歳以上の高齢者単身世帯	4,541	4,752	5,023	5,239	5,503
65歳以上の高齢者のみ世帯	12,872	13,221	13,399	13,672	13,957
（うち、75歳以上の高齢者のみ世帯）	7,707	6,937	7,364	7,751	8,135





(2) 高齢者の状況

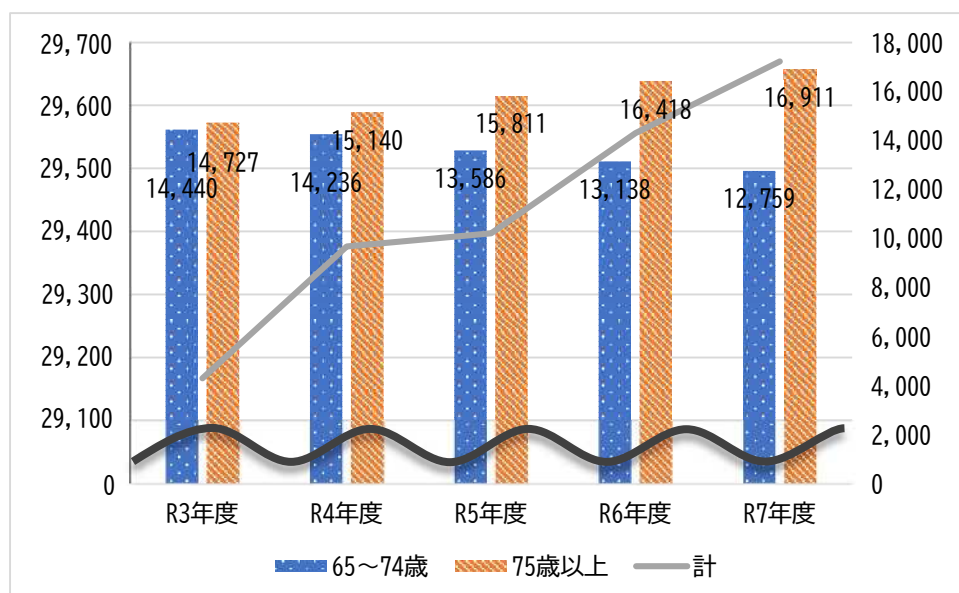
令和7年4月1日現在の65歳以上の人口は29,670人（総人口115,835人に占める割合は25.6%）で、過去5年間で503人（1.7%）増加しています。高齢者の内訳では、65～74歳の前期高齢者が1,681人（13.2%）減少、75歳以上の後期高齢者が2,184人（14.8%）増加しており、後期高齢者の増加率が高い水準となっています。

要介護認定者数については、過去5年間で268人（5.3%）増加しており、今後も高齢化に伴う認定者数の増加が見込まれます。区分別では、過去5年間で要介護5の認定者数が74人（23.6%）増加しており、最も増加率が高くなっています。

〔 高齢者人口の推移 〕

（各年4月1日現在、単位：人）

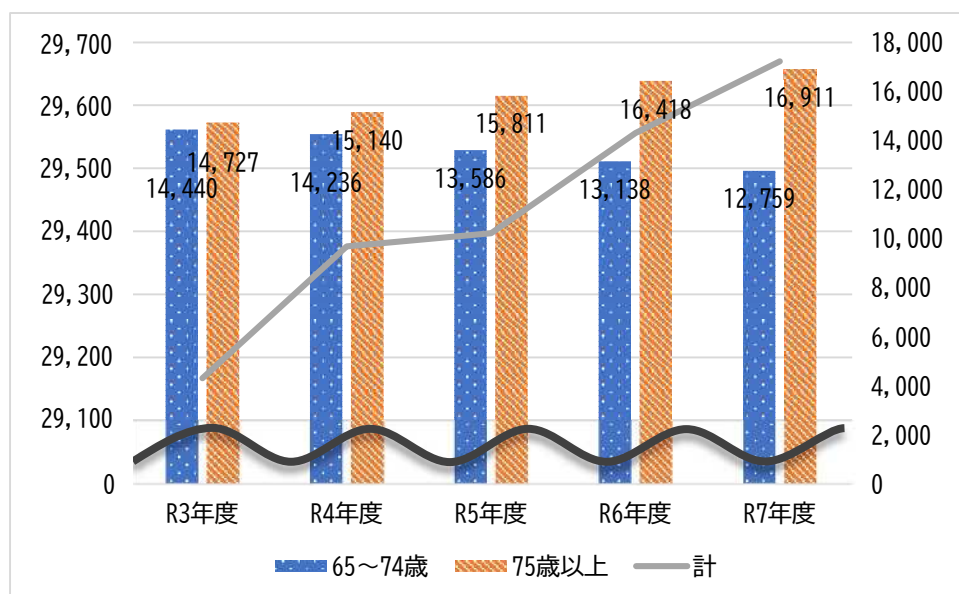
高齢者人口	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
65～74歳	14,440	14,236	13,586	13,138	12,759
75歳以上	14,727	15,140	15,811	16,418	16,911
計	29,167	29,376	29,397	29,556	29,670



〔 要介護認定者の推移 〕

(各年4月1日現在、単位：人)

区分	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
要支援 1	920	961	983	965	976
要支援 2	593	628	598	619	673
要介護 1	1,221	1,308	1,275	1,266	1,326
要介護 2	735	704	732	744	706
要介護 3	666	658	674	641	639
要介護 4	612	653	655	623	621
要介護 5	314	305	391	403	388
計	5,061	5,217	5,308	5,261	5,329



(3) 障がい者の状況

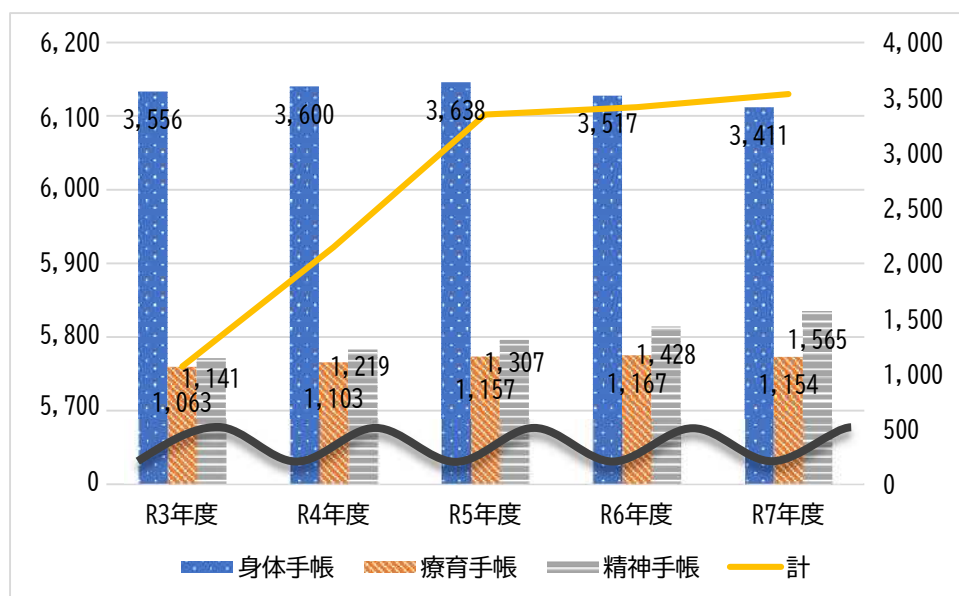
令和7年4月1日現在の障がい者手帳交付者数は 6,130 人で、障がいの種類別構成比では、身体障がい 55.7%（うち肢体不自由 47.8%、内部障がい 37.5%、その他 14.7%）、知的障がい 18.8%、精神障がい 25.5%となっています。

手帳交付者の総数は年々増加しており、過去5年間で知的障がい 91 人（8.6%）、精神障がい 37.2%増加しています。一方で、身体障がいは令和5年度の 3,638 人を機に減少に転じています。

[各種手帳交付者数の推移]

(各年4月1日現在、単位：人)

手帳種別	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
身体手帳	3,556	3,600	3,638	3,517	3,411
療育手帳	1,063	1,103	1,157	1,167	1,154
精神手帳	1,141	1,219	1,307	1,428	1,565
計	5,760	5,922	6,102	6,112	6,130



(4) 子どもの状況

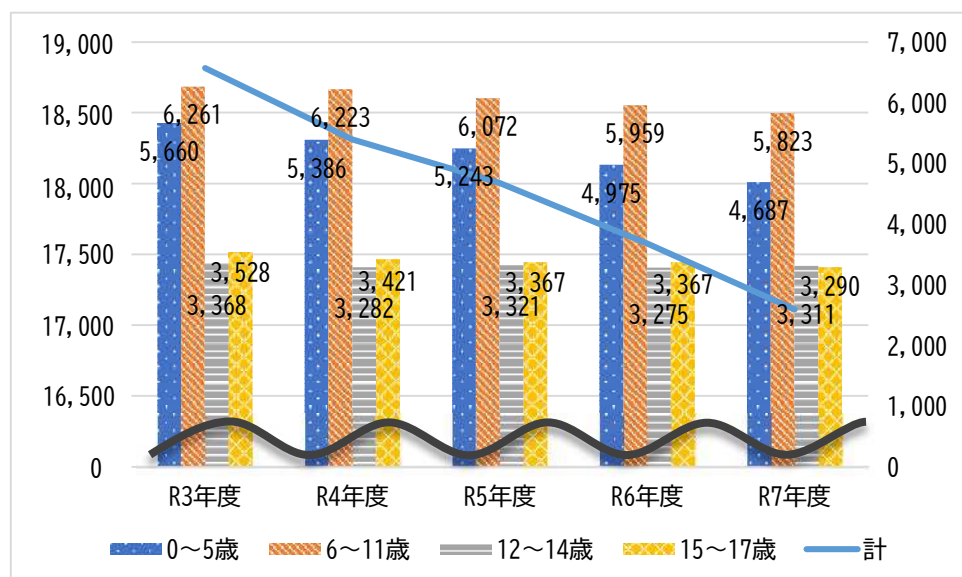
令和7年4月1日現在の18歳未満人口は、17,111人（総人口115,835人に占める割合は14.8%）で、過去5年間で1,706人（9.1%）減少している状況です。少子化傾向は今後も続くことが見込まれます。

世代別の過去5年間の人口減少率では、最も高い0～5歳（乳幼児期）が17.2%、次いで、6～11歳（小学生世代）が7.0%、15～17歳（高校生世代）が6.7%、12～14歳（中学生世代）が1.7%となっています。

〔 子ども人口の推移 〕

（各年4月1日現在、単位：人）

子ども人口	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
0～5歳	5,660	5,386	5,243	4,975	4,687
6～11歳	6,261	6,223	6,072	5,959	5,823
12～14歳	3,368	3,282	3,321	3,275	3,311
15～17歳	3,528	3,421	3,367	3,367	3,290
計	18,817	18,312	18,003	17,576	17,111



(5) その他の状況

① 外国籍市民

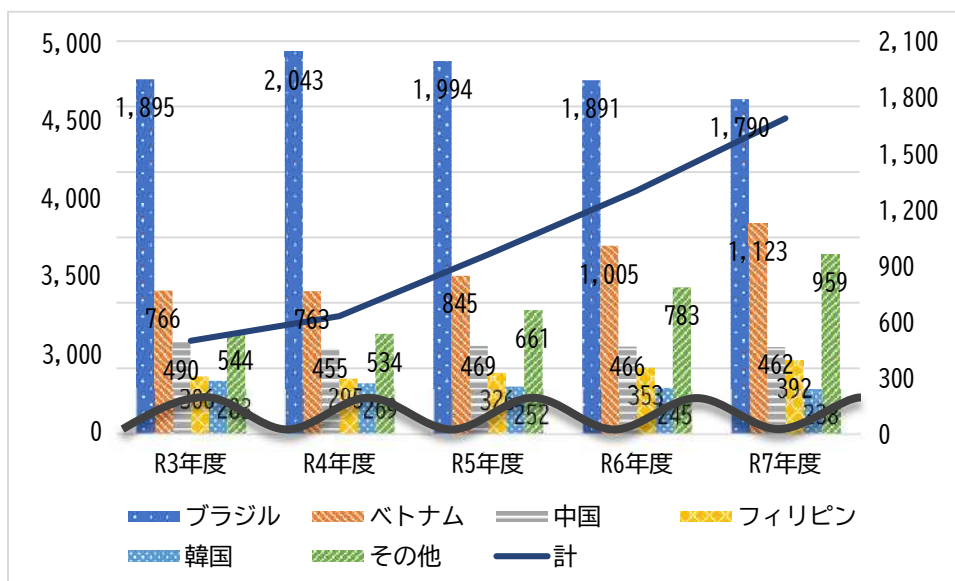
令和7年4月1日現在の外国籍市民人口は4,964人（総人口115,835人に占める割合は4.3%）で、過去5年間で680人（15.9%）増加しています。内訳は、ベトナム籍が過去5年間で357人（46.6%）、フィリピン籍が86人（28.1%）増加しています。一方で、ブラジル籍が令和4年度の2,043人をピークに減少傾向に転じており、過去5年間で105人（5.5%）減少しています。また、中国籍が26人（5.7%）、韓国籍が45人（15.9%）減少しています。

年代別では、20代が1,233人で最も多く、次いで、30代が1,184人、40代が831人となっています。国籍別では、ベトナム国籍では20代、ブラジル、中国、フィリピン国籍では40代、韓国国籍では70代が最も高い割合となっています。

〔 外国籍市民人口の推移 〕

（各年4月1日現在、単位：人）

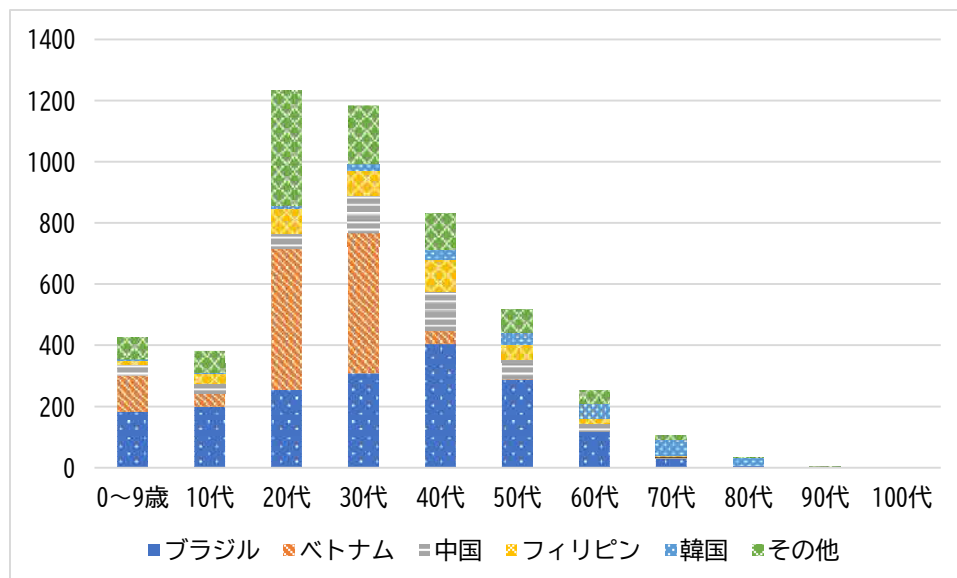
国籍	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度	R7 年度
ブラジル	1,895	2,043	1,994	1,891	1,790
ベトナム	766	763	845	1,005	1,123
中国	490	455	469	466	462
フィリピン	306	295	326	353	392
韓国	283	269	252	245	238
その他	544	534	661	783	959
計	4,284	4,359	4,547	4,743	4,964



〔 年代別外国籍市民の人口構成 〕

(令和7年4月1日現在、単位：人)

国籍	0～9歳	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	90代	100代
ブラジル	185	199	254	308	404	287	118	29	6	0	0
ベトナム	116	42	462	457	43	2	1	0	0	0	0
中国	34	34	50	124	128	64	24	4	0	0	0
フィリピン	16	33	82	82	104	50	19	6	0	0	0
韓国	2	5	7	20	34	39	49	53	26	2	1
その他	72	69	378	193	118	73	40	13	2	1	0
計	425	382	1,233	1,184	831	515	251	105	34	3	1



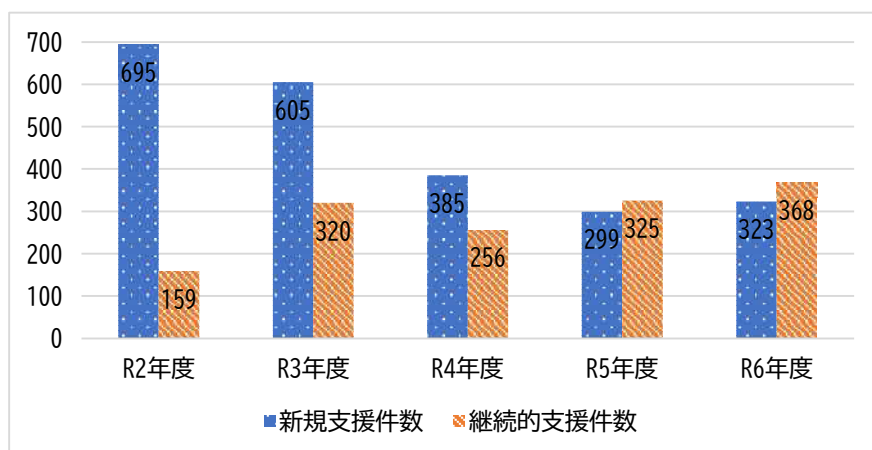
② 生活困窮等

令和6年度の生活困窮者自立相談支援件数は323件で、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた令和2年度から令和3年度を踏まえると、過去5年間で新規相談支援件数は372件（53.5%）減少しています。また、生活保護世帯数は過去5年間で62世帯（10.0%）、人員数は91人（11.8%）減少しています。

〔生活困窮関係の推移〕

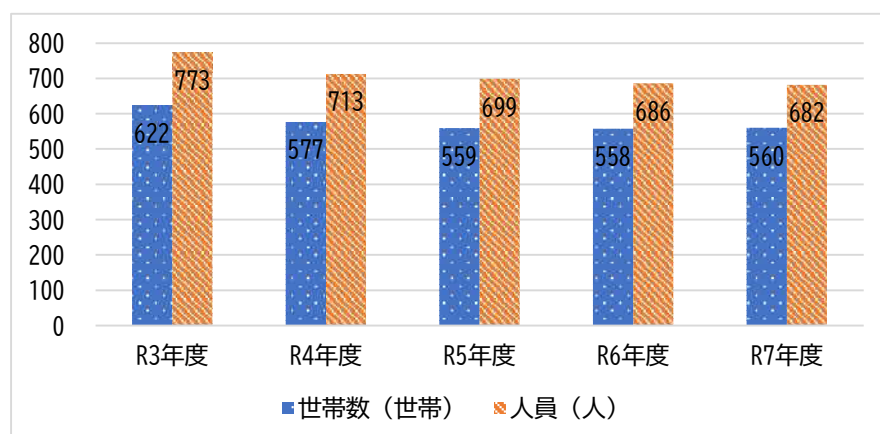
（各年度実績、単位：件）

生活困窮者自立相談支援関係	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
新規支援件数	695	605	385	299	323
継続的支援件数	159	320	256	325	368



（各年4月1日現在）

生活保護関係	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
世帯数（世帯）	622	577	559	558	560
人員（人）	773	713	699	686	682
保護率（‰）	6.5	6.0	5.9	5.9	5.9



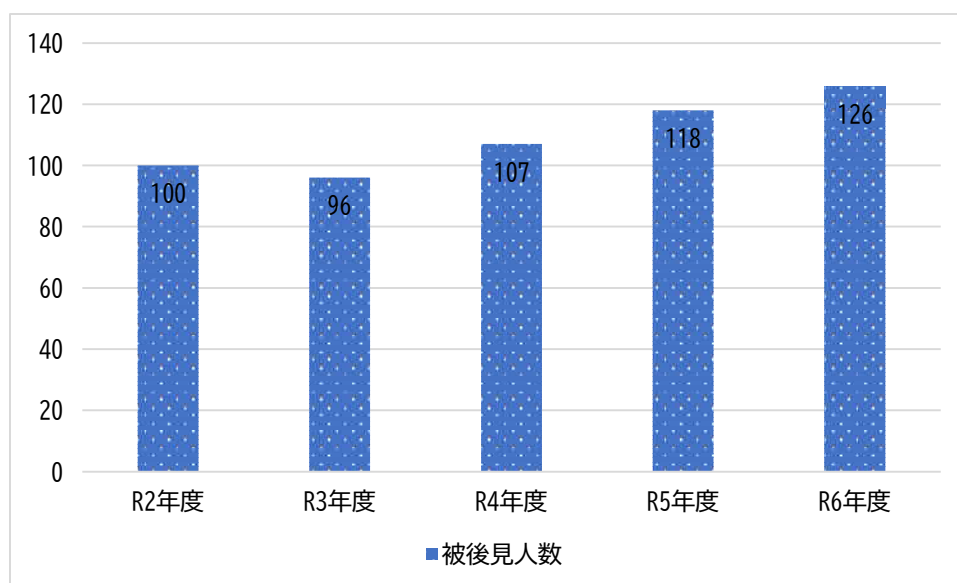
③ 成年後見

令和6年度の成年後見制度・被後見人等（NPO法人知多地域権利擁護支援センター、半田市社会福祉協議会が後見人等であるもの）は126人で、令和2年度から26人（26.0%）増加しています。一人暮らし高齢者や身寄りのない人の増加により、今後も増加していくことが見込まれます。

〔 成年後見関係の推移 〕

（各年度実績）

成年後見関係		R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
市長申立て（件）		13	5	12	13	12
被後見人等 （人）	知多地域権利擁護支援センター	100	81	95	106	116
	半田市社会福祉協議会		15	12	12	10
	計	100	96	107	118	126
相談・支援 件数（件）	知多地域権利擁護支援センター	411	391	732	720	838



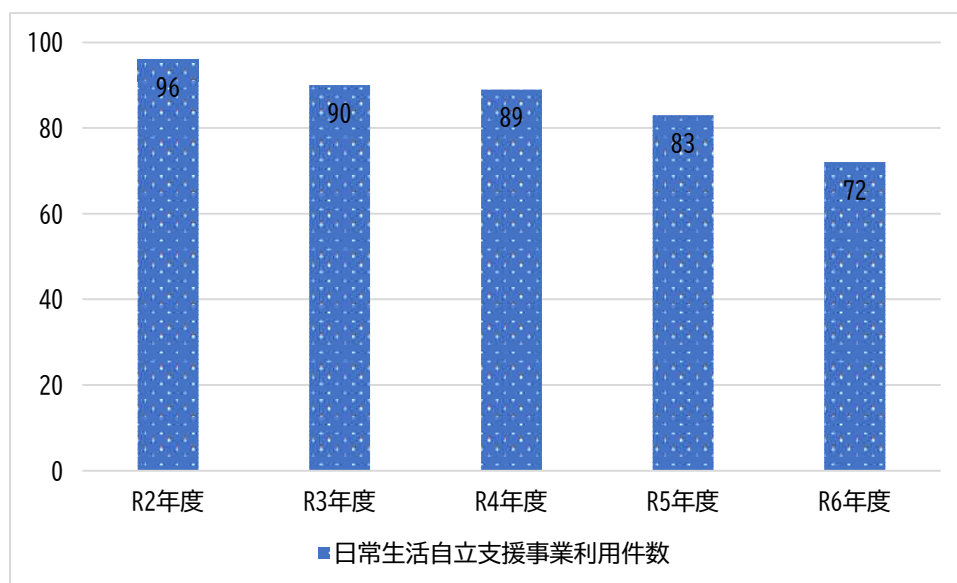
④ 日常生活自立支援事業等 【新】

半田市社会福祉協議会が実施している日常生活自立支援事業の利用件数は、令和6年度は72件で、過去5年間で24件（25.0%）減少しています。また、貴重品の管理が困難な方に対する貴重品預かり事業の令和6年度の利用件数は27件で、過去5年間で12件（80.0%）増加しています。今後、③成年後見制度と合わせて、権利擁護に関する支援が必要とされています。

〔 日常生活自立支援事業等関係の推移 〕

（各年度実績、単位：件）

日常生活自立支援事業等関係	R2 年度	R3 年度	R4 年度	R5 年度	R6 年度
日常生活自立支援事業利用件数	96	90	89	83	72
金銭管理等事業利用件数		1	0	3	1
貴重品預かり事業利用件数	15	18	20	28	27



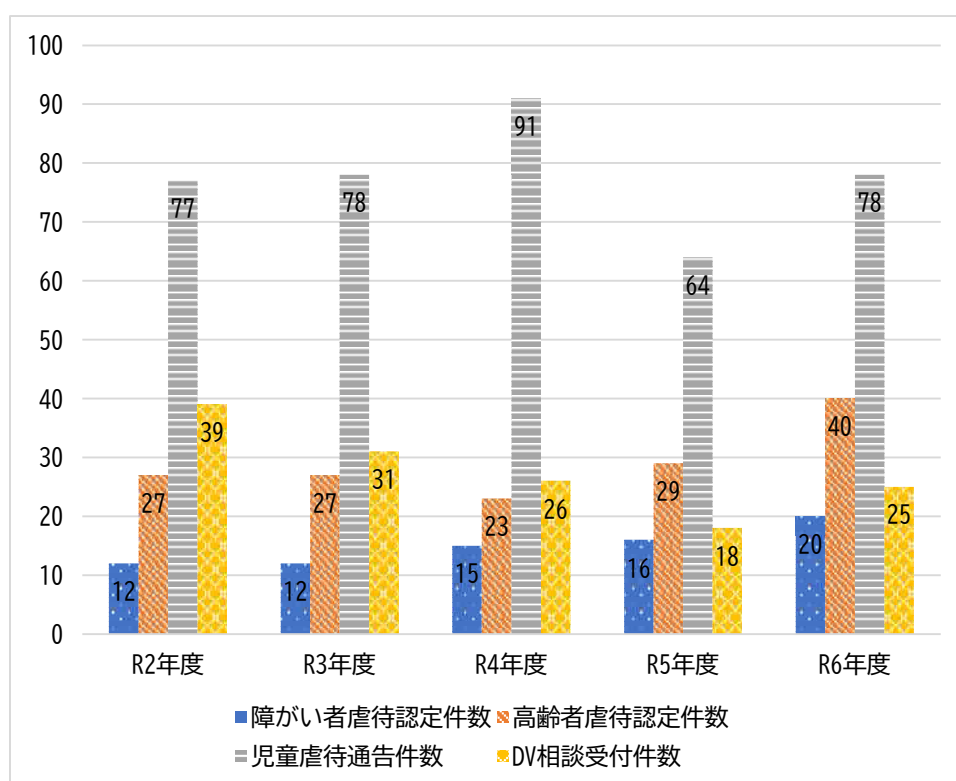
⑤ 虐待等

障がい者虐待認定件数は、過去5年間で8件（66.7%）、高齢者虐待認定件数は、13件（48.1%）増加しています。児童虐待通告件数は、過去5年間で令和4年度が最も多い91件で、DV相談受付件数は令和2年度が最も多い39件となっています。

〔 虐待等の推移 〕

（各年度実績、単位：件）

虐待等関係	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
障がい者虐待認定件数	12	12	15	16	20
高齢者虐待認定件数	27	27	23	29	40
児童虐待通告件数	77	78	91	64	78
DV相談受付件数	39	31	26	18	25



⑥ 重層的支援体制整備事業等 【新】

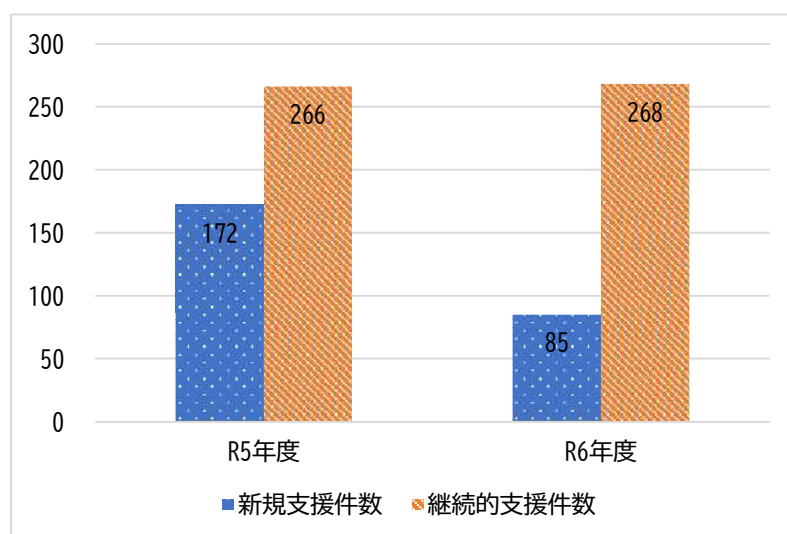
令和3年度から重層的支援体制整備事業への移行準備事業を開始し、令和5年度からは重層的支援体制整備事業を本格実施しています。その中で、新たに取り組みを始めた「多機関事業等（アウトリーチ等継続的支援事業、多機関協働事業、参加支援事業）」の実績は以下のとおりとなっています。本格実施後、新規支援件数は、年度による変動がありますが、継続的支援件数は概ね横ばいとなっており、「制度の狭間」にある対象者に対して、引き続き伴走支援が求められています。

〔 重層的支援体制整備事業関係の推移 〕

（各年度実績、単位：件）

多機関協働事業等	R5 年度	R6 年度
新規支援件数	172	85
継続的支援件数	266	268

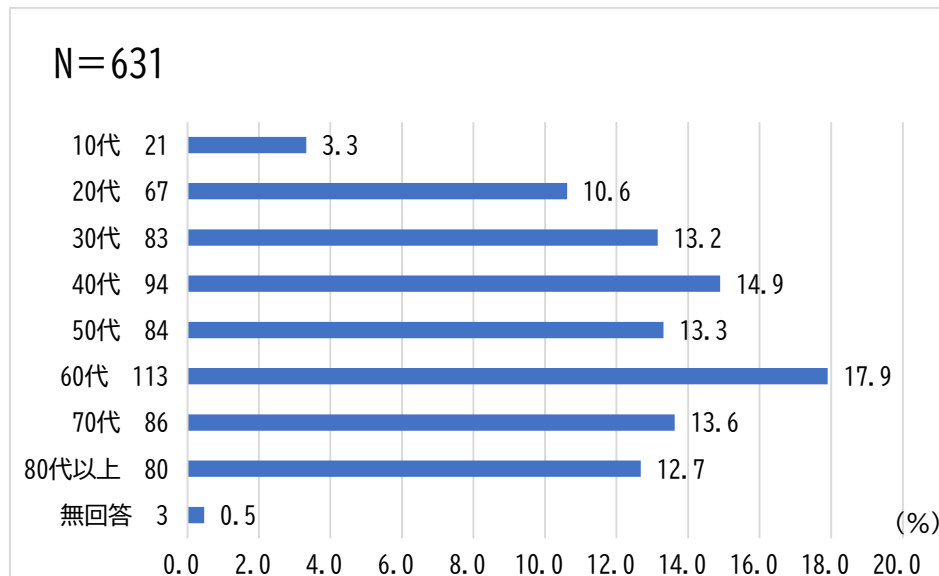
※多機関協働事業等・・・「アウトリーチ等継続的支援事業」、「多機関協働事業」、「参加支援事業」



第2節 市民意識調査等から見た課題

市民アンケートによる意識調査や、地域の居場所における地域課題抽出のための聞き取り調査等の結果は、以下のとおりです。

【年齢別アンケート集計結果（令和7年1月1日現在の満年齢）】



（1）地域のつながり等について

近隣の人との付き合いに関する問い（市民アンケート（以下同じ）問8）は、「日頃から助け合っている（6.3%）」と回答している人が平成25年度調査時から徐々に減少している一方、「ほとんど付き合いがない（24.4%）」と回答している人が令和元年調査時から2倍に増加しています。また、今後の地域貢献できることへの問い（問13）では、「特にない（41.3%）」が最も多く、地域に対する思いやつながりは希薄化の傾向にあります。

また、孤独感に関する問い（問11）においては、「時々ある（30.0%）」、「常にある（6.7%）」となっています。「時々ある」と回答した年代は40代（43.6%）が最も高く、次いで50代（34.5%）、30代（30.1%）であり、就労する若者世代においても、孤独感を感じている結果となっています。また、「常にある」と回答した年代は80代以上（11.3%）が最も高く、次いで70代（9.3%）であり、高齢世代で高い水準となっています。これらの世代に対して、それぞれ地域の居場所やつながりを感じられる機会を広く周知することが必要です。

（２） 困りごとの相談等について

困りごとの相談先に関する問い（問 10）では、「家族・親族（79.9%）」が最も多く、次いで、「友人・知人（45.5%）」となっています。また、「相談していない（10.8%）」が、過去の調査の中で最も高い割合となっています。その理由（問 10-1）は、「信頼できる人・相談できる人がいない（34.5%）」が最も多くなっています。そのほか、「顔見知りの人に相談するのは気まずい（8.9%）」や「なんとなく相談しづらい（14.6%）」が、令和元年調査時からそれぞれ 6.4 倍、2.1 倍に増えており、距離が近すぎない相談者の必要性が増えていると考えられます。

（３） 地域活動の担い手について

自治区やコミュニティなどの地域活動に関する問い（問 15）では、「活動したことはなく、今後も活動しないと思う（54.1%）」で最も多い結果となっています。今後も活動しないと思う理由（問 15-5）では、「仕事が忙しい（34.8%）」が最も多く、年代別でみると 10～50 代では半数程度が該当しており、60 代においても 26.7%と高水準となっています。定年延長等により、もともと地域の担い手であった世代も、就労している状況があると考えられます。また、ボランティア活動に関する問い（問 16）においても、同様の傾向が見られます。

他方で、ボランティア活動をはじめたきっかけに関する問い（問 16-2）では、「本、マスコミ、インターネットから興味を持った（3.6%）」、「生きがいを求めて（5.8%）」、「活動している人たちを見たり、話を聞いて（7.3%）」、「地域や人とのつながりを求めて（5.8%）」などが過去のアンケート調査の中で最も高い水準となっています。自身の興味や関心のある活動をきっかけに、活動を始める方が多い状況となっています。

地域の居場所での聞き取り調査でも、担い手不足や世代交代を懸念する声が相次いでおり、担い手の確保や育成は喫緊の課題と考えられます。

（４） その他

福祉に関して得たい情報に関する問い（問 14）では、「健康に関する情報（38.4%）」、「介護や障がい福祉サービス等に関する情報（34.0%）」が多くなっています。また、「就労に関する情報（13.2%）」が令和元年調査時より 1.7 倍に増加しており、就労を通じた社会参加の機会が求められていると考えられます。

市民アンケート調査結果の詳細は、第 6 章（●ページ）をご覧ください。

第3章 基本理念等

第1節 基本理念等

■第1次・第2次地域福祉計画の基本理念の継承

平成22年4月策定の第1次地域福祉計画から第2次地域福祉計画にかけて、赤ちゃんからご高齢の方まで、半田市に住むすべての方の「ふだんのくらしのしあわせ」の実現を目指して、次の理念を掲げてきました。

〔 第1次地域福祉計画・第2次地域福祉計画の基本理念 〕

誰もが自分らしく生きられるまち・はんだ

わたしには何でも相談できる人がいます。

わたしには身近に集える場所があります。

はんだには気軽に参加できる機会があります。

はんだには困ったときに支え合うしくみがあります。

わたしには地域での役割があり、

そこで安心して暮らすことができます。

上記の基本理念を継承しつつ、近年の福祉施策では自死対策などの予防的
事業や重層的支援体制整備事業の実施に伴い、本人が困っていないが周囲の
支援者が心配に思っているケース（セルフネグレクト等）が福祉の対象者とし
て焦点化されてきました。これらの状況を踏まえると、これまでの本市の基本
理念「はんだには困ったときに支え合うしくみがあります。」について、支え
合うしくみが「困ったとき」に限定されるものではなくなってきたことから、
以下のとおり基本理念を変更したうえで、本計画の基本理念を定めます。

〔 第1次計画・第2次計画からの基本理念の変更点 〕

旧【第1次地域福祉計画・第2次地域福祉計画】

はんだには困ったときに支え合うしくみがあります。

新【第3次地域福祉計画】

はんだには多くの人たちで支え合うしくみがあります。

〔 第3次地域福祉計画の基本理念 〕



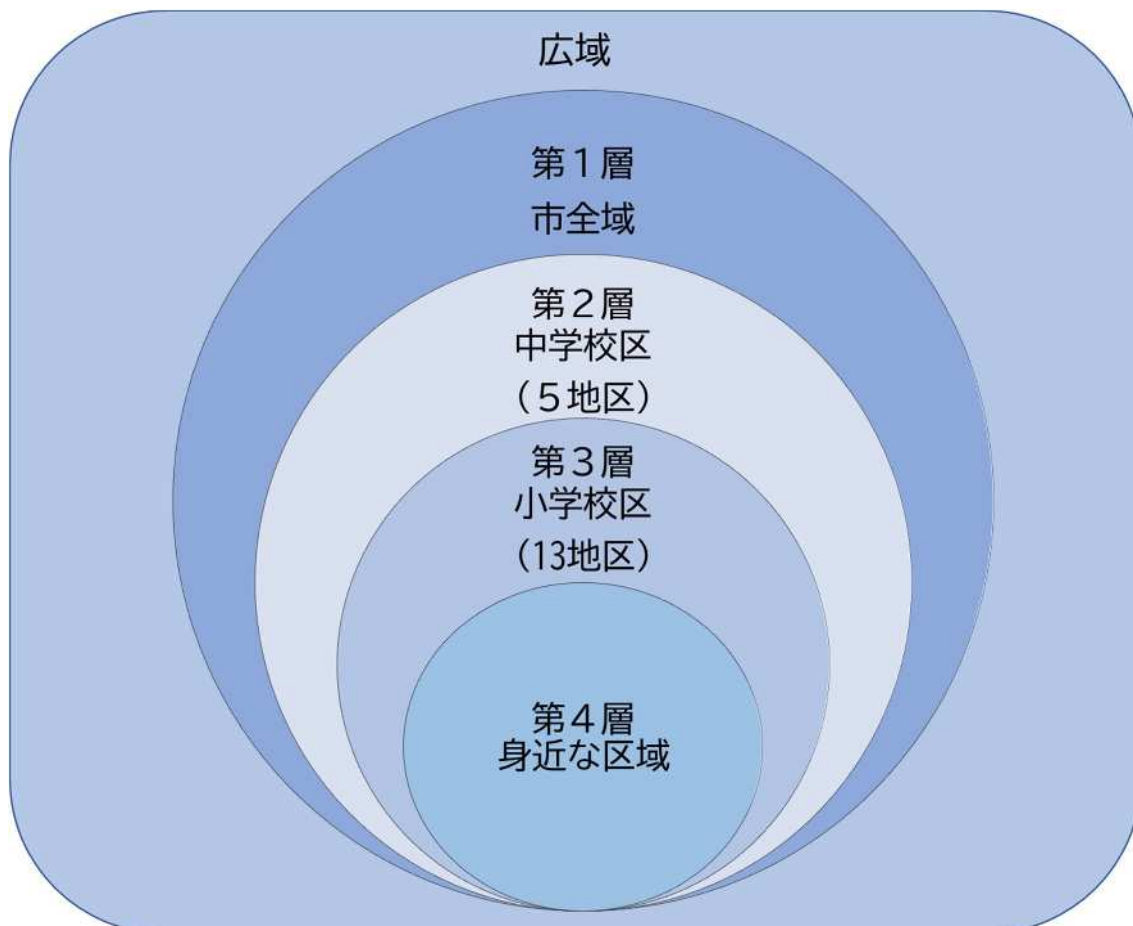
第2節 地域福祉活動の階層

第1節の基本理念に基づいた地域福祉活動は、「市全域で進める」視点ばかりではなく、「住民に身近な地域で進める」視点も必要です。双方の視点から地域福祉活動をより効果的に推し進めていくために、階層を設けています。

第1次地域福祉計画では、第2層（中学校区）を中心に地域福祉活動を展開し、第2次地域福祉計画では、第2層から第3層へ地域福祉活動の中心を移行するように試みました。第3次計画では、改めてこれまでの地域福祉活動の基盤を最大限に生かすために、第2層を中心として活動を推進する体制を築いていきます。

また、これまでは第1層（市全域）から、第4層（身近な区域）の4階層を設けてきましたが、人口減少社会における近隣市町との連携・協働などを念頭に「広域」を新たに加えました。これにより、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した相談や居場所など若い世代の関わりが深く、進化し続ける全国的・全世界的な取組なども取り入れながら、「広域的な活動」を推進できる体制を築いていきます。

〔 階層イメージ図 〕



〔 階層の定義 〕

広 域	県や知多圏域で広域的なサービス・制度を運用
第1層	市全域で制度的福祉サービスを展開
第2層	地域特性に応じた地域福祉活動や、住民に身近な地域での専門的相談支援等を展開
第3層	より地域特性に応じた地域福祉活動等を展開
第4層	自治区、町内会、隣組等の区域で、ご近所同士のささえあいの基盤となる階層

〔 各階層で展開する福祉サービスや地域福祉活動等の例 〕

広 域	災害時連携、人材バンク、若者サポートステーション など
第1層	介護保険給付、国民健康保険給付、福祉医療費助成、生活保護、生活困窮者自立支援、居住支援、成年後見等権利擁護、障がい者自立支援、児童手当その他の手当支給、健康診査、半田市ふくしまるごと会議の開催、ダイバーシティ就労プラットフォーム など
第2層	地域子育て支援拠点の整備、住民に身近な地域での専門的相談支援、各地区ささえあい活動計画の策定・推進、多機関連携会議、CSW（コミュニティソーシャルワーカー）の配置、共助の地域づくり事業
第3層	ふくし相談窓口、住民による助け合い組織（お助け隊）の活動、ふくし共育の実践、地域ふれあい施設の運営 など
第4層	民生・児童委員活動、〇〇サポーター活動、地域サロンの運営、災害避難時の声掛け、日頃のささえあい など

※地域特性によって、階層をまたぐことや、別の階層で検討された取組をより住民に身近な地域で実践することもあり、連携して実施していきます。

第4章 基本目標と推進施策

第1節 基本目標

第1次～第2次地域福祉計画での活動や市民アンケートによる調査結果を通して、「地域のつながりの希薄化」や「人材不足」、「相談できる人がいない」など、様々な地域生活課題が浮かび上がってきました。本市では、地域福祉推進の主体である市民及び支援関係機関の協力を得ながら、地域生活課題の解決に資する支援が包括的に提供される体制を整備するため、次のとおり目標を定め、施策を推進していくこととします。

大目標：はんだ版包括的支援体制の確立

基本目標1. 地域づくりの推進

- 推進施策A. 地域活動への参加のしくみ
- 推進施策B. 災害時、緊急時にささえあうしくみ
- 推進施策C. 地域づくりの基盤強化・連携
- 推進施策D. 他分野との協働

基本目標2. 参加の機会の創出

- 推進施策E. 住民に身近なところの参加支援
- 推進施策F. 福祉人材の獲得・育成
- 推進施策G. 就労につながる人材の育成

基本目標3. 相談支援の充実

- 推進施策H. 地域住民の気づきの目と支援機関につなげる行動の醸成
- 推進施策I. ふくし相談窓口
- 推進施策J. 複合的な課題を抱える市民を支援する体制の拡充
- 推進施策K. 多死社会における身元保証、住まい、死後の支援
- 推進施策L. 意思決定を重視した第3の権利擁護のしくみ

第2節 推進施策

(1) 基本目標1. 地域づくりの推進

① 推進施策A. 地域活動への参加のしくみ



現状と課題

- 地域住民の地域活動への参加が、減少傾向にあります。定年延長など雇用形態の変化で地域活動参加開始年齢が遅くなっている、または減っていることや地域活動を支えてきた世代の高齢化が原因として考えられます。
- 半田市における中学校の部活動改革により、中学生の土日祝日を中心とした余暇時間の過ごし方が変わり、地域への活動参加のきっかけや機会の拡大が見込まれます。
- 若い世代には、特技や参加意欲があっても、時間や年齢などの関係で地域活動の参加に踏み出せない人もいます。また、活動への踏み出し方がわからない人もいます。
- 多世代が地域活動に関わることで、暮らしやすい地域づくりに繋がります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
地域活動に多くの組織等が関わるきっかけづくりを行います	・ 学校や地域団体との連携 ・ 多世代が関われる機会の創出 ・ 地域住民と企業や福祉事業所との協働	地域住民 地域団体 企業 福祉事業所 学校 社協
若い世代が地域活動に参加する機会をつくれます	・ 学校（小学校～大学）との連携 ・ 多世代が参加できるイベント等の開催 ・ 広報媒体の工夫	地域住民 福祉事業所 学校 社協

② 推進施策B. 災害時、緊急時にささえあうしくみ



現状と課題

- 自治区加入率の減少に伴い、地域住民の自治区（自主防災会）の防災訓練への参加率が低くなっています。地域を中心に、自分事として捉えられる防災意識の醸成・向上を図る必要があります。また、地域によって異なる自主防災会の取組を地域間で共有することも必要です。
- 避難行動要支援者名簿に基づいて、対象者による自記式等で個別避難計画を作成していますが、計画の具体性に欠ける部分があり、また地域においても上手く活用出来ていない現状があります。
- 被災後の生活再建に向けた支援体制の構築や、福祉避難所の体制整備について、関係機関と協議を進める必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
防災意識向上のための機会をつくります	・ 多世代が楽しみながら学べる訓練やイベント等の実施 ・ 防災アンケートや自分マニュアル等の制作の機会の提供 ・ 要配慮者等が参加しやすい防災訓練の実施 ・ 避難行動要支援者名簿や個別計画を活用した避難訓練の実施	地域住民 自主防災会 社協
被災者の支援体制を構築します	・ 事業所が作成した個別 BCP の事業所間共有 ・ BCM の機能化に向けた事業所間の情報共有、交換の場の創出 ・ 福祉避難所の体制構築	事業所 社協

③ 推進施策C. 地域づくりの基盤強化・連携



現状と課題

- 第2層の5つの中学校区ごとに、「ささえあい活動計画」（介護予防・生活支援協議会にて策定）に基づく地域活動が行われています。また、「多機関連携会議（地区によっては「ふくし事業所連絡会」という）」を実施し、福祉事業所による地域貢献活動について協議しています。こうした地域住民と福祉事業所の両輪での地域づくりの実践は、半田市の大きな強みといえます。
- 第2層を中心に令和5年度から共助の地域づくり事業を展開しており、地域住民と福祉事業所との連携をより深める取組を進めています。
- 地域住民、福祉事業所、企業等、多様な属性が協働して地域づくりを推進するためのしくみづくりを継続していく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
地域住民や福祉事業所等が地域活動に参加する機会をつくります	・ 介護予防・生活支援協議会の実施 ・ 多機関連携会議の実施 ・ 共助の地域づくり事業の展開 ・ 各会議を合わせた一体的な事業の実施 ・ 社会福祉法人による公益事業の展開	地域住民 福祉事業所 社協

④ 推進施策D. 他分野との協働



現状と課題

- 第2次地域福祉計画期間において、母子保健や教育分野との連携を進め、0歳から18歳までの切れ目のない支援体制の構築に向けた協議を進めています。
- 福祉分野に限らず、農業、工業、商業、多文化共生、防災、デジタル、観光など、半田市が進めるまちづくりにつながる他分野との協働が求められます。
- 他分野に対して「福祉分野でできること」を議論できる場やそのニーズを把握できる環境づくりを進めていく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
様々な分野との協働に向けて協議する機会をつくれます	・協働に向けたニーズの把握調査や情報提供 ・企業と協働したまちづくり、地域づくりの実践	社協 企業

(2) 基本目標 2. 参加の機会の創出

⑤ 推進施策 E. 住民に身近なところの参加支援



現状と課題

- 児童センターや子ども食堂、地域サロン、地域ふれあい施設など、子どもから大人まで多様な年代が参加できる居場所が第3層（小学校区）を中心とした身近な地域で展開されています。
- 行政に限らず、市民活動により運営されている居場所も数多くありますが、参加者の固定化や担い手の高齢化などが課題となっています。
- 身近な社会資源を知ることで、自身の興味・関心のある活動と結びつくことに気が付き、社会参加のきっかけにつながるがあります。
- 社会参加へのハードルを高く感じ、自ら参加することが難しい方の一步目のハードルを下げる取組を進めていくために、支援者が社会資源を知り、参加支援と一緒に考えることができるようにしていく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
社会資源を知る機会をつくり、参加支援につなげていきます	・ 多世代・多様な属性が参加できる居場所づくり ・ 社会資源の広報 ・ 参加支援のコーディネート	地域住民 社協

⑥ 推進施策F. 福祉人材の獲得・育成



現状と課題

- 福祉事業所で働き、制度的福祉サービスを支える重要な人材（福祉人材）の不足は、市民への安定した福祉サービスの提供に影響します。人材不足の深刻化は在宅介護による介護離職等を誘発する懸念があります。
- 福祉分野の資格取得に必要な実習カリキュラムについて、半田市内の多くの法人（事業所）が協力し、実習生（学生）を受入れています。一方、法人（事業所）間の連携が図られておらず、実習生にとってより効果的に学べる環境づくりや体制づくりが進んでいない現状があります。
- 小規模な福祉事業所では、同期や年齢が近い職員が少なく、また管理職等へのキャリアアップのための研修機会をつくることは容易ではありません。市内の事業所間で同年代のつながりを作り、若手人材や管理職になるための人材育成を実現していくことが求められています。



施策

施策	主な取組例	関連機関
中学生までの世代に対して、ふくし共育やふくしへの理解を促進します	・ ふくし共育やふくし理解促進イベントの実施 ・ 小中学校での授業実施	社協
高校生から大学生世代に対して、福祉人材確保につながる機会を幅広くつくります	・ 実習に係る事業所連携の機会の創出 ・ インターンシップや就活イベントの実施 ・ 福祉分野以外の学生へのふくし理解の促進や ・ キャリアプランの展開	福祉事業所 教育機関
福祉事業所で働く人材の育成機会をつくります	・ 若手職員の交流機会の創出 ・ 管理職講座の実施	福祉事業所

⑦ 推進施策G. 就労につながる人材の育成



現状と課題

- 分野別（障がい、困窮、高齢（シルバー）など）に企業開拓が進められていますが、企業側が委託したい業務とその福祉分野側とのニーズがマッチングしないことがあります。特定の分野からのアプローチだけではなく、福祉分野全体が一体となって広く企業との連携を深め、多様な就労機会の創出・拡大を図っていく必要があります。
- 様々な働きづらさを抱える人にとって、就労に向けて訓練する機会は社会参加のための準備として非常に大切な機会であり、企業側にとっても、雇用前に就労の様子や成果を知り、リスクを最小限に留めることができる機会であるため、非常に有用です。
- 全国的には、ショートワークやスキマバイトなど新しい多様な働き方が生まれてきています。ひとりの人が実施する業務を細かくひも解き、できる人にきりわけることができれば、特に福祉分野同様に深刻な人材不足に悩まされる中小企業等の課題解決の一助になることが期待できます。



施策

施策	主な取組例	関連機関
様々な働きづらさを抱える人の就労支援を行います	・ダイバーシティ&インクルージョン（D&I）就労推進プラットフォームの構築 ・各種就労支援事業の実施	福祉事業所 企業 教育機関 社協

基本目標3. 相談支援の充実

⑧ 推進施策H. 地域住民の気づきの目と支援機関につなげる行動の醸成



現状と課題

- 各種サポーターの養成、民生委員・保護司の活動推進、ふくし相談窓口のPR、ふくし共育や地域見守り活動の推進等を通じて、地域には多くの気づきの目となる存在がいます。
- 知り合いや身近な存在には自分の悩みを相談しにくい方が一定数いることや、本人が困っていることに気付いていないといった課題も生まれています。周囲の支援者が気づき繋ぐことができるよう、今ある仕組みを今後も広く周知していく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
各種サポーターの養成や相談窓口の周知を行います	・各種サポーターの養成・活躍の場の創出 ・市や国、県の相談窓口の周知 ・イベントの活用等	地域住民 福祉事業所
相談窓口に来られない人に対するアウトリーチを行います	・アウトリーチ支援の実施 ・相談者へのフィードバック ・地域住民とともに支援する体制の活用（地域ケア会議等）	社協 福祉事業所 地域住民

⑨ 推進施策Ⅰ．ふくし相談窓口



現状と課題

- 第2層（中学校区）での多機関連携会議（ふくし事業所連絡会）を中心に、ふくし相談窓口の開設が広がり、令和7年1月1日現在で、98 の福祉事業所がふくし相談窓口の看板を掲げているため、地域住民にとって歩いて行ける距離での相談先が増えました。
- 地域住民への PR として、福祉事業所のマップやチラシの全戸配布、啓発カードの作成や商店での設置、啓発動画の作成などを進めていますが、ふくし相談窓口への相談数は少ないのが現状です。
- ふくし相談窓口の機能には、相談を受けることばかりではなく、福祉事業所の利用者の家族の困りごとを、高齢、障がいなどの分野を超えて気づき、早期に支援することが挙げられます。福祉事業所の利用者との関わりが深い職員に、この機能について理解を深めていく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
ふくし相談窓口の周知啓発と機能の理解促進をすすめます	・地域住民や福祉事業所への理解促進、周知啓発 ・日常の居場所での出張相談の実施	福祉事業所 社協

⑩ 推進施策 J. 複合的な課題を抱える市民を支援する体制の拡充



現状と課題

- 令和3年度から重層的支援体制整備事業への移行準備事業、令和5年度から重層的支援体制整備事業の本格実施を開始しました。第2層の中学校区単位でコミュニティソーシャルワーカー（以下、「CSW」という。）を配置し、複雑的・複合的な課題に対応する体制を整備しています。
- 複雑的・複合的な課題への対応はCSWを中心に、各分野の支援機関がそれぞれの強みをもちより、一緒になって考え、支援していく環境が必要です。この環境構築のため、重層的支援会議や生活困窮者自立支援調整会議などの会議体を統合した「ふくし“まるごと”会議」を開催していますが、構成員が多く意思決定や支援方針の議論に課題を抱えています。
- 今後、複雑化・複合化的な課題を抱える方に対する支援は多角的な視点で多様な支援策を検討する必要があります。そのため、支援者への支援についても取り組んでいく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
支援者の顔の見える関係づくりを行います	・分野を超えた支援者ネットワークの構築 ・支援者が孤立しない支援体制の整備	社協 福祉事業所
多様な会議体や相談窓口を活用し、様々な相談に対応する支援体制をつくります。	・各種会議体の有効活用 ・SNSを活用した相談支援体制の検討	社協

⑪ 推進施策K. 多死社会における身元保証、住まい、死後の支援



現状と課題

- 身寄りのない高齢者、生活困窮者等にとって、住まいの確保をはじめとした自身の権利が守られていない現状があります。誰もが安心して暮らしていけるよう、身元保証や借家の契約の仕組みを検討する必要があります。
- 多死社会を迎えるにあたり、身寄りのない高齢者等の中には、亡くなった後の火葬や葬儀代などを捻出できない方もいます。既存の広域的な仕組みも含めて、初期費用を支払えない人の死後対応を含めた仕組みの検討と構築が必要です。
- 身寄りのない高齢者等の課題として、病気やけがのケア、近隣トラブルへの対応が挙げられ、住まいを提供する大家も家賃滞納などの心配事や不安を抱えています。こうしたことに対して、一人の人への関わりしるを増やしていく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
誰もが安心して住み続けられる仕組みを構築します	・民間企業等と連携した死後対応の仕組みづくり ・民間企業等と連携した見守り体制づくり ・居住支援協議会を活用した仕組みづくり	各種不動産 居住支援法人 民間企業 福祉事業所
身寄りのない高齢者等への対応の仕組みをつくります	・身元保証の充実 ・新たな権利擁護の仕組みづくり	社協 身元保証団体 知多地域権利 擁護支援セン ター
死後支援の仕組みをつくります	・入居者の死後対応への補償 ・家賃債務保証や残置物処理も保険対応	保険会社 宅建協会 居住支援法人 不動産会社

⑫ 推進施策Ⅰ．意思決定を重視した第3の権利擁護のしくみ



現状と課題

- 身寄りのない高齢者等が、事前に終活について考える機会をもつ必要があります。また、自身の死後対応を依頼できる組織や人と生前から繋がりをもてるような制度や仕組みを検討する必要があります。
- 身寄りのない高齢者等の支援を考えていく上で、家族機能の中で解決してきた生活課題を、代わりの方法で解決する仕組みを検討する必要があります。
- 成年後見制度等の見直しが見込まれており、本人の特性や状態に応じた権利擁護支援を実施するため、国の動向を注視していく必要があります。



施策

施策	主な取組例	関連機関
家族機能の中で解決してきた困りごとをささえあいの中で解決していく仕組みをつくります	・有償ボランティアによるささえあいの仕組みづくり ・互助会等の企画・運営・普及・啓発	社協 ボランティア団体 知多地域権利擁護支援センター
本人や家族のニーズに合わせた新たな権利擁護の仕組みをつくります	・成年後見制度と日常生活自立支援事業の利用促進 ・制度に当てはまらない方々への新たな権利擁護の仕組みづくり ・空き家と土地を活用する仕組みづくり ・ライフエンディング事業の啓発	社協 知多地域権利擁護支援センター 宅建協会など民間事業所
死後事務が不安なく実施できる体制を整備します	・行政内の連携した支援	

第3節 評価指標

「第2節 推進施策」で掲げた各施策を推進した成果を評価するために、以下の評価指標を設定します。

しかし、地域福祉は数値で計ることができない内容も多く含まれているため、毎年度の実施計画で目標に至るまでのプロセスについても併せて評価することで、進行管理をしていきます。

関連する 推進施策	項目	現状	目標（R13）
A	「地域の活動をしている」又は「今後活動したい人」の割合	合計 26.5%	合計 35.0%
B	避難行動要支援者等が参画した避難訓練の開催数	-	6 自治区
C	福祉事業所と地域住民との地域課題解決に向けた合同会議の開催数	-	各地区で 開催継続
D	他分野との協働事業化に向けた協議回数	-	年 1 回
E	地域課題の解決につながった参加 機会の場の創出数	-	年 1 つ
F	人材確保に係る検討会の開催回数	-	年 2 回
G	D & I 就労推進プラットフォーム の協力企業数	-	20 社
H	地域ケア会議等の実施回数	-	年 12 件
I	ふくし相談窓口の認知度	15.8%	20.0%
J	支援会議の実施回数	10 件	50 件
K	居住サポート住宅等の活用件数	-	20 件
L	権利擁護に関する市民・専門職等 向け啓発活動件数	年 20 回	年 25 回



第5章 半田市重層的支援体制整備事業実施計画

第1節 半田市における重層的な支援体制の現状と課題

半田市では、令和3年度から令和4年度にかけて重層的支援体制整備事業への移行準備事業（以下、「移行準備事業」という。）を実施してきました。移行準備事業の実施にあたり、半田市社会福祉協議会にコミュニティソーシャルワーカー（以下、「CSW」という。）を3名配置し、「アウトリーチ等継続的支援事業」、「多機関協働事業」、「参加支援事業」を委託しました。

この2年間の相談実績等を踏まえ、令和5年度からCSWを5名に増員するとともに、新たに「生活困窮者支援等のための地域づくり事業」を半田市社会福祉協議会に委託し、重層的支援体制整備事業の本格実施を開始しました。

（1） 令和5年度から令和6年度の多機関協働事業等における本市の現状と課題について

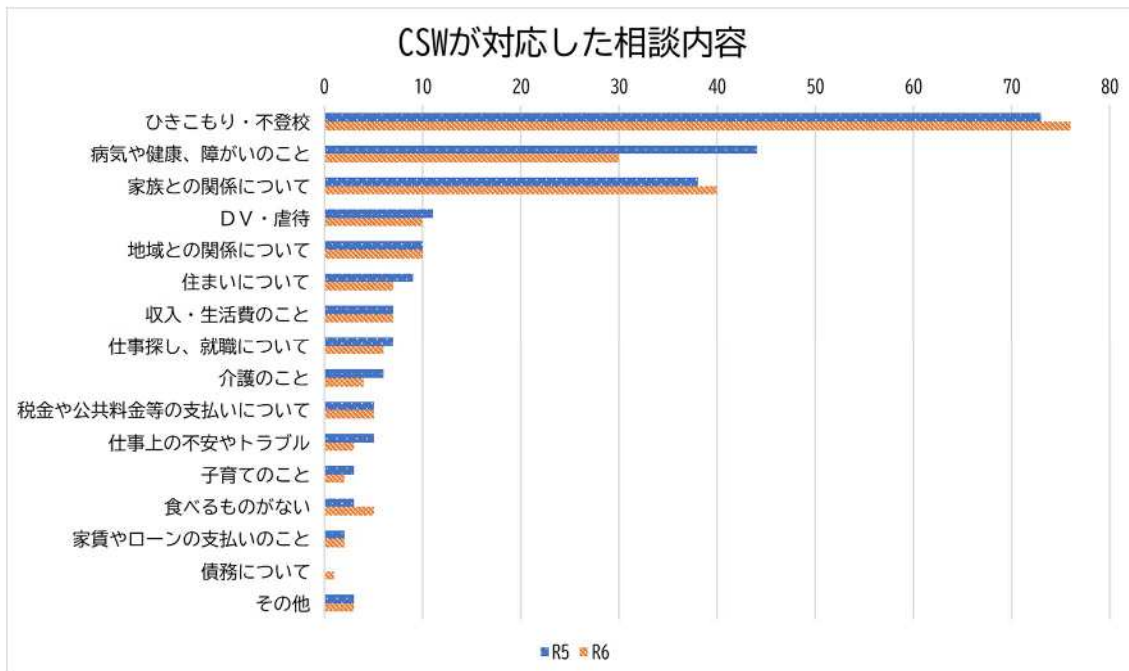
これまでの本市の重層的支援体制整備事業では、高齢・障がい・子ども・生活困窮の分野ごとの相談体制では対応が困難なケースとして、まずは「8050世帯」と「中卒無業者」を中心にCSWが介入しました。ここでは、重層的支援体制整備事業実施計画の策定にあたり、令和6年度の移行準備事業を実施してきたことで見えてきた現状と課題を分析しました。

① 相談内容

令和6年度のCSWへの対応件数は211件でした。相談内容を集計した結果、「ひきこもり・不登校」に関する相談が76名と最も多く、次いで、「家族との関係について」が40名、「病気や健康、障がいのこと」が30名でした。

「ひきこもり・不登校」に関する相談は、市内中学校での会議に専門職として参加し、不登校や問題行動がある生徒について、速やかに情報連携できる体制の構築を行っているため、相談件数が多くありました。

「家族との関係について」に関する相談は、中学生における進路相談や日常生活における親子関係の不和等に関する相談が多くありました。

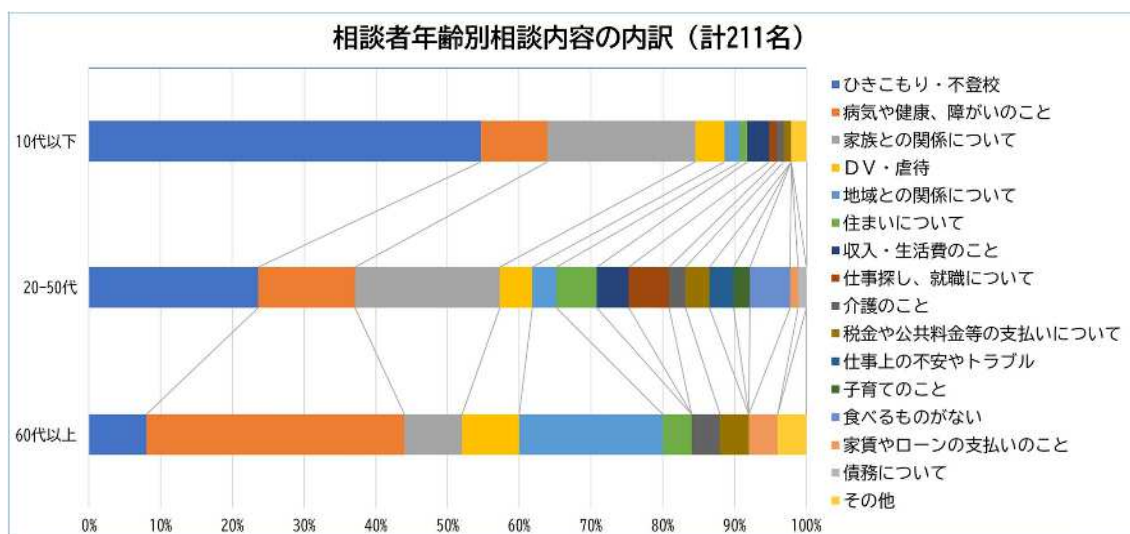
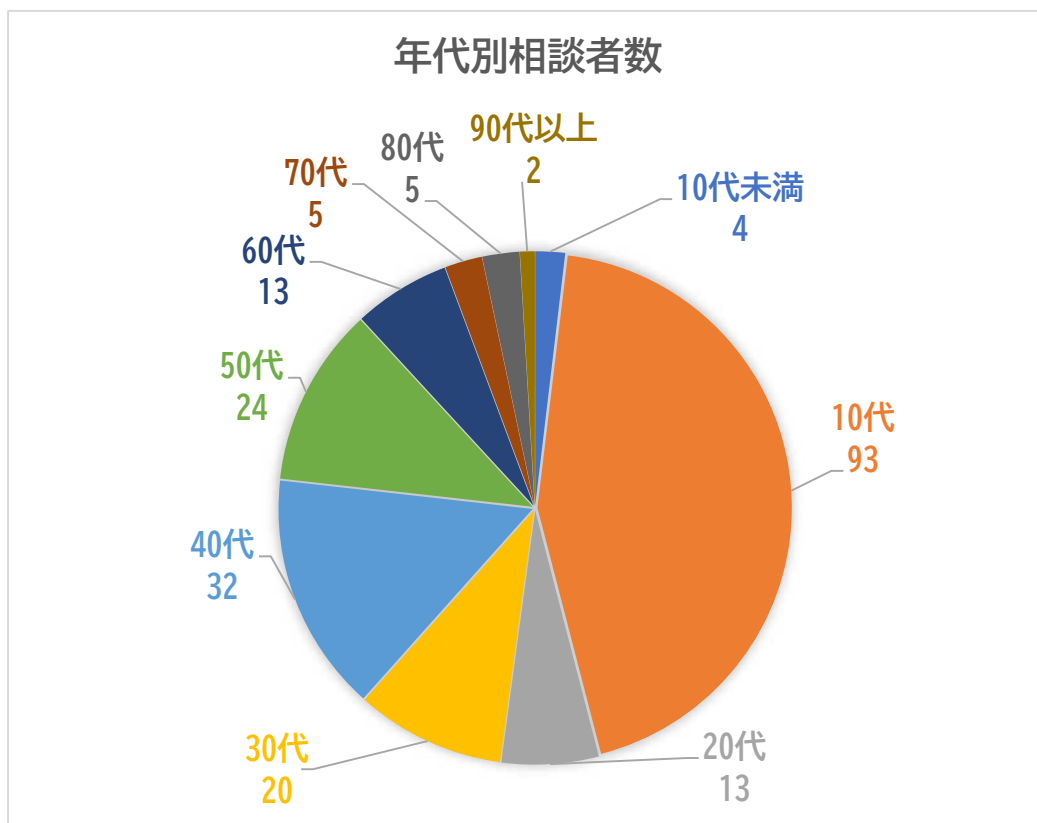


② 年代別相談者数

相談者の年代は、10代が93名と最も多く、次いで40代が32名、50代が24名でした。

10代が最も多くなった要因は、上記の市内中学校の会議に参加して、情報連携しているためであると考えられました。また、重層子ども支援会議により、中学校3年生の卒業後心配な要素を抱えている子どもへの対応をスクールソーシャルワーカー（以下、「SSW」という。）や学校から引き継いでおり、中卒無業者のセーフティネットとして機能しているためであると考えられました。

また、年代別に相談内容を比較した結果、10代以下では、「ひきこもり・不登校」、「家族との関係」に関する相談が他の年代より多くありました。20～50代では、「住まいについて」、「収入・生活費のこと」、「仕事探し・就職」、「仕事上の不安やトラブル」、「子育てのこと」、「食べるものがない」に関する相談が他の年代より多くありました。60代以上では、「病気や健康、障がい」、「地域との関係」、「税金や公共料金等の支払いについて」、「家賃やローンの支払いのこと」に関する相談が他の年代より多くありました。このように、ライフステージによって相談内容の変化があり、それぞれの相談内容に対応可能な関係機関との連携が必要であると考えられました。



③ 地区別相談者数

5つの中学校区による相談件数については、概ね人口動態と一致しており、その他にも、相談者数が多い中学校区は、公営住宅が多い地区、中学校と密な連携ができている地区という傾向がありました。

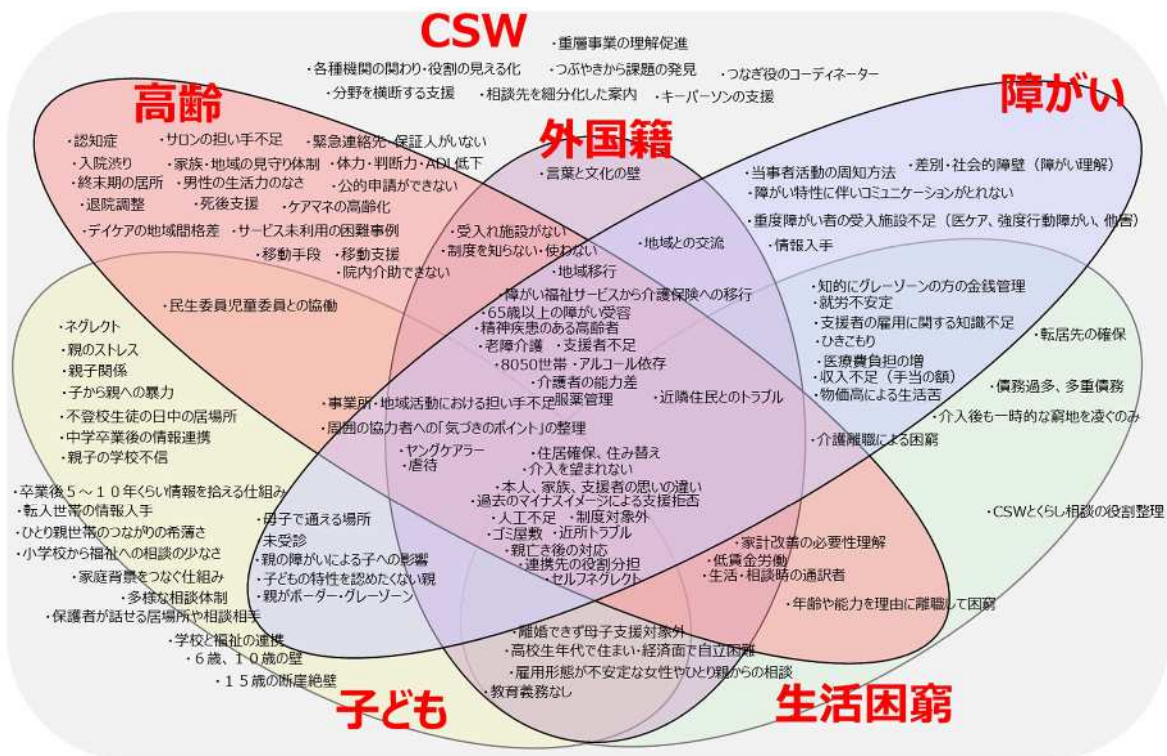
地区別相談者数



(2) 重層的なふくし課題の整理

これまでのふくまる会議や支援会議、その他の会議で専門相談支援機関から共有されたケースや、専門職、事業担当課からの意見を集約しました。下表では、「対象者・状態」、「要因・きっかけ」、「課題」の3項目で整理していますが、それぞれ単一の要因や課題ではなく、個々のケースによって複雑的・複合的に絡み合い、支援困難事例となっています。これらの課題に対応するために、協議する場や支援チームの結成など、包括的支援体制の構築が必要であると考えられました。

対象者・状態	要因・きっかけ	課題
ひとり親世帯 外国籍 80・50世帯 ひきこもり 中卒・若者無業者 不登校 グレーゾーン ダブルケア 社会的孤独・孤立 セルフネグレクト 経済的困窮 ヤングケアラー	虐待 離婚 介護 家族関係（悪化、親の特性・思い等） 病気（末期がん、脳梗塞、うつ、認知症等） 死亡（家族） ストレス・精神疾患 障がい受容できない（認めたくない） 離職（介護離職含む） 世帯内にキーパーソン不在 住居喪失（退去命令・家賃滞納） 多重債務 犯罪・非行 減収 滞納・差押え（税・公共料金）	住居確保（住替え・連帯保証・緊急連絡先） 就労支援（雇用形態・派遣・定着） 社会参加支援 居場所（活躍機会） 金銭管理（家計改善・債務整理） 相談相手（困りごとを聞く） 学校以外の教育の場 緊急時の対応（一時的な窮地・災害等） コミュニケーション支援 未受診・受診干渉 契約行為 同行支援 生活支援（衣食住、生活能力向上） 支援拒否（発見→支援へのつなぎ） 再犯防止 法・制度による支援対象外（制度の狭間）



(3) 課題により推進が必要な施策まとめ

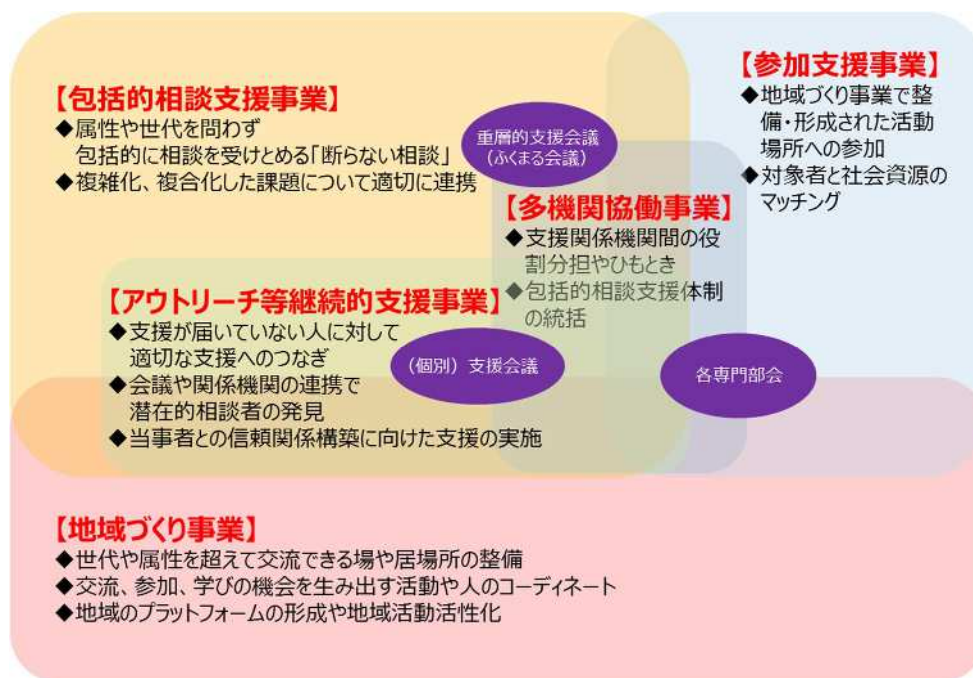
(2) の課題から、以下に掲げる施策を推進する必要があります。

- ① 困っている人の早期発見、早期支援できる仕組み（地域の見守り、アウトリーチ）
- ② ひとりの対象者・世帯をチームで支援する多機関協働（関係機関間の連携）
- ③ 困りごとに関わり続ける体制づくり（伴走支援）
- ④ 社会参加できる地域資源の拡大（地域づくり事業の拡充）
- ⑤ 課題解決が困難な事例や地域課題に対する支援体制の構築（他分野との協働）

第2節 重層的支援体制整備事業とは

重層的支援体制整備事業は、地域共生社会の実現に向け、既存4分野（高齢、障がい、子ども、生活困窮）で対象とならなかった人や、各分野が重なり合って支援していた人を重層的に支援する事業として始まりました。半田市では、各分野の制度の対象とならない「制度の狭間の人」や、一つの家庭の中で複合化した課題を抱えていたり、本人に複数の課題があり、一つの支援機関だけでは解決できない「複雑化・複合化したケース」、本人が困っていない場合や、困り感があるがどこに相談をすればよいのかわからない「セルフネグレクト」などを本事業の対象者に想定しています。

これらの対象者を支援するため、①属性を問わない包括的相談支援、②参加支援、③地域づくりに向けた支援を柱として、これら3つの支援体制を強化するために、④多機関協働事業、⑤アウトリーチ等を通じた継続的支援を新たな機能として、①から⑤までの事業を一体的に実施します。半田市では、これらの事業を効果的に実施するために、以下のように事業を整理し、各事業に連携を持たせ、広く支援ができるように本事業を活用していきます。



第3節 基本方針

第1節のとおり、今まで気づかなかった課題や周囲の協力が得られにくい課題などが見えてきました。これらの課題を解決、もしくは問題化してくる前に支援ができるよう、包括的支援体制の構築を目指します。

そこで、本市では「誰ひとり取りこぼさないまち はんだ」の基本理念のもと、次の5つの基本方針を掲げ、施策を推進していきます。

重層的支援体制整備事業の基本理念 ～ 誰ひとり取りこぼさないまち はんだ ～

- ①身近な地域の中で困っている人に「気づき」、「つなぐ」ことができる体制をつくり、助けてと言えない方には周囲の声を頼りに訪問して支援します。
- ②地域ごとの特徴を活かし、地域住民、行政、事業所などが協力し、それぞれのできることから、困っている人を一歩踏み込んで、重なり合って支援します。
- ③地域の困りごとや困っている人に向き合い、関わり続けます。
- ④住民が「ささえられる」だけでなく、「ささえる」側にもなることで、誰もが役割をもち、「ささえあうまち」をつくれます。
- ⑤福祉分野だけではなく、教育や産業、防災、住まい、多文化共生など分野を超えて、地域住民や企業、事業所などと一緒に、困りごとを解決するしくみをつくれます。

第4節 実施事業と実施体制

重層的支援体制整備事業は、社会福祉法第106条の4第2項の各号で実施する事業が定められているところであり、これらの事業を一体的に実施することで、効果的な実施を進めていきます。それに加え、移行準備事業で見えてきた課題解決のための取組や、既存の活動のうち第3節の基本方針につながる活動について、本事業を効果的・効率的に活用していきます。

(1) 重層的支援体制整備事業と関連して実施する取組

関連する事業	取組	概要	関連する基本方針
包括的 相談支援	ふくし 相談窓口	住民に身近な福祉事業所で、相談できる体制を築きます。また、事業所の利用者等から、潜在的な8050世帯の発見につながるよう、事業所は「気づき」と「傾聴」と「つながぎ」を担います。	①、②、③
地域づくりに 向けた支援	多機関 連携会議	中学校区（2層）を基本として、高齢、障がい、子ども、生活困窮の各分野の事業所が集まり、事業所同士の連携や地域課題について話し合います。それぞれの課題について、地域とともに活動を進めます。	①、②
	ふくし共育	学校や企業、事業所を対象に、福祉職や当事者からの講話や体験、交流を通じて、「ふだんのくらしのしあわせ」について考える機会をつくります。「ふくし」に関する考え方を広め、地域力の向上を図ります。	①、④
	重層子ども 支援会議	特に、子どもがいる世帯の複合的な課題について、今後の対策を協議します。福祉分野だけでなく、幼稚園や保育園、小中学校等とともに、課題解決に向けた体制づくりを進めます。	①、②、⑤
	地域活動	住み慣れた地域でのおたがいさまの関係づくりのために、地域特性や	①、②、④、 ⑤

関連する事業	取組	概要	関連する基本方針
		課題・ニーズに沿った様々な活動やイベント等を実施します。当事者とともに活動し、誰もが活躍できる機会をつくります。	
アウトリーチ等継続的支援事業	支援員の養成	緩やかな伴走支援ができるアウトリーチ支援員を養成し、セルフネグレクトの状態にある人への伴走支援や、孤立・孤独感がある市民への見守りができる体制づくりを進めます。	③
多機関協働事業	重層的支援会議	重層的支援会議で実施する内容ははじめ、地域課題の共有・協議や、重層的支援体制整備事業実施計画の評価等を行います。	②、③、⑤
	支援会議	日ごろのケース会議の中で専門相談・関係機関が連携しても対応が難しいケースについての共有や、地域課題の整理等を行います。	②、③、⑤
	事例検討会	実際の事例を取り上げて事例をひもとき、対象者への評価や介入方法について情報交換を行います。	②、③

(2) 重層的支援体制整備事業の実施に係る支援提供体制に関する事項（社会福祉法第106条の4第2項）

実施事業	実施体制
包括的相談支援（社会福祉法第106条の4第2項第1号イ～ニ）	
地域包括支援センター運営事業（介護保険法第115条の45第2項第1～3号）	【概要】 地域の高齢者の心身の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行う事により、その保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援する。 【機関(窓口)名称】 半田市包括支援センター、半田市南部包括支援センター 【対象圏域】 第2層（中学校区） 【設置箇所数】 2箇所

	【設置形態】 基本型 【運営形態】 委託（半田市社会福祉協議会、椎の木福祉会） 【所管課】 高齢介護課
障害者相談支援事業（障害者総合支援法第77条第1項第3号）	【概要】 障がい者等からの相談に応じ、必要な情報の提供及び助言、障がい福祉サービスの利用支援、虐待の防止など権利擁護のために必要な援助を行う。 【機関(窓口)名称】 半田市障がい者相談支援センター 【対象圏域】 第1層（市全域） 【設置箇所数】 1箇所 【設置形態】 基本型 【運営形態】 委託（半田市社会福祉協議会） 【所管課】 地域福祉課
利用者支援事業（子ども・子育て支援法第59条第1号）	【概要】 子育て家庭の個別ニーズを把握し、教育・保育施設及び地域子育て支援事業等の利用にあたっての情報集約・提供、相談、利用支援・援助等を行う。 【機関(窓口)名称】 子育て支援センター、子育て相談課 【対象圏域】 第1層（市全域） 【設置箇所数】 3箇所 【設置形態】 基本型2箇所、母子保健型1箇所 【運営形態】 直営 【所管課】 子ども育成課、子育て相談課
自立相談支援事業（生活困窮者自立支援法第3条第2項）	【概要】 生活困窮者自立支援法に基づく自立相談支援事業・住居確保給付金事業・家計改善支援事業・就労準備支援事業などの実施により、生活保護に至る前の生活困窮者の自立を支援する。 【機関(窓口)名称】 くらし相談室 【対象圏域】 第1層（市全域） 【設置箇所数】 1箇所 【設置形態】 基本型 【運営形態】 一部委託 【所管部署】 生活援護課
参加支援（社会福祉法第106条の4第2項第2号）	

参加支援事業	【概要】各分野で行われている既存の社会参加に向けた支援では対応できない本人や世帯のニーズ等に対応するため、地域の社会資源などを活用して社会とのつながり作りに向けた支援を行う。 【機関(窓口)名称】 半田市社会福祉協議会 【対象圏域】 第2層(中学校区) 【配置人数】 3名(アウトリーチ等を通じた継続的支援事業及び多機関協働事業と兼務) 【運営形態】 委託(半田市社会福祉協議会) 【所管部署】 地域福祉課
地域づくりに向けた支援(社会福祉法第106条の4第2項第3号イ～ニ及び同号柱書)	
地域介護予防支援事業(介護保険法第115条の45第1項第2号のうち厚生労働大臣が定めるもの)	【概要】地域住民主体で行う介護予防のための「通いの場」を充実させ、人と人のつながりを通じて要介護・要支援状態になっても生きがい・役割を持って生活できる地域の実現を図る。 【事業名称】 サロン活動等推進事業 【対象圏域】 第4層(身近な区域) 【運営形態】 補助(各登録団体) 【所管部署】 健康課
生活支援体制整備事業(介護保険法第115条第2項第5号)	【概要】高齢者の生活支援・介護予防サービスの提供体制の構築に向けたコーディネートを担う生活支援コーディネーターを配置し、課題の抽出、サービスの創出、サービスの担い手の育成、関係者間の協議体の運営などを実施する。 【機関(窓口)名称】 ボランティア地域ささえあいセンター(生活支援コーディネーター) 【対象圏域】 第2層(中学校区) 【配置人数】 5名 【運営形態】 委託(半田市社会福祉協議会) 【所管部署】 高齢介護課
地域活動支援セ	【概要】障がい者に創作的活動又は生産活動の機会を提供し

ンター事業（障害者総合支援法第 77 条第 1 項第 9 号）	社会との交流の促進を図るとともに、日中の居場所として必要な支援及び当事者活動の場を提供する。 【拠点名称】 地域活動支援センター（フリースペース型） 【対象圏域】 第 1 層（市全域） 【設置箇所数】 1 箇所 【設置形態】 委託 【所管部署】 地域福祉課
地域子育て支援拠点事業（子ども・子育て支援法第 59 条第 9 号）	【概要】主に 0 歳から 3 歳の乳幼児とその保護者を対象に地域における親同士の出会いや交流の場を提供する。 また、育児不安や孤立した子育て家庭への不安解消を図る。 【拠点名称】子育て支援センター「はんだっこ」、岩滑こども園子育て支援室「ぴよぴよ」、板山ふれあいセンター、青山児童センター「花・はな」、子育てサポートセンター「たいようの家」、KORO*KORO*はうす 【対象圏域】 第 2 層（中学校区）～第 3 層（小学校区） 【設置箇所数】 6 箇所 【設置形態】 地域型 【運営形態】 直営（一部委託） 【所管部署】 子ども育成課
生活困窮者支援等のための地域づくり事業	【概要】地域におけるつながりの中で、住民が持つ多様なニーズや生活課題に柔軟に対応できるよう、地域住民のニーズ・生活課題の把握、住民主体の活動支援・情報発信、地域コミュニティを形成する居場所づくり、多様な担い手が連携する仕組みづくりを行うことを通じて、身近な地域における共助の取組を活性化させ、地域福祉の推進を図る。 【対象圏域】 第 2（中学校区）～第 3 層（小学校区） 【運営形態】 委託（半田市社会福祉協議会） 【所管課】 地域福祉課
アウトリーチ等を通じた継続的支援（社会福祉法第 106 条の 4 第 2 項第 4 号）	

アウトリーチ等 を通じた継続的 支援事業	【概要】複数分野にまたがる複合化・複雑化した課題を抱えているために必要な支援が届いていない方に支援を届ける。 【機関(窓口)名称】 半田市社会福祉協議会 【対象圏域】 第2層（中学校区） 【配置人数】 3名（参加支援事業及び多機関協働事業と兼務） 【運営形態】 委託（半田市社会福祉協議会） 【所管課】 地域福祉課
多機関協働（支援プラン作成を含む。）社会福祉法第106条の4第2項第5号及び第6号）	
多機関協働事業	【概要】重層的支援体制整備事業に関わる関係者の連携の円滑化を進めるなど、既存の相談支援機関をサポートし、包括的な支援体制を構築する。 【機関(窓口)名称】 地域福祉課、半田市社会福祉協議会 【対象圏域】 第1層（市全域） 【配置人数】 3名（アウトリーチ等を通じた継続的支援事業及び参加支援事業と兼務） 【運営形態】 一部委託（半田市社会福祉協議会） 【所管課】 地域福祉課

第5節 計画の管理・評価に関して

本計画に関しては、地域福祉計画推進委員会を評価機関とし、第4節に掲げる事業について、その内容等について報告し、関係機関間で適切に情報共有することで、進捗管理していきます。

また、重層的支援体制整備事業は地域福祉計画と一体的に推進することが重要であるため、地域福祉計画の策定・見直し時に一体的に見直しすることとします。

〔 評価指標 〕

事業	現状	目標 (R13)
○多機関協働事業 支援会議の実施回数	10 件	50 件
○アウトリーチ等継続的支援事業 アウトリーチ等継続的支援の 対象者数	115 人	100 人※
○参加支援事業 参加支援事業の対象者数	10 件	20 件

※早期発見体制の強化により、アウトリーチ等継続的支援の対象者数の減少を目指す。

アンケート結果

第3次半田市地域福祉計画策定
市民アンケート調査

報 告 書

令和7年3月
半田市

目次

I	調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査対象	1
3	調査期間	1
4	調査方法	1
5	回収状況	1
6	調査結果の表示方法	1
II	市民アンケート調査結果	2
1	回答者自身について	2
2	日常生活について	6
3	自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について	18
4	災害時における助け合いについて	40
5	地域の課題について	43
6	半田市地域福祉計画について	47

参考資料（アンケート調査票）

I 調査の概要

1 調査の目的

第3次半田市地域福祉計画の策定にあたり、市民意識を調査して基礎資料を得ることを目的とする。

2 調査対象

18歳以上の市民2,000人を対象に無作為に抽出した。

3 調査期間

令和6年12月5日に発送し、令和7年1月10日を投函締切とした。

4 調査方法

郵送配布、郵送回収、オンライン回収

5 回収状況

	配付数	有効回収数	有効回収率
市民アンケート調査 ※うち外国籍7票	2,000票	631票 (紙 : 408票 オンライン : 223票)	31.5%

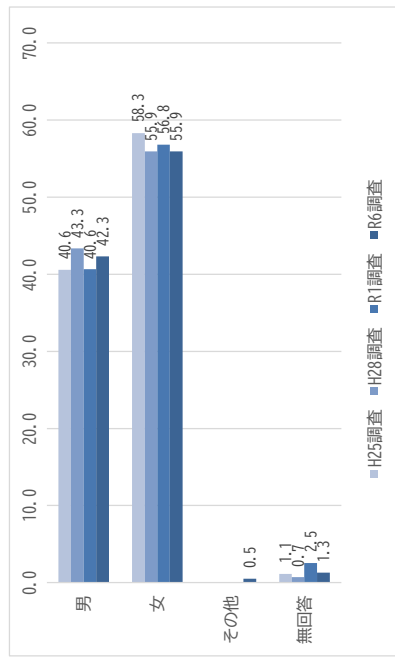
6 調査結果の表示方法

- ・集計結果の%表示は、小数点以下第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な設問の場合、すべての比率の合計が100.0%にならない場合がある。
- ・クロス集計の場合、無回答を除いているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目を組み合わせて分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表などを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法のこと。

Ⅱ 市民アンケート調査結果

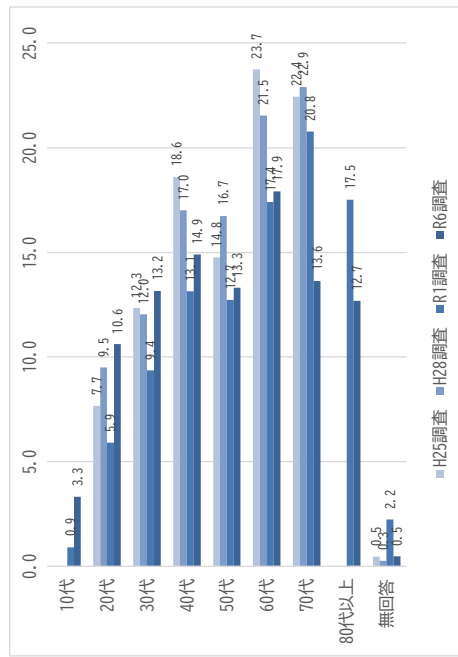
1 回答者自身について

(問1) 性別



今回の調査における回答者の性別は、男性が42.3%、女性が55.9%、その他が0.5%、無回答が1.3%となっている。

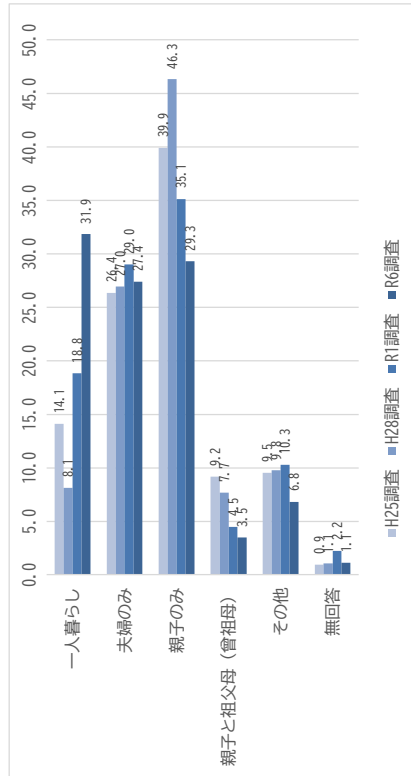
(問2) 年齢（令和7年1月1日現在の満年齢）



H25調査及びH28調査では「80代以上」の選択肢を設けずに「70代以上」としていたため、年齢構成の詳細は不明だが、70代と80代以上の合計は、R1調査で38.3%、R6調査で26.3%であり、H25調査及びH28調査を上回っている。

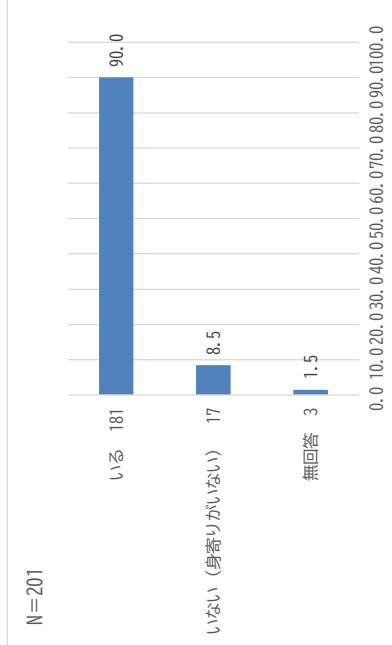
また、今までの調査の中で最も10代、20代、30代の年齢構成が高いのは、今回の調査から紙とオンラインによる回答方法を併用したことが考えられる。

(問3) 家族構成



「一人暮らし」と回答した方が31.9%で、今までの調査の中で最も高い構成比である。また、親子のみと回答した方が29.3%であり、H28調査から1.6倍減少している。

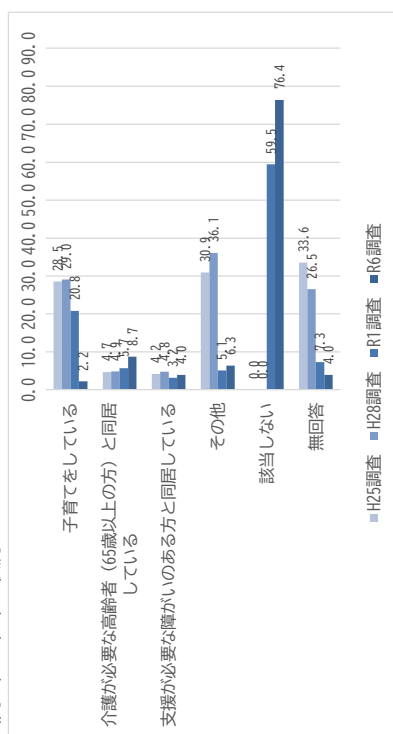
(問3) —1 「一人暮らし」で緊急時に連絡が取れる親族はいるか



今回の調査で初めて設けた設問項目である。

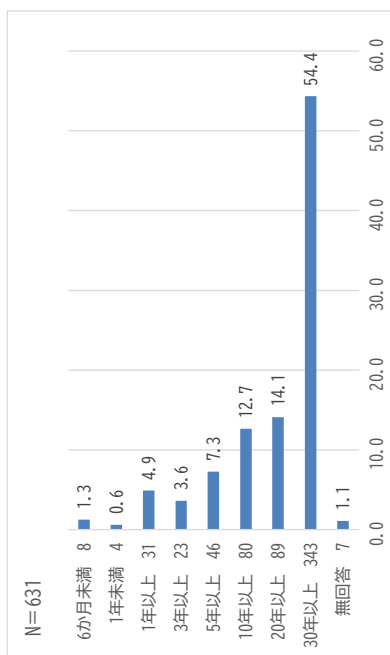
問3で「一人暮らし」と回答した方のうち、緊急時に連絡が取れる親族が「いない（身寄りがいない）」と答えた方が8.5%となっている。

(問4) 世帯の状況



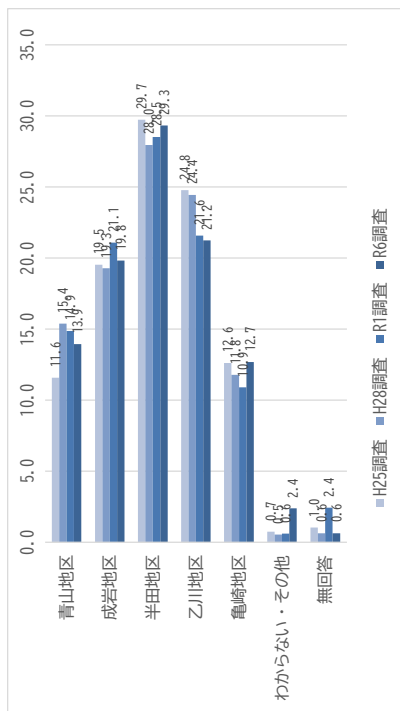
「子育てをしている」と回答した方が2.2%となっており、R1調査と比較して9.5倍減少している。また、「介護が必要な高齢者 (65歳以上の方) と同居している」と回答した方が8.7%であり、H25調査から徐々に増加している。

(問5) 在住年数



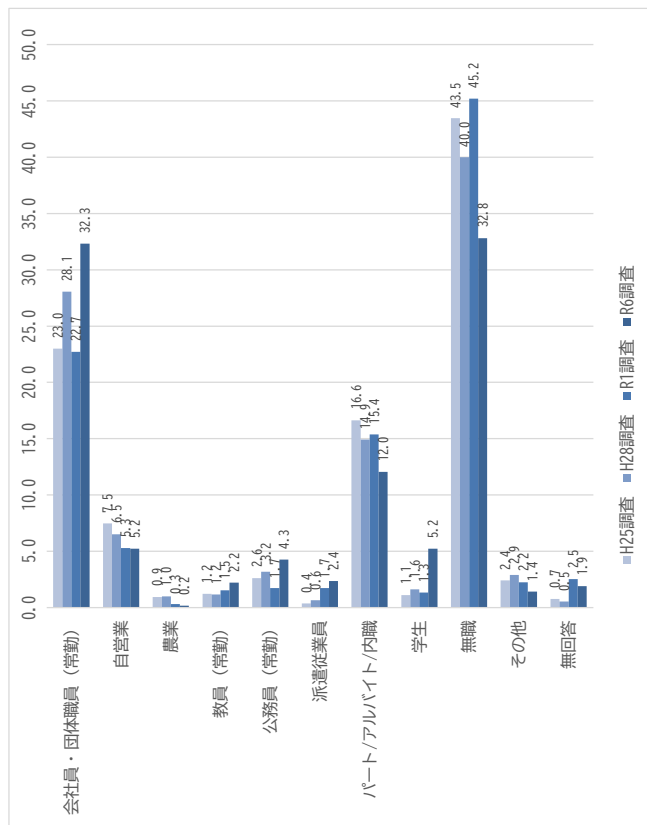
今回の調査で初めて設けた設問項目である。
回答者の属性は半数以上 (54.4%) が30年以上と回答している。また、回答者の割合は、在住年数が徐々に増加する傾向となっている。

(問6) 居住地区 (中学校区)



回答者の居住地区は半田地区、乙川地区、成岩地区、青山地区、亀崎地区の順になっている。また、今回の調査では、「わからない・その他」と回答した層が例年の約4倍となっている。

(問7) 職業

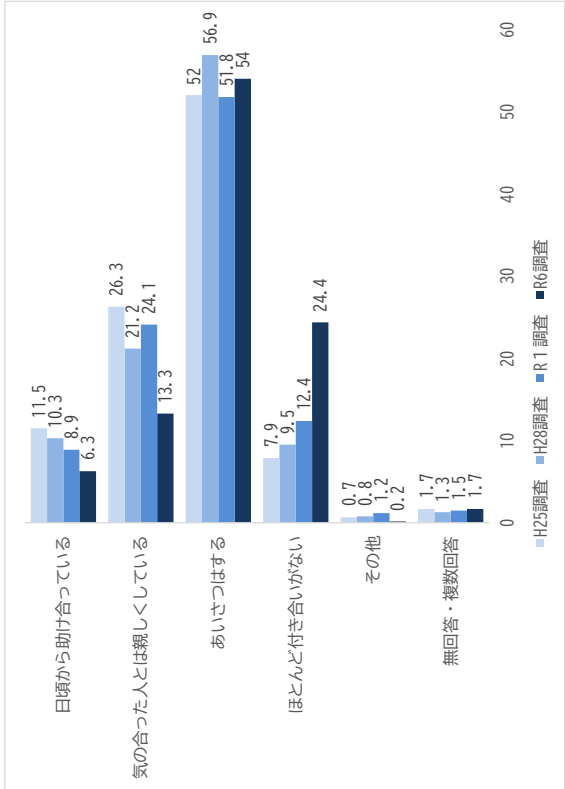


「無職」と回答した方が最も多く、次いで「会社員・団体職員 (常勤)」、「パート/アルバイト/内職」となっている。また、学生の構成比が5.2%で、R1調査から4倍となっている。他にも、派遣従業員が年々増加している。

2 日常生活について

問8 近隣の人は、どの程度付き合いをしていますか。(1つの番号に○)

単位：％



年齢別

	有効回答数	日頃から助け合っている	気の合った人とは親しくしている	あいさつはする	ほとんど付き合いがない	その他	無回答・複数回答
10代～20代	88	2.3	2.3	58.0	35.2	0.0	2.3
30代	83	4.8	0.0	57.8	36.1	0.0	1.2
40代	94	5.3	11.7	44.7	37.2	1.1	0.0
50代	84	1.2	8.3	71.4	19.0	0.0	0.0
60代	113	7.1	21.2	57.5	13.3	0.0	0.9
70代	86	10.5	19.8	51.2	16.3	0.0	2.3
80代以上	79	11.4	29.1	39.2	13.9	0.0	6.3

「ほとんど付き合いがない」は、24.4%であり、R1調査時の12.4%から約2倍、H25調査時の7.9%から3.1倍に増加している。

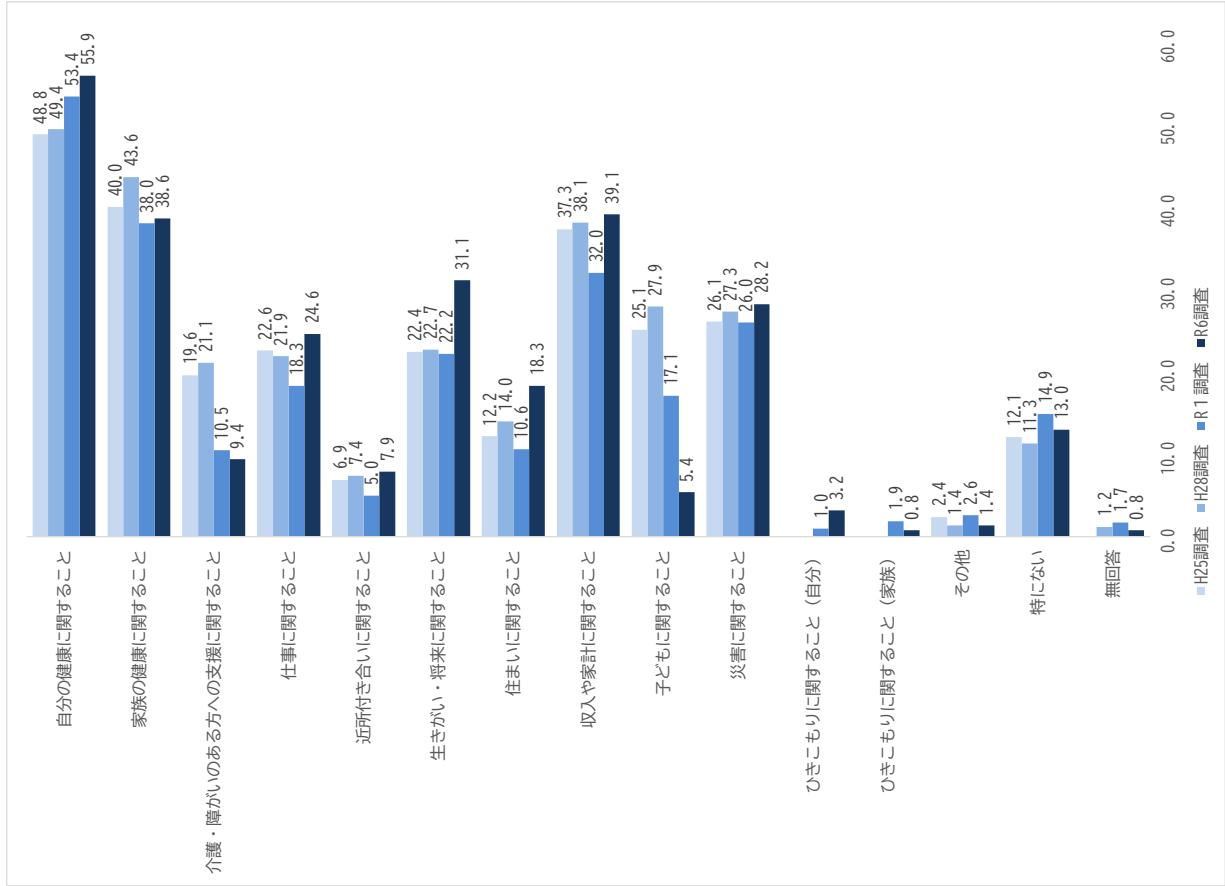
「日頃から助け合っている」「気の合った人とは親しくしている」は、合計で19.6%となっており、H25調査の37.8%から1.9倍減少している。

年齢別では、10代～20代、30代、40代は「ほとんど付き合いがない」の割合が30%以上となっている。

問9 あなたは、日常生活の中で、どのような悩みや不安を感じていますか。

(あてはまるすべての番号に○)

単位：％



	有効回答数（件）	自分の健康に関すること	家族の健康に関すること	介護に関すること	仕事に関すること	近所づきあいに関すること	生きがい・将来に関すること	住まいに関すること	収入や家計に関すること	子供に関すること	災害に関すること	ひきこもりに関すること（自分）	ひきこもりに関すること（家族）	その他	特にな	無回答
10代～20代	88	30.7	27.3	8.0	28.4	5.7	45.5	14.8	44.3	4.5	29.5	1.1	0.0	0.0	20.5	0.0
30代	83	51.8	36.1	3.6	45.8	3.6	43.4	24.1	50.6	3.6	34.9	3.6	2.4	1.2	14.5	0.0
40代	94	53.2	48.9	11.7	38.3	11.7	36.2	17.0	45.7	6.4	30.9	8.5	0.0	2.1	6.4	1.1
50代	84	57.1	53.6	20.2	39.3	7.1	25.0	22.6	45.2	8.3	36.9	1.2	1.2	2.4	9.5	0.0
60代	113	58.4	40.7	5.3	12.4	4.4	30.1	12.4	32.7	4.4	23.0	0.9	0.9	1.8	14.2	0.9
70代	86	69.8	34.9	5.8	8.1	9.3	19.8	23.3	34.9	5.8	19.8	3.5	0.0	1.2	15.1	0.0
80代以上	80	70.0	28.8	11.3	0.0	13.8	17.5	13.8	20.0	5.0	22.5	3.8	1.3	1.3	11.3	3.8

R1 調査と比べて、「仕事に関すること」は 18.3%から 24.6%と増加している。また、「住まいに関すること」も 10.6%から 18.3%と増加している。

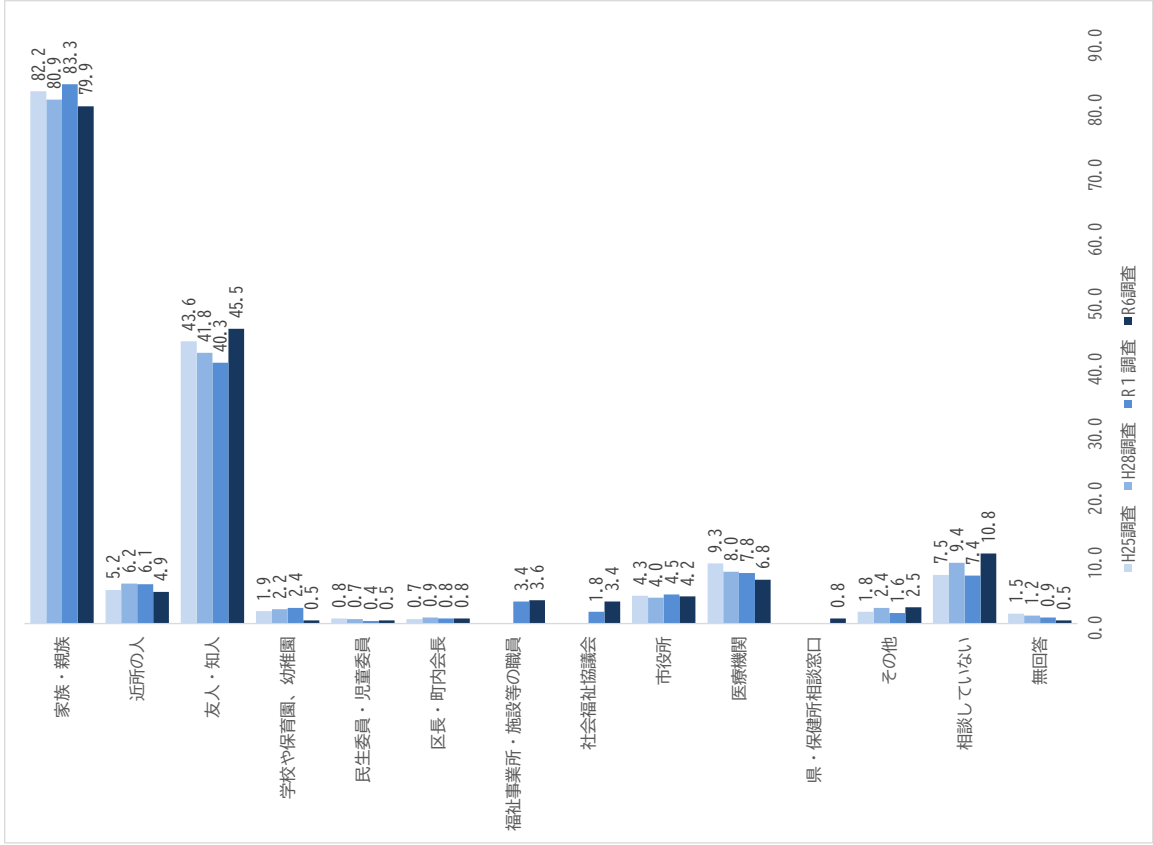
「自分の健康に関すること」は、55.9%とアンケート調査の度に増加している。

「介護・障がいのある方への支援に関すること」は、H28 調査の 21.1%から 9.4%と半減している。

「子どもに関すること」は、H25 調査では 25.1%、H28 調査では 27.9%となっているが、R6 調査では 5.4%と減少している。

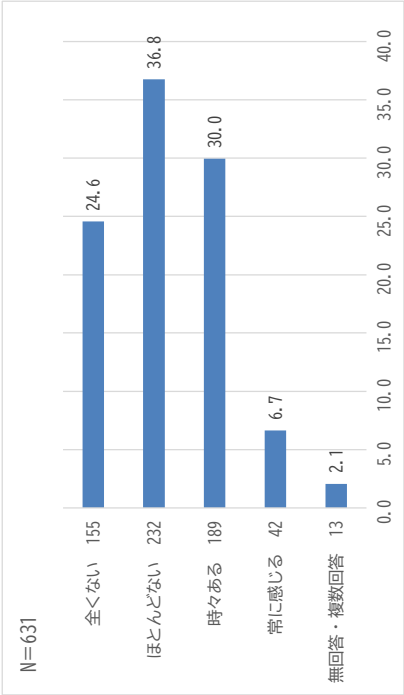
問 10 あなたは困ったことがあるとき、誰に相談していますか。（あてはまるすべての番号に○）

単位：%



「福祉事業所」、「社会福祉協議会」は、R1 調査より増加しており、相談窓口の認識に対して変化がみられる。「家族・親族」や「近所の人」は微減となっており、「友人・知人」は R1 調査の 40.3%から、R6 調査の 45.5%と増加している。

問 11 自分が孤独であると感じることがありますか。(1つの番号に○) 単位：%

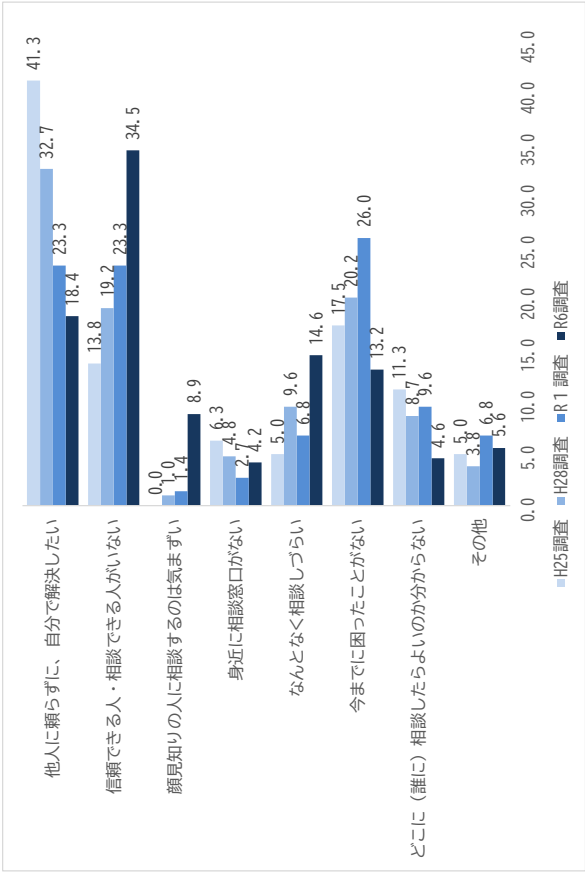


年齢別

	有効回答数（件）	全くない	ほとんどない	時々ある	常 に 感 じ る	無 回 答 ・ 複 数 回 答
10代～20代	88	36.4	33.0	25.0	4.5	1.1
30代	83	25.3	37.3	30.1	7.2	0.0
40代	94	27.7	23.4	43.6	5.3	0.0
50代	84	25.0	33.3	34.5	4.8	2.4
60代	113	27.4	40.7	23.0	5.3	3.5
70代	86	15.1	45.3	27.9	9.3	2.3
80代以上	80	13.8	45.0	26.3	11.3	3.8

「ほとんどない」が36.8%と最も多く、次いで「時々ある」が30.0%となっている。
年齢別では、40代は「時々ある」「常を感じる」が48.9%、50代は39.3%となっており、他の年代より多い。

問 10 で「相談していない」と答えた方にお聞きします。 単位：%
問 10-1 なぜ、相談していないのですか。(1つの番号に○)

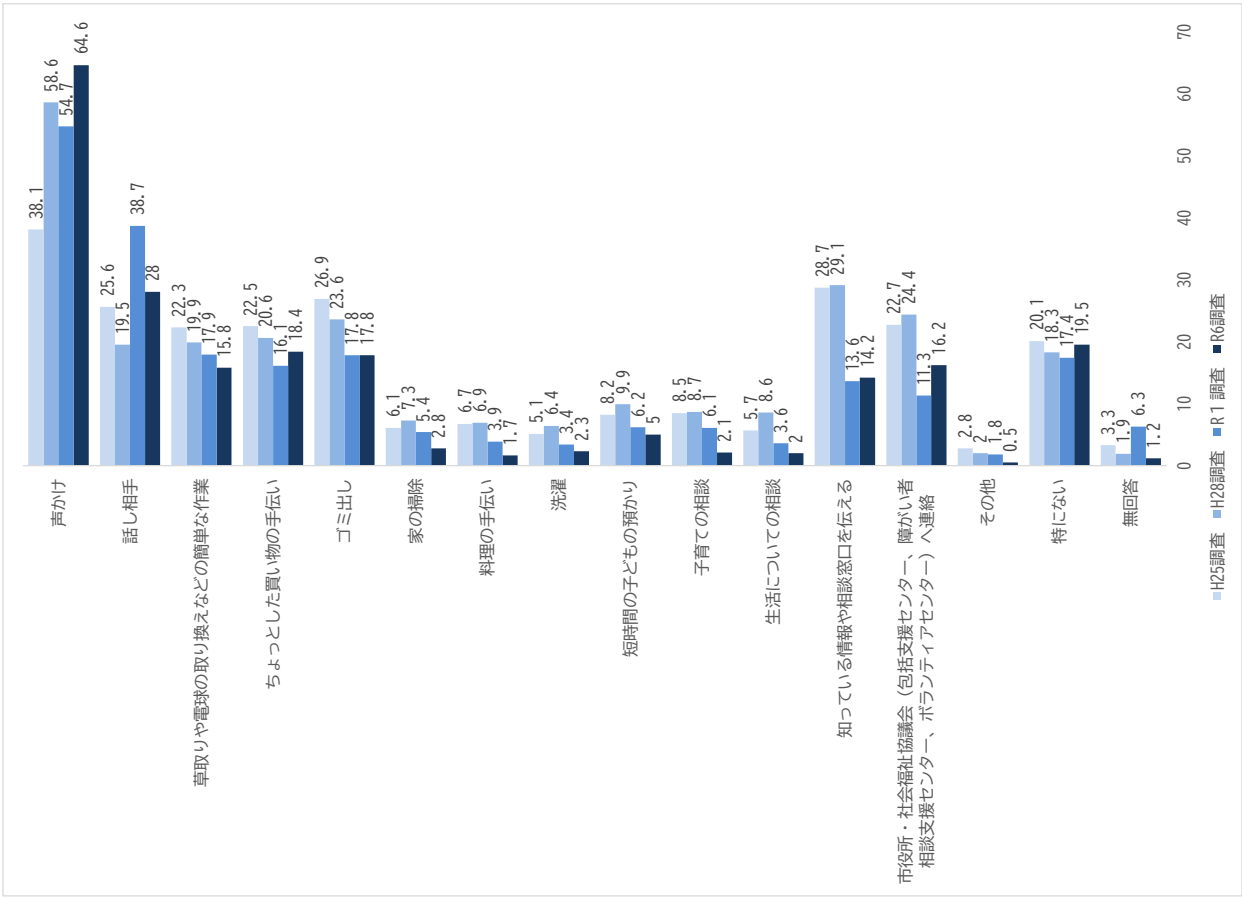


年齢別

	有効回答数（件）	決めた人に頼らず、自分で解決したい	信頼できる人・相談できない人・相談できない人	顔見知りの人に相談する	身近に相談窓口がない	何となく相談しづらい	今までに困ったことがない	どこに（誰に）相談したらよいかわからない	その他	無回答
10代～20代	5	0.0	80.0	0.0	0.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
30代	9	0.0	33.3	11.1	0.0	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0
40代	7	14.3	14.3	14.3	0.0	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0
50代	7	14.3	42.9	28.6	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0
60代	3	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
70代	12	33.3	25.0	8.3	16.7	8.3	16.7	8.3	0.0	0.0
80代以上	8	0.0	12.5	0.0	12.5	37.5	25.0	12.5	25.0	0.0

R6 調査では「信頼できる人・相談できる人がいない」が34.5%、「なんとなく相談しづらい」が14.6%となっており、過去の調査と比較して増加している。

問 12 近所の人のちょっとした困りごと支援や助け合い活動として、あなたができることと思うことは何ですか。
単位：％



年齢別

	有効回答数（件）	声かけ	話し相手	ど章の取り簡単な電球の取り換えな	ちょっとした買った買物の手伝	ゴミ出し	家の掃除	料理の手伝い	洗濯	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	生活についての相談	口知をつづける情報や相談窓	市役所・社協へ連絡	その他	無回答
10代～20代	29	58.6	24.1	13.8	10.3	6.9	0.0	0.0	0.0	3.4	3.4	0.0	13.8	17.2	0.0	0.0
30代	31	35.5	29.0	6.5	16.1	16.1	3.2	0.0	0.0	0.0	0.0	3.2	6.5	16.1	0.0	3.2
40代	22	59.1	18.2	18.2	22.7	18.2	4.5	4.5	9.1	13.6	0.0	4.5	22.7	22.7	0.0	0.0
50代	28	75.0	28.6	14.3	25.0	17.9	0.0	0.0	0.0	3.6	0.0	0.0	10.7	7.1	3.6	0.0
60代	46	80.4	34.8	26.1	26.1	28.3	6.5	2.2	2.2	6.5	8.7	6.5	19.6	15.2	0.0	0.0
70代	39	76.9	33.3	17.9	23.1	23.1	2.6	2.6	5.1	5.1	2.6	0.0	15.4	15.4	0.0	2.6
80代以上	36	66.7	27.8	13.9	5.6	13.9	2.8	2.8	0.0	2.8	0.0	0.0	11.1	19.4	0.0	2.8

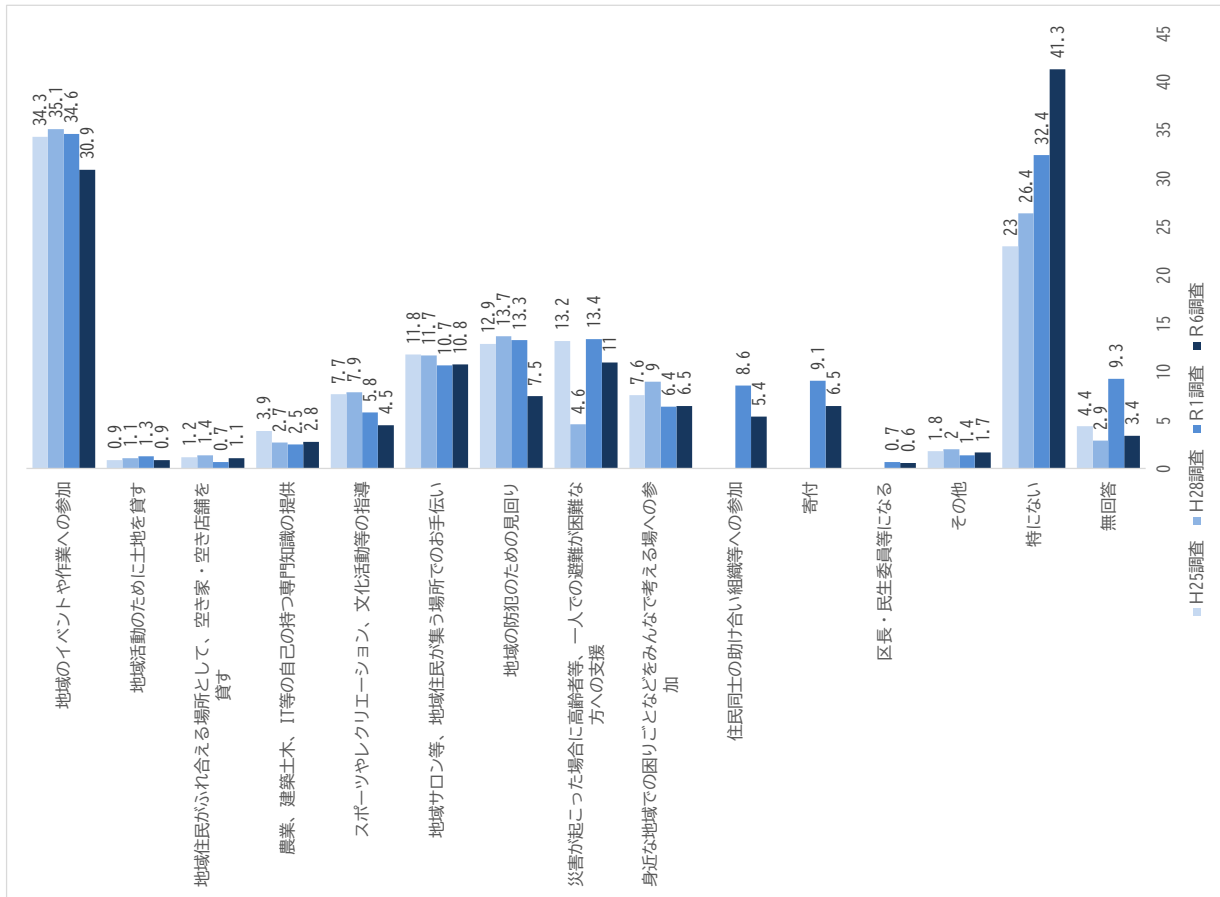
居住地区別

	有効回答数（件）	声かけ	話し相手	ど章の取り簡単な電球の取り換えな	ちょっとした買った買物の手伝	ゴミ出し	家の掃除	料理の手伝い	洗濯	短時間の子どもの預かり	子育ての相談	生活についての相談	口知をつづける情報や相談窓	市役所・社協へ連絡	その他	無回答
亀崎地区	80	63.8	41.3	26.3	25.0	18.8	5.0	3.8	7.5	3.8	0.0	1.3	18.8	13.8	0.0	1.3
乙川地区	134	61.9	25.4	14.2	14.9	14.9	2.2	0.7	0.7	4.5	3.0	2.2	13.4	13.4	0.7	1.5
半田地区	184	59.8	31.5	17.4	18.5	16.8	3.3	2.2	2.7	4.9	1.6	2.7	16.3	14.1	2.2	1.6
成岩地区	125	69.6	40.8	16.0	17.6	24.0	8.8	5.6	4.8	5.6	3.2	3.2	18.4	16.0	0.8	0.8
青山地区	88	61.4	23.9	21.6	12.5	14.8	6.8	3.4	2.3	2.3	1.1	1.1	12.5	14.8	0.0	0.0

「声かけ」や「話し相手」「知っている情報や相談窓口を伝える」など、コミュニケーションでできることは増
加している。一方で、「家の掃除」や「料理の手伝い」などの活動を伴うできることは減少している。
地区別でみると、「亀崎地区」や「成岩地区」では「話し相手」や「ゴミ出し」「ちょっとした買物のお手伝
い」などの割合が高い。

問13 あなたは、今後どのようなことで地域に貢献できると思いますか。
(あてはまるすべての番号に○)

単位：％



年齢別

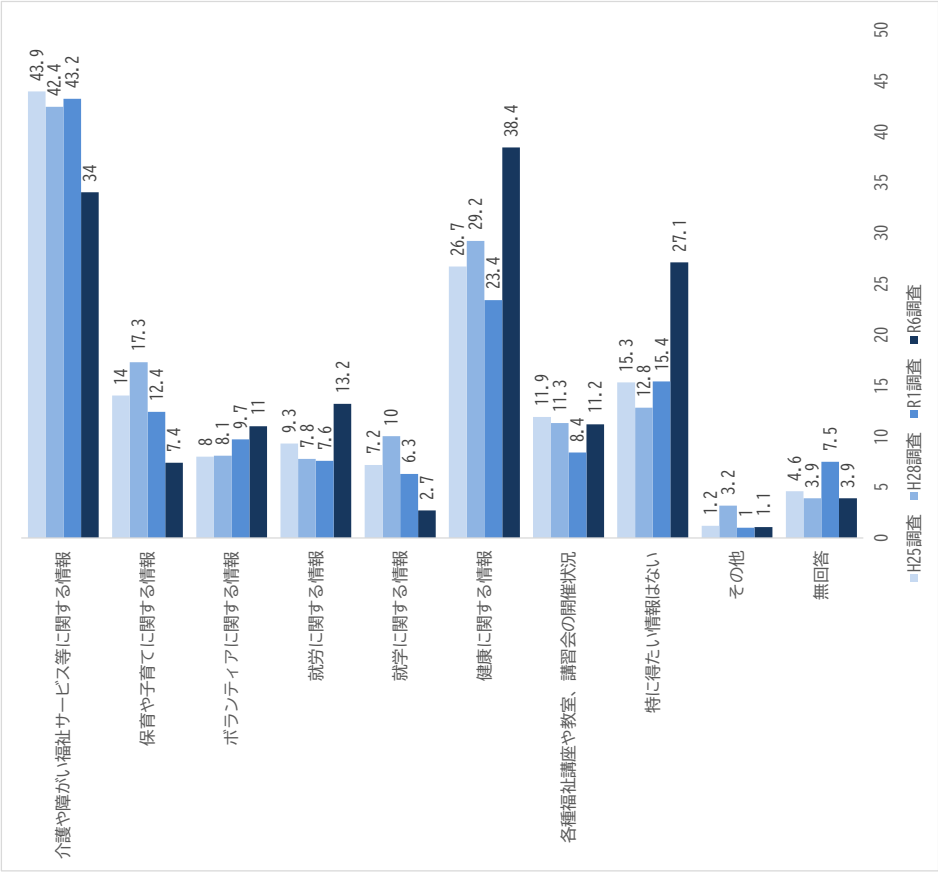
	有効回答数（件）	参加地域のイベントや作業への参加	地域活動のための土地を貸す	地域住民がふれ合える場所として、空き家・空き店舗を貸す	自己の持つ専門知識の提供	農業、建築土木、IT等の指導	スポーツやレクリエーション、文化活動等の指導	地域サロン等、地域住民が集う場所でのお手伝い	地域の防犯のための見守り	災害が起こった場合に高齢者等、一人での避難が困難な方への支援	参加しなで考える場への参加	身近な地域での困りごとを住民同士の助け合い組織等への参加	寄付	区長・民生委員等になる	その他	特にない	無回答
10代～20代	88	44.3	1.1	1.1	5.7	10.2	5.7	6.8	17.0	0.0	5.7	3.4	2.3	0.0	37.5	0.0	
30代	83	25.3	0.0	1.2	0.0	7.2	10.8	1.2	10.8	1.2	2.4	8.4	0.0	0.0	45.8	1.2	
40代	94	29.8	4.3	4.3	5.3	3.2	13.8	8.5	17.0	2.1	5.3	13.8	1.1	1.1	38.3	3.2	
50代	84	36.9	1.2	0.0	2.4	1.2	10.7	9.5	8.3	16.7	7.1	7.1	0.0	3.6	38.1	2.4	
60代	113	32.7	0.0	0.9	1.8	2.7	13.3	15.0	7.1	8.8	4.4	0.9	0.9	38.1	2.7		
70代	86	24.4	0.0	0.0	3.5	5.8	11.6	10.5	4.7	7.0	3.5	4.7	0.0	2.3	45.3	5.8	
80代以上	80	22.5	0.0	0.0	1.3	1.3	5.0	2.5	3.8	11.3	5.0	3.8	0.0	3.8	46.3	8.8	

居住地別

	有効回答数（件）	参加地域のイベントや作業への参加	地域活動のための土地を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	を貸す を貸す を貸す	無回答
龜峰地区	80	37.5	0.0	3.8	3.8	10.0	12.5	8.8	11.3	5.0	6.3	1.3	1.3	40.0	3.8	
乙川地区	134	31.3	0.7	0.7	3.7	11.9	11.2	11.2	16.4	7.5	9.7	0.7	2.2	44.0	3.0	
半田地区	184	28.8	1.1	3.8	4.9	17.0	8.7	6.0	10.9	5.4	10.3	0.5	2.2	40.8	3.3	
成岩地区	125	34.4	0.8	3.2	4.0	11.6	12.0	8.8	15.2	4.8	8.0	0.8	0.8	36.0	2.4	
青山地区	88	27.3	2.3	3.4	5.7	20.8	15.9	15.9	9.1	3.4	4.5	0.0	0.0	45.5	4.5	

「特にない」は41.3%となっており、R1調査の32.4%より増加している。
年齢別では、「特にない」の中でも「30代」「70代」「80代以上」の割合が40%以上となっている。

問 14 あなたは福祉に関してどのような情報を得たいですか。(あてはまるすべての番号に○) 単位：％



年齢別

	有効回答数（件）	介護や障害サービスに関する情報	保育や子育てに関する情報	ボランティアに関する情報	就労に関する情報	就学に関する情報	健康に関する情報	各種福祉講座や教室、講習会の開催情報	特に得たい情報はない	その他	無回答
10代～20代	88	18.2	23.9	11.4	22.7	9.1	33.0	4.5	37.5	0.0	0.0
30代	83	7.2	18.1	10.8	16.9	1.2	39.8	7.2	33.7	0.0	1.2
40代	94	40.4	4.3	10.6	19.1	5.3	40.4	13.8	27.7	3.2	3.2
50代	84	54.8	2.4	9.5	15.5	2.4	35.7	17.9	23.8	0.0	1.2
60代	113	38.9	1.8	14.2	11.5	0.9	41.6	12.4	22.1	0.9	0.9
70代	86	40.7	1.2	14.0	7.0	0.0	43.0	14.0	22.1	0.0	3.5
80代以上	80	37.5	0.0	6.3	0.0	0.0	35.0	8.8	22.5	3.8	17.5

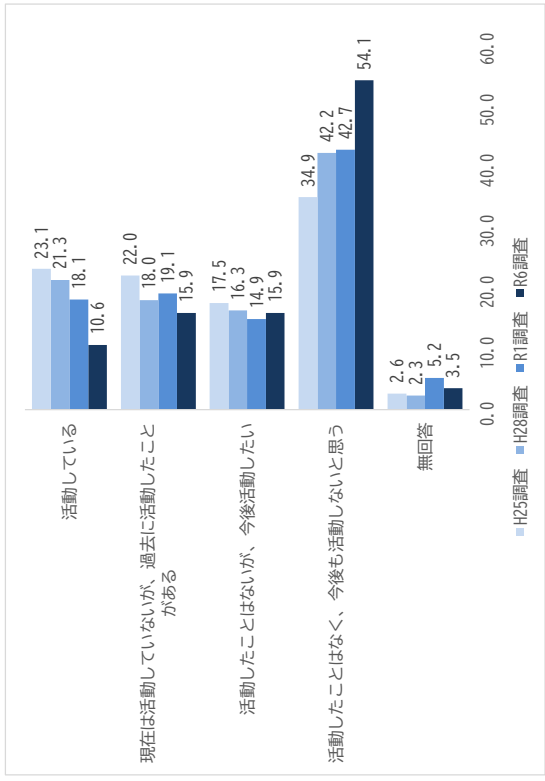
「健康に関する情報」がR1調査では2番目に多い23.4%であったが、今回の調査では最も多い38.4%になっている。

また、R1調査で最も多かった「介護や障がい福祉サービスに関する情報」43.2%は、R6調査では34%で2番目に多い項目となっている。

3番目に多いのは「特に得たい情報はない」になっており、R1調査の15.4%から27.1%と増加している。「年齢別」では「介護や障がいサービスに関する情報」は40代以降で40%前後と高い数字になっているが、30代では7.2%、10～20代では18.2%と低くなっている。

3 自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動について

問15 あなたは、自治区やコミュニティなどで地域の活動をしていますか。(1つの番号に○) 単位：%



年齢別

	有効回答数（件）	活動している	過去には活動していたことがあ	後活動したことはないが、今	も活動しないと思う、今	無回答
10代～20代	87	3.4	17.2	17.2	62.1	0.0
30代	83	2.4	4.8	15.7	75.9	1.2
40代	94	10.6	8.5	22.3	54.3	4.3
50代	84	15.5	15.5	19.0	50.0	0.0
60代	113	12.4	25.7	19.5	39.8	2.7
70代	86	18.6	18.6	14.0	46.5	2.3
80代以上	80	11.3	21.3	3.8	50.0	13.8

居住地区別

	有効回答数（件）	活動している	過去には活動していたことがあ	後活動したことはないが、今	も活動しないと思う、今	無回答
亀崎地区	80	10.0	15.0	17.5	53.8	3.8
乙川地区	134	11.2	17.2	14.9	52.2	4.5
半田地区	185	11.4	16.2	15.7	53.5	3.2
成岩地区	125	8.8	19.2	19.2	49.6	3.2
青山地区	88	11.4	11.4	14.8	60.2	2.3

自由になる時間帯別

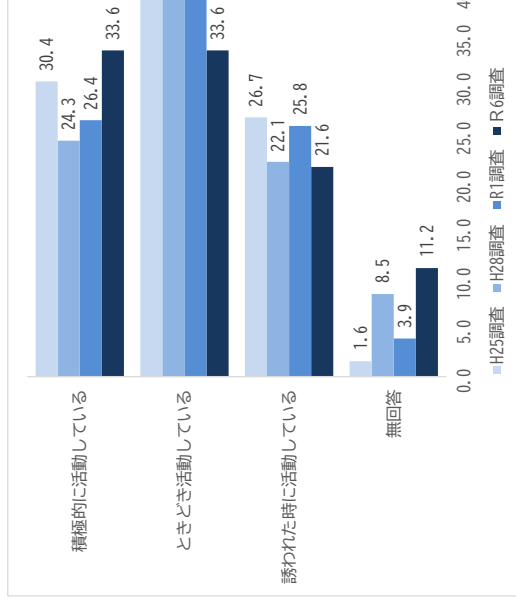
	有効回答数（件）	活動している	過去には活動していたことがあ	後活動したことはないが、今	も活動しないと思う、今	無回答
平日の午前	65	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6
平日の午後	47	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6
平日の夜間	22	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6
土曜日の午前	73	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6
土曜日の午後	84	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6
土曜日の夜間	39	17.9	10.3	38.5	30.8	2.6
日曜・祝日の午前	76	9.2	10.5	15.8	39.5	1.3
日曜・祝日の午後	72	11.1	12.5	30.6	45.8	0.0
日曜・祝日の夜間	21	14.3	4.8	42.9	38.1	0.0
時間は特に関係ない	111	15.3	16.2	12.6	55.9	0.0
活動する時間はない	198	4.0	19.7	7.6	67.7	1.0
無回答	57	8.8	15.8	5.3	50.9	19.3

問15-1～3は、問15で「活動している」と答えた方にお聞きます。

問 15-1 どの程度活動をしていますか。(1つの番号に○)

積極的に活動している

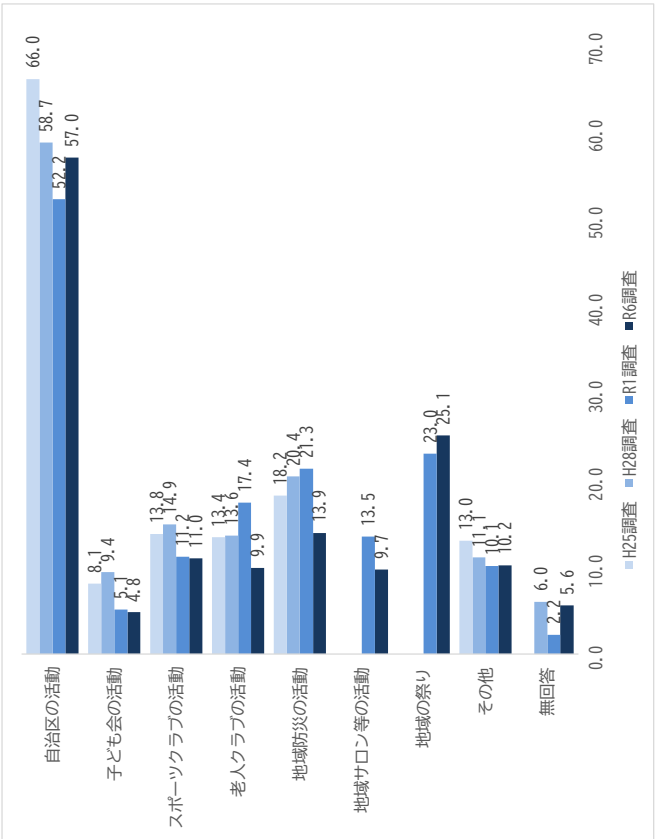
Category	Percentage (%)
積極的に活動している	30.4
活動していない	24.3
不明	26.4



R1 調査で最も多かった「ときどき活動している」43.8%が、R6 調査で目に多かった「積極的に活動している」26.4%から増加し、同じ数値と

問 15-2 どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべての番号に○)

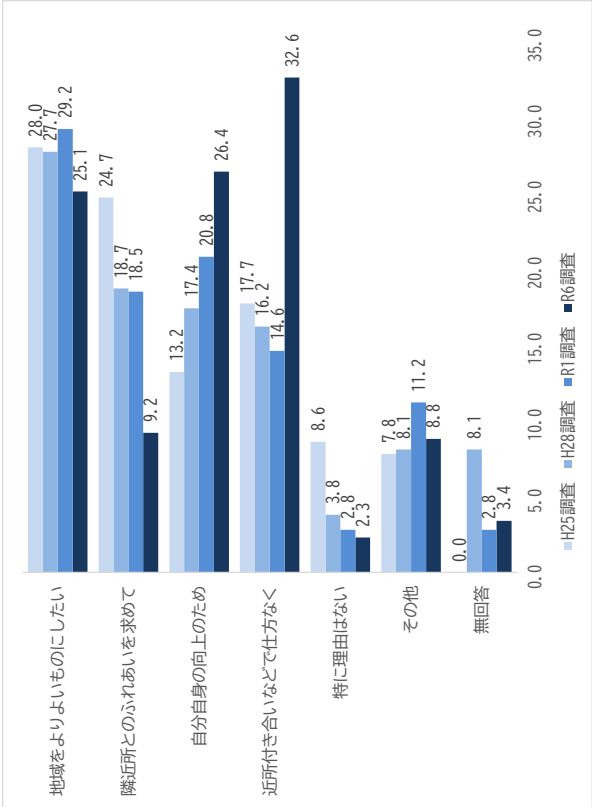
単位：％



「自治区の活動」が最も多く57.0%になっている。
「子ども会の活動」「スポーツクラブの活動」「老人クラブの活動」「地域防災の活動」「地域サロン等の活動」はこれまでの調査結果では一番少なくなっている。「地域の祭り」は2.1%と微増であった。

問 15-3 どのような目的で活動していますか。(1つの番号に○)

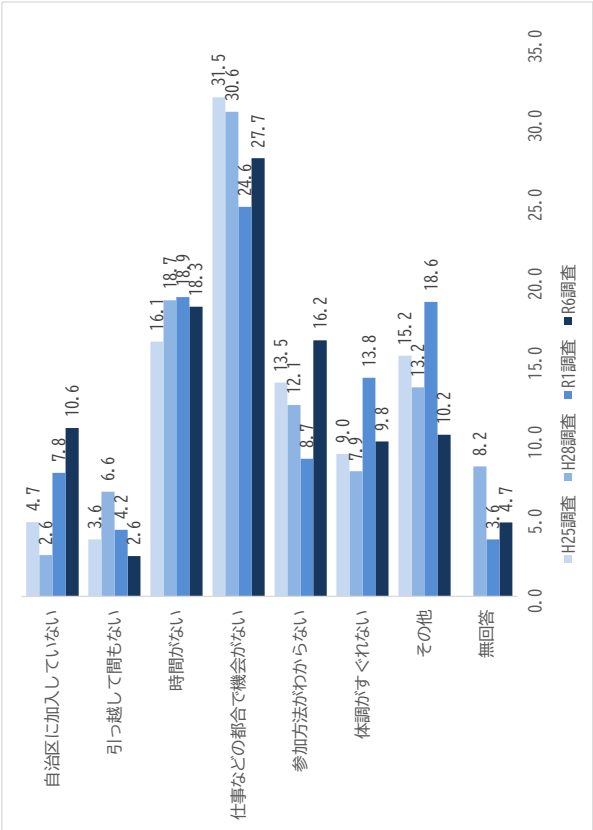
単位：％



R6 調査では、「自分自身の向上のため」「近所づきあいなどで仕方なく」と回答した方の割合が増加している。
一方、「地域をよりよいものにする」「隣近所とのふれあいを求めて」と回答した方はこれまでの調査の中で最も低い割合となっている。

問 15 で「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」「活動したことがないが、今後活動したい」と答えた方にお聞きします。

問 15-4 現在活動していない主な理由は何ですか。(1つの番号に○) 単位：%



年齢別

	有効回答数（件）	自治区に加入していない	引越して間もない	時間がない	仕事などの都合で機会がない	参加方法がわからない	体調がすぐれない	その他	無回答
10代～20代	84	3.6	3.6	16.7	0.0	2.4	0.0	0.0	64.3
30代	80	7.5	1.3	5.0	1.3	5.0	1.3	0.0	78.8
40代	80	6.3	1.3	8.8	1.3	11.3	1.3	3.8	62.5
50代	71	2.8	0.0	19.7	0.0	8.5	0.0	4.2	59.2
60代	96	4.2	1.0	21.9	8.3	6.3	8.3	8.3	51.0
70代	69	4.3	0.0	10.1	7.2	5.8	7.2	8.7	63.8
80代以上	60	3.3	0.0	3.3	13.3	1.7	13.3	6.7	71.7

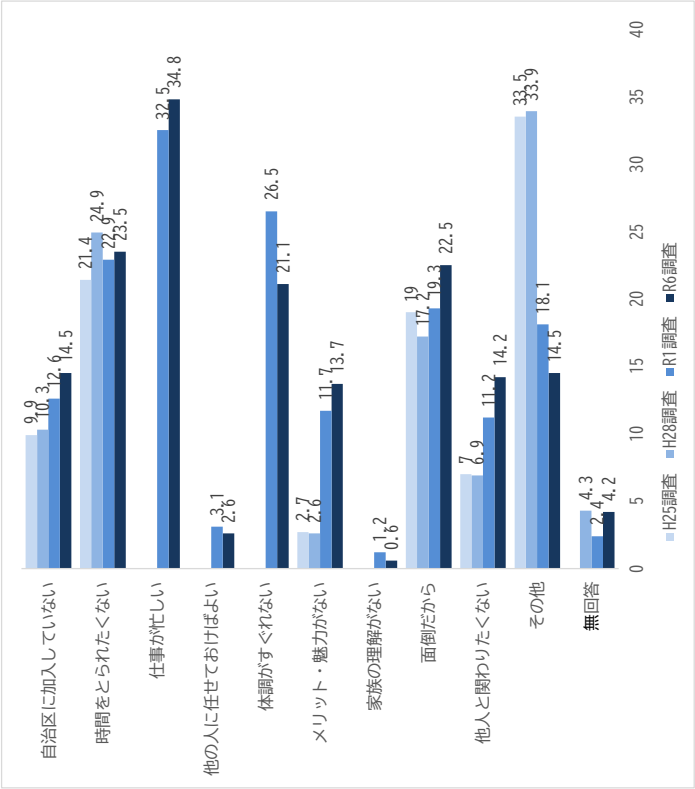
居住地区別

	有効回答数（件）	自治区に加入していない	引越して間もない	時間がない	仕事などの都合で機会がない	参加方法がわからない	体調がすぐれない	その他	無回答
亀崎地区	80	0.0	0.0	11.3	8.8	7.5	6.3	3.8	68.8
乙川地区	134	3.7	0.0	6.0	11.2	3.7	1.5	3.7	71.6
半田地区	185	4.3	1.1	3.8	10.3	5.4	5.4	4.9	68.6
成岩地区	125	4.8	1.6	12.0	7.2	8.8	3.2	3.2	64.0
青山地区	88	4.5	0.0	3.4	12.5	4.5	2.3	2.3	73.9

「年齢別」にみると、「30代」では「自治区に加入していない」と回答された方の割合が他の年代より高く、「40代」では「参加方法がわからない」と回答された方の割合が高い。

「居住地区別」にみると、亀崎地区、成岩地区では「時間がない」の割合が最も高く、乙川地区、半田地区、青山地区では「仕事などの都合で機会がない」の割合が最も高い。

問 15-5 今後も活動しないと思う理由は何ですか。(1つの番号に○) 単位：%



年齢別

	有効回答数（件）	自治区に加入していない	時間をとられたくない	仕事忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	メリット・魅力がない	家族の理解がない	面倒だから	他人と関わりたくない	その他	無回答
10代～20代	54	16.7	42.6	53.7	7.4	5.6	40.7	0.0	29.6	18.5	5.6	0.0
30代	63	17.5	28.6	65.1	0.0	3.2	17.5	0.0	22.2	19.0	6.3	4.8
40代	50	20.0	26.0	46.0	8.0	18.0	12.0	4.0	20.0	14.0	2.0	0.0
50代	42	11.9	31.0	50.0	0.0	11.9	2.4	0.0	31.0	21.4	19.0	0.0
60代	45	15.6	26.7	26.7	0.0	26.7	11.1	0.0	22.2	11.1	13.3	2.2
70代	40	15.0	7.5	2.5	2.5	40.0	7.5	0.0	27.5	12.5	25.0	10.0
80代以上	40	5.0	2.5	0.0	0.0	42.5	5.0	0.0	5.0	2.5	30.0	12.5

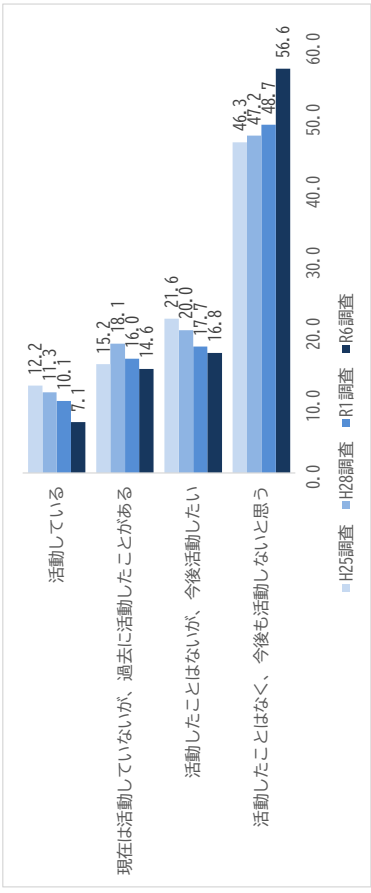
居住地区別

	有効回答数（件）	自治区に加入していない	時間をとられたくない	仕事忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	メリット・魅力がない	家族の理解がない	面倒だから	他人と関わりたくない	その他	無回答
亀崎地区	80	7.5	12.5	20.0	0.0	15.0	12.5	1.3	11.3	3.8	7.5	48.8
乙川地区	134	6.7	13.4	13.4	1.5	9.0	6.7	0.0	13.4	9.7	5.2	49.3
半田地区	185	8.1	13.5	20.5	1.6	8.6	10.3	0.5	9.7	8.1	6.5	49.2
成岩地区	125	7.2	8.0	22.4	1.6	7.2	3.2	0.0	10.4	6.4	7.2	52.8
青山地区	88	10.2	20.5	28.4	2.3	13.6	8.0	0.0	19.3	10.2	10.2	42.0

「年齢別」にみると、「20代」から「50代」までは「仕事忙しい」と回答された方の割合が最も高い。「70代」と「80代以上」では「体調がすぐれない」が最も高い。

「居住地区別」にみると、青山地区では、「仕事忙しい」、「時間をとられたくない」、「メリット・魅力がない」の割合が他地区より少ない。高い。また、成岩地区では、「時間をとられたくない」、「メリット・魅力がない」の割合が他地区よりも少ない。

問 16 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つの番号に○) 単位：%



年齢別

	有効回答数（件）	活動している	過去には活動していたことがないが、活動している	現在活動している	過去には活動していたことがないが、今後活動したい	活動したことはないが、今後活動したい	活動したことはなく、今後も活動しないと思う	無回答
10代～20代	88	2.3	27.3	15.9	54.5	0.0	0.0	
30代	83	2.4	20.5	12.0	63.9	1.2	1.2	
40代	94	7.4	10.6	19.1	60.6	2.1	2.1	
50代	84	7.1	8.3	25.0	57.1	2.4	2.4	
60代	113	11.5	15.9	19.5	48.7	4.4	4.4	
70代	86	10.5	9.3	17.4	61.6	1.2	1.2	
80代以上	80	7.5	10.0	5.0	52.5	25.0	25.0	

近所付き合いの程度別

	有効回答数（件）	活動している	過去には活動していたことがないが、活動している	現在活動している	活動したことはないが、今後活動したい	活動したことはなく、今後も活動しないと思う	無回答
日頃から助け合っている	40	20.0	12.5	15.0	45.0	7.5	7.5
気の合った人とは親しくしている	84	7.1	14.3	17.9	53.6	7.1	7.1
あいさつはする	341	8.2	15.5	18.8	53.4	4.1	4.1
ほとんど付き合っていない	153	1.3	13.1	13.1	70.6	2.0	2.0
その他	1	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

居住地区別

	有効回答数（件）	活動している	過去には活動していたことがないが、活動している	現在活動している	活動したことはないが、今後活動したい	活動したことはなく、今後も活動しないと思う	無回答
亀崎地区	80	12.5	13.8	13.8	55.0	5.0	5.0
乙川地区	134	3.7	12.7	20.1	58.2	5.2	5.2
半田地区	185	5.9	16.2	16.8	58.4	2.7	2.7
成岩地区	125	9.6	17.6	15.2	52.8	4.8	4.8
青山地区	88	8.0	13.6	15.9	58.0	4.5	4.5

「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」の割合が 56.6%と最も高い結果となり、「活動している」割合は年々減少している。

年齢別で見ると、「現在は活動していないが、過去に活動したことがある」の 10～20 代の割合が高い。近所付き合いの程度別で見ると、「ほとんど付き合っていない」と回答した方の「活動したことはないが、今後も活動しないと思う」の割合が 70.6%となっている。

居住地区別で見ると、いずれの地区においても「活動したことがなく、今後も活動しないと思う」が半数以上となっている。

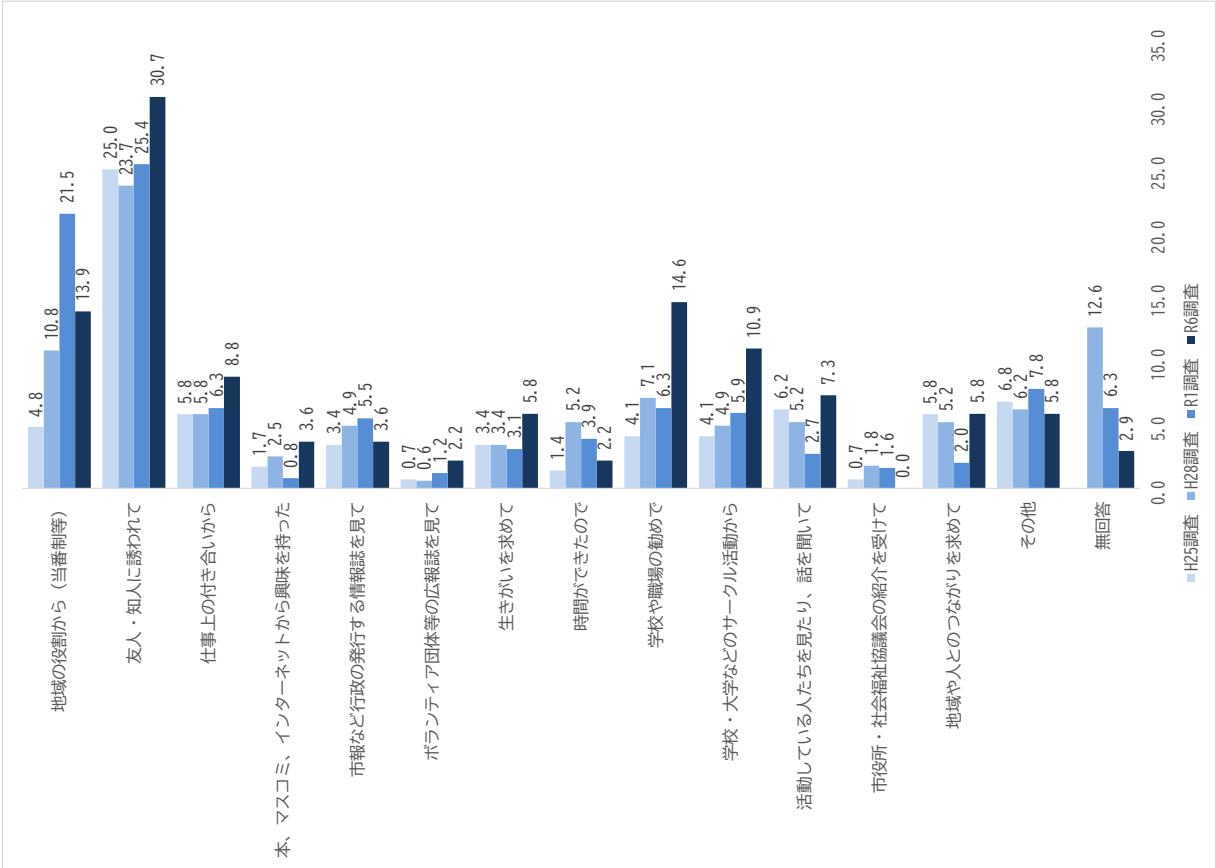
問 16-1 どのようなボランティア活動をしていますか。(していましたか。)
(あてはまるすべての番号に○)



	有効回答数(件)	子育てや子どもに関わる活動	高齢者に関わる活動	動障がいのある方に関わる活動	活動づくり・医療に関わる活動	自然や環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーション活動	まちづくりに関わる活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談に関わる活動	関わる活動が集う場の運営に関わる活動	住民の助け合い組織等の活動	その他	無回答
10代～20代	26	11.5	11.5	7.7	7.7	46.2	23.1	19.2	7.7	3.8	7.7	0.0	0.0	7.7
30代	19	26.3	0.0	10.5	15.8	31.6	21.1	10.5	21.1	5.3	5.3	0.0	5.3	0.0
40代	17	5.9	11.8	17.6	0.0	17.6	11.8	5.9	5.9	11.8	11.8	11.8	11.8	11.8
50代	13	30.8	23.1	7.7	30.8	15.4	7.7	15.4	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7	7.7
60代	31	25.8	12.9	6.5	12.9	6.5	9.7	12.9	3.2	16.1	0.0	19.4	0.0	9.7
70代	17	11.8	5.9	11.8	17.6	5.9	5.9	23.5	0.0	5.9	23.5	0.0	11.8	11.8
80代以上	14	7.1	7.1	28.6	0.0	14.3	0.0	14.3	7.1	0.0	14.3	14.3	21.4	7.1

-73-

問 16-2 ボランティア活動を始めたきっかけは何ですか。(1つの番号に○) 単位：%



年齢別

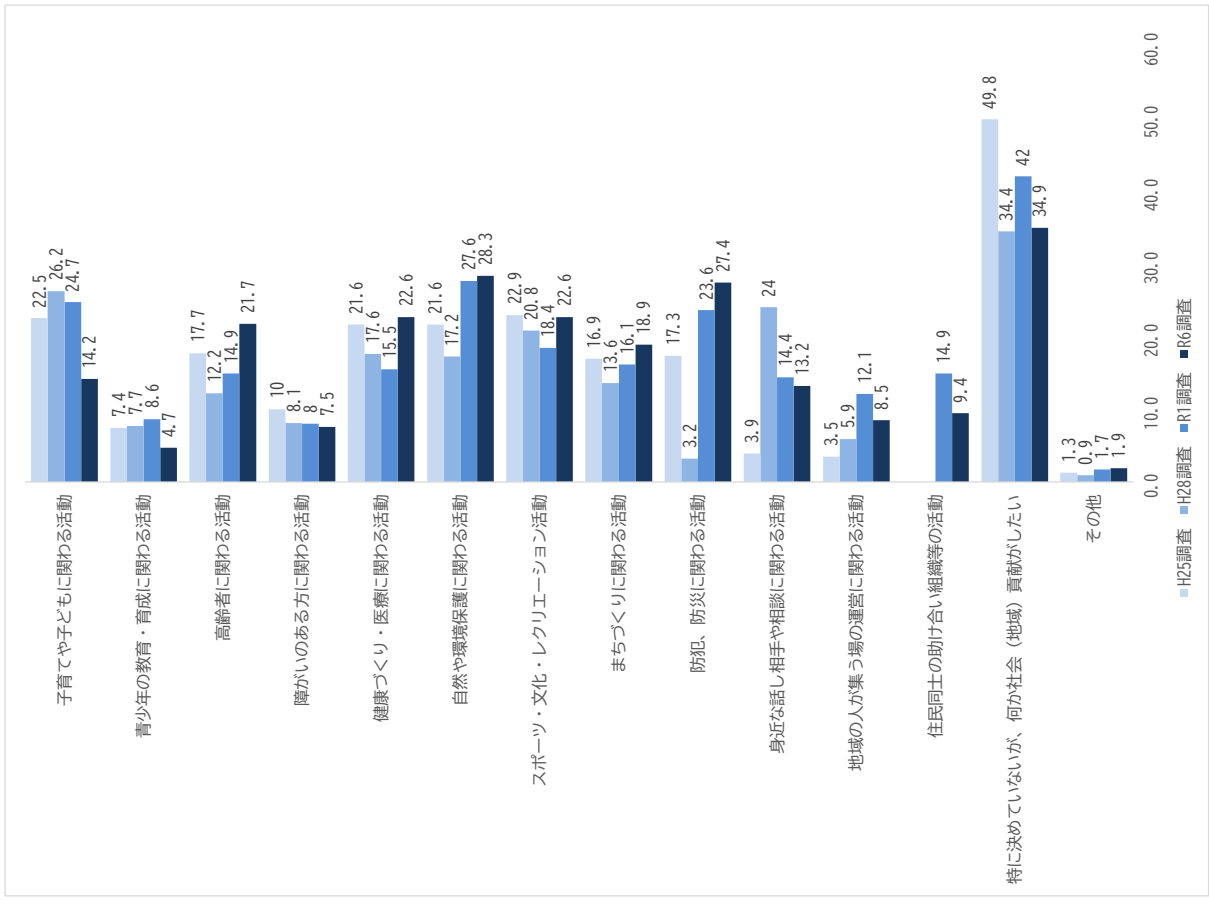
	有効回答数(件)	地域の役割から(当番制等)	友人・知人に誘われて	仕事上の付き合いから	本、マスコミ、インターネットから興味を持った	市報など行政の発行する情報誌を見て	ボランティア団体等の広報誌を見て	生きがい求めて	時間ができたので	学校や職場の勧めで	学校・大学などのサークル活動から	活動している人たちを見たり、話を聞いて	市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて	地域や人とのつながりを求めて	その他	無回答
10代~20代	27	11.1	18.5	3.7	0.0	0.0	3.7	0.0	3.7	29.6	25.9	0.0	0.0	3.7	3.7	0.0
30代	19	0.0	21.1	15.8	5.3	0.0	0.0	0.0	0.0	42.1	10.5	0.0	0.0	5.3	5.3	5.3
40代	17	11.8	35.3	17.6	11.8	0.0	0.0	11.8	5.9	5.9	23.5	5.9	17.6	17.6	5.9	0.0
50代	13	7.7	30.8	23.1	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	23.1	7.7	0.0	0.0	7.7	7.7	7.7
60代	31	12.9	32.3	6.5	3.2	3.2	6.5	3.2	0.0	0.0	3.2	19.4	0.0	6.5	9.7	0.0
70代	17	11.8	58.8	0.0	0.0	17.6	0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	11.8	0.0	0.0	0.0	5.9
80代以上	14	50.0	21.4	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0	0.0	7.1	0.0

ボランティア活動を始めたきっかけについては、「友人・知人に誘われて」の割合が最も高い。年代別でみると70代が58.8%と最も高い。
今回、「学校や職場の勧めで」、「学校・大学などのサークル活動から」が以前より増加しており、特に若い世代の割合が高い。

問 16 で「活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方にもお聞きします。

問 16-3 今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思えますか。
(あてはまるすべての番号に○)

単位：％



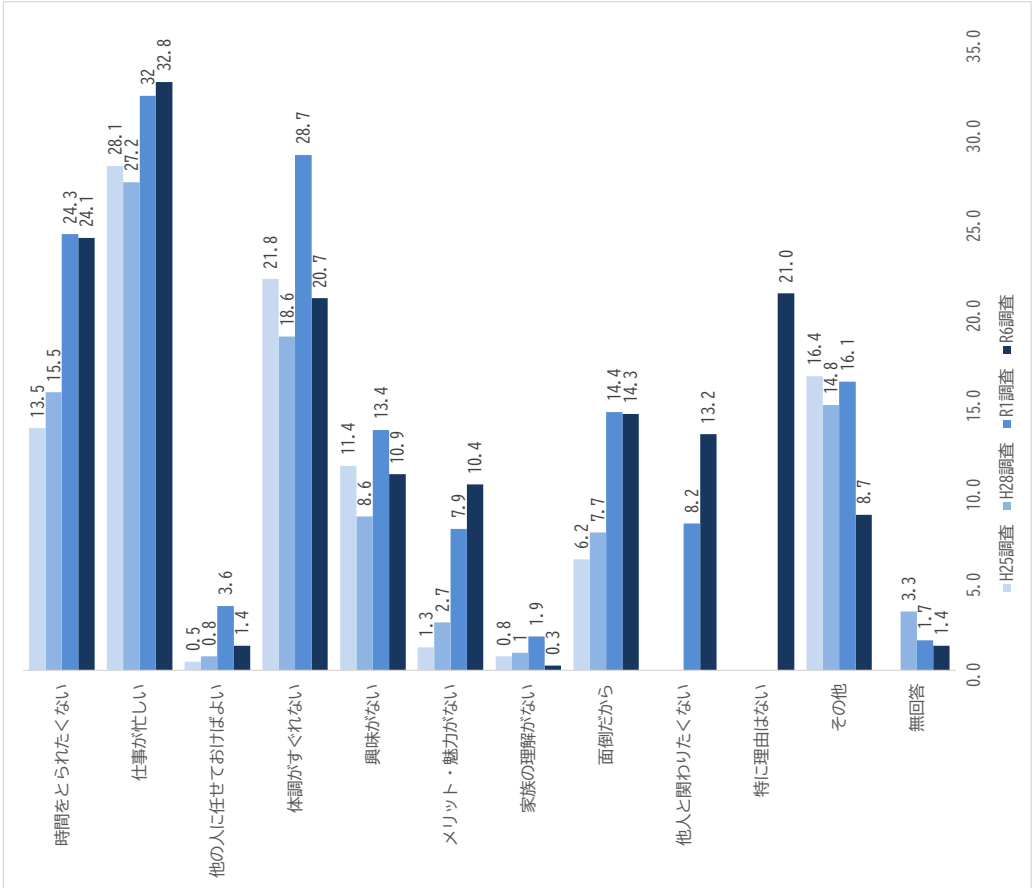
年齢別

	有効回答数（件）	子育てや子どもに関わる活動	青少年の教育・育成に関わる活動	高齢者に関わる活動	障がいのある方に関わる活動	健康づくり・医療に関わる活動	自然や環境保護に関わる活動	スポーツ・文化・レクリエーション活動	まちづくりに関わる活動	防犯、防災に関わる活動	身近な話し相手や相談に関わる活動	地域の人が集う場の運営に関わる活動	住民同士の助け合い・組織等の活動	特に決めていないが、何か社会（地域）貢献がしたい	その他
10代～20代	14	42.9	14.3	7.1	7.1	35.7	14.3	28.6	14.3	14.3	7.1	7.1	7.1	28.6	0.0
30代	10	20.0	0.0	20.0	0.0	0.0	30.0	40.0	20.0	30.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0
40代	18	5.6	11.1	27.8	16.7	50.0	27.8	22.2	33.3	38.9	22.2	11.1	5.6	38.9	0.0
50代	21	9.5	0.0	28.6	4.8	19.0	38.1	4.8	14.3	38.1	9.5	4.8	4.8	52.4	0.0
60代	22	9.1	4.5	18.2	0.0	13.6	31.8	27.3	18.2	13.6	9.1	4.5	13.6	40.9	0.0
70代	15	6.7	0.0	20.0	13.3	13.3	26.7	13.3	6.7	33.3	13.3	13.3	20.0	33.3	0.0
80代以上	4	0.0	0.0	25.0	0.0	25.0	0.0	75.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0	25.0

今後参加したいボランティア活動については、「特に決めていないが、何か社会（地域）貢献がしたい」の割合が最も高く、次いで「自然や環境保護に関わる活動」、「防犯、防災に関わる活動」という結果となっている。「子育てや児童に関わる活動」の割合が 14. 2%と、R1 調査の 24. 7%から減少している。

問 16 で「活動したことはなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きします。

問 16-4 活動しない理由は何ですか。(1つの番号に○) 単位：%

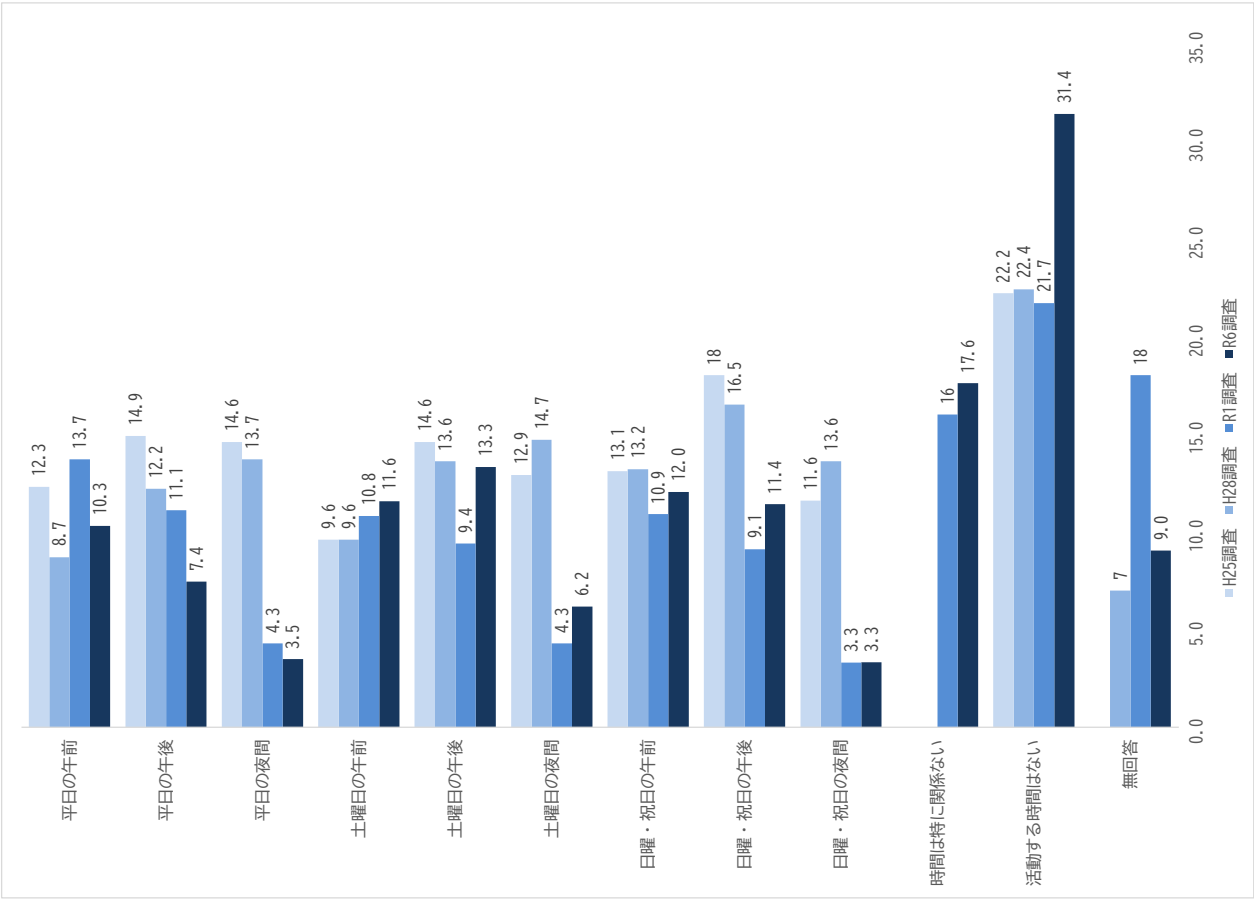


年齢別

	有効回答数（件）	時間をとられたくない	仕事忙しい	他の人に任せておけばよい	体調がすぐれない	興味がない	メリット・魅力がない	家族の理解がない	面倒だから	他人と関わりたくない	特に理由はない	その他	無回答
10代～20代	48	39.6	41.7	2.1	6.3	16.7	31.3	0.0	22.9	16.7	14.6	4.2	0.0
30代	53	34.0	58.5	1.9	1.9	18.9	18.9	0.0	15.1	17.0	13.2	1.9	1.9
40代	57	21.1	40.4	5.3	17.5	8.8	10.5	1.8	10.5	15.8	15.8	1.8	0.0
50代	48	33.3	39.6	0.0	16.7	8.3	4.2	0.0	16.7	14.6	20.8	12.5	0.0
60代	55	21.8	34.5	0.0	27.3	7.3	3.6	0.0	20.0	12.7	20.0	7.3	0.0
70代	53	13.2	7.5	0.0	41.5	7.5	3.8	0.0	11.3	9.4	24.5	13.2	3.8
80代以上	42	4.8	2.4	0.0	35.7	9.5	0.0	0.0	2.4	4.8	40.5	23.8	4.8

活動しない理由については、「仕事忙しい」の割合が 32.8%と最も高い。次いで「時間をとられたくない」が 24.1%、「特に理由はない」が 21.0%となっている。

問 17 あなたは、どの時間帯であれば活動ができていますか。(あてはまるすべての番号に○) 単位：％



年齢別

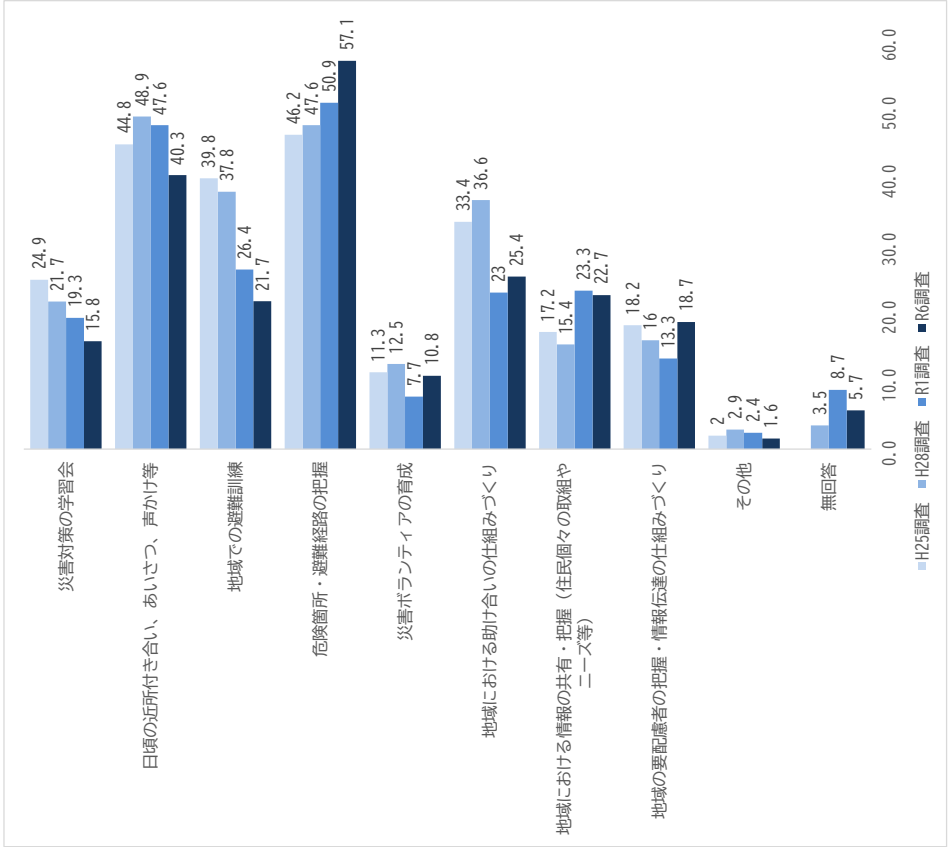
	有効回答数（件）	平日の午前	平日の午後	平日の夜間	土曜日の午前	土曜日の午後	土曜日の夜間	日曜・祝日の午前	日曜・祝日の午後	日曜・祝日の夜間	時間は特に関係ない	活動する時間はない	無回答
10代～20代	88	1.1	2.3	6.8	22.7	28.4	9.1	19.3	2.3	2.3	15.9	33.0	0.0
30代	83	6.0	3.6	3.6	26.5	25.3	9.6	24.1	9.6	9.6	20.5	32.5	0.0
40代	94	6.4	5.3	7.4	8.5	13.8	16.0	11.7	3.2	3.2	20.2	30.9	2.1
50代	84	2.4	1.2	3.6	9.5	13.1	7.1	9.5	9.5	9.5	13.1	46.4	2.4
60代	113	16.8	9.7	1.8	6.2	6.2	1.8	6.2	2.7	2.7	19.5	36.3	4.4
70代	86	14.0	18.6	0.0	5.8	4.7	0.0	8.1	0.0	0.0	25.6	22.1	14.0
80代以上	80	23.8	10.0	0.0	3.8	3.8	0.0	2.5	7.5	7.5	7.5	16.3	43.8

活動ができそうな時間帯については、「時間は特に関係ない」の割合が17.6%と最も高い（「活動する時間はない」を除く）。

また、「活動する時間はない」の割合が31.4%と、R1調査の21.7%から増加している。

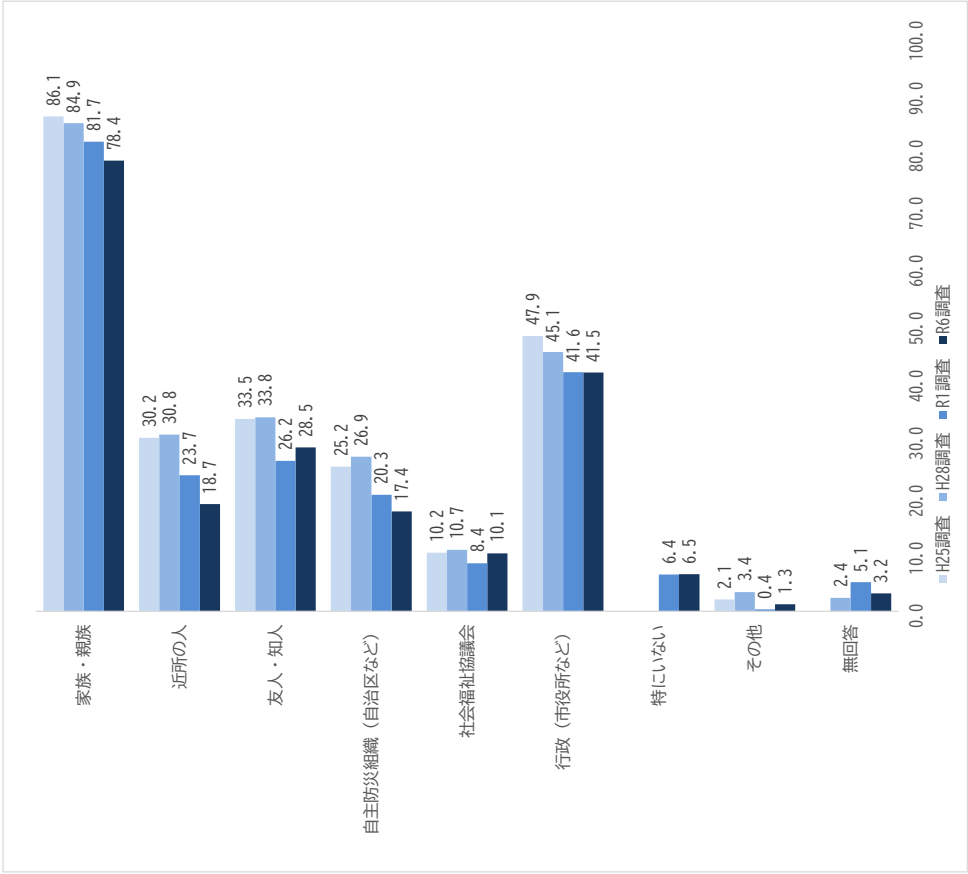
4 災害時における助け合いについて

問 18 南海トラフ巨大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで番号に○）



「危険箇所・避難経路の把握」が、57.1%と最も多く。「日頃の近所付き合い、あいさつ、声かけ等」が2番目に多いが、R1 調査より低下し 40.3%となっている。

問 19 大規模災害により被災した場合、被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。（あてはまるすべての番号に○）



居住地区別

	有効回答数（件）	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織	社会福祉協議会	行政	特にいない	その他	無回答
亀崎地区	80	91.3	30.0	28.8	16.3	5.0	36.3	1.3	0.0	0.0
乙川地区	134	76.1	21.6	27.6	18.7	3.7	41.8	0.0	2.2	2.2
半田地区	185	75.1	13.0	24.9	18.9	9.2	43.2	1.6	3.2	3.2
成岩地区	125	77.6	20.0	34.4	17.6	13.6	47.2	0.0	4.8	4.8
青山地区	88	81.8	12.5	27.3	11.4	8.0	34.1	4.5	3.4	3.4

近所付き合いの程度別

	有効回答数（件）	家族・親族	近所の人	友人・知人	自主防災組織	社会福祉協議会	行政	特にいない	その他	無回答
日頃から助け合っている	45	75.6	55.6	40.0	31.1	13.3	46.7	2.2	4.4	4.4
気の合った人とは親しくしている	92	80.4	46.7	35.9	23.9	15.2	45.7	1.1	7.6	7.6
あいさつはする	351	80.6	16.0	27.9	18.5	10.0	41.3	0.9	2.6	2.6
ほとんど付き合いがない	155	72.9	1.9	23.9	7.7	7.7	36.8	1.9	2.6	2.6
その他	2	100.0	50.0	0.0	50.0	50.0	50.0	50.0	0.0	0.0

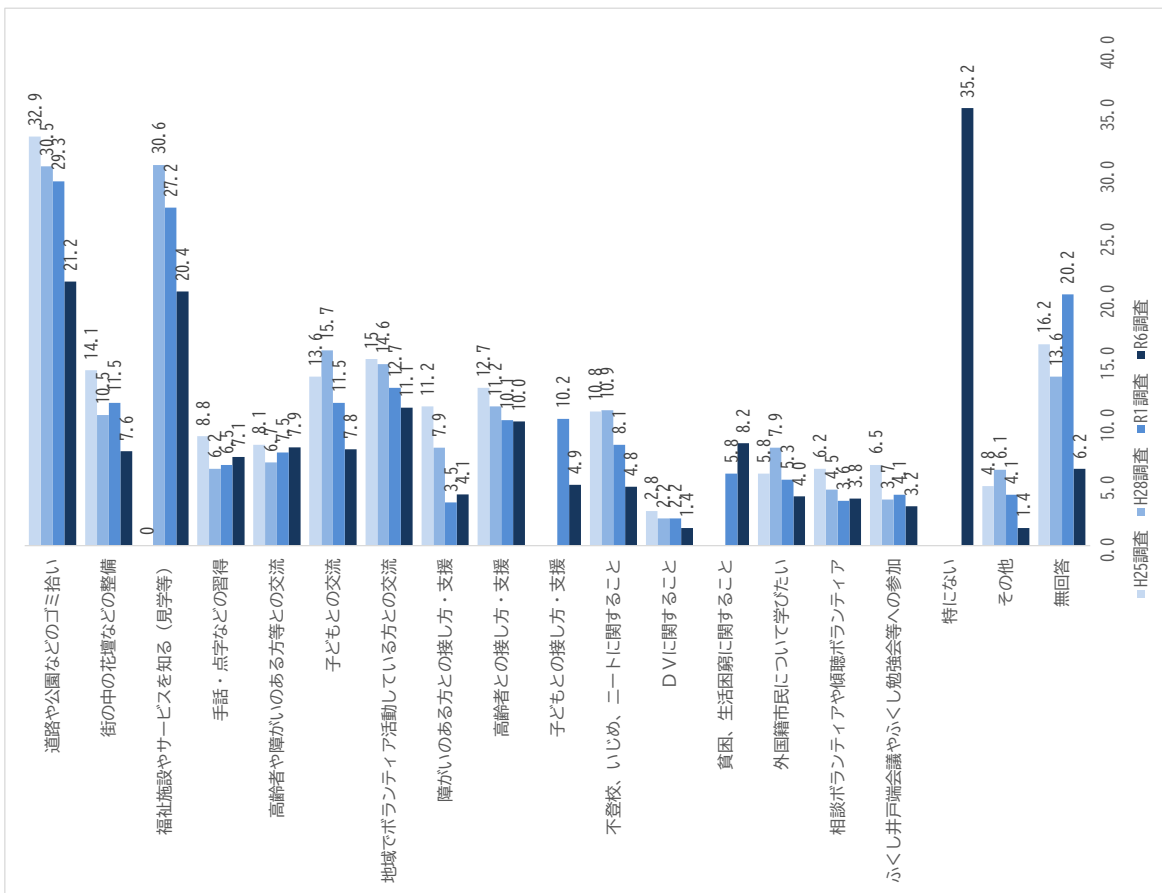
頼りにする人について、「家族・親族」が、最も多い。地区別に見ると、「亀崎地区」は「家族・親族」と回答されている割合が最も多い。

「問 8 近隣の人との付き合い程度」のアンケート結果と照らし合わせると、「日ごろから助け合っている」と回答された方は、本質問で被災後の生活で頼りにする人は、「近所の人」と回答された数が多く、日ごろから助け合っている方は近所の人を頼りにしている結果となった。

5 地域の課題について

問 20 あなたは地域の課題に対して、どのような活動をしたり、学んだりしたいと思いますか。
(3つまで番号に○)

単位：％

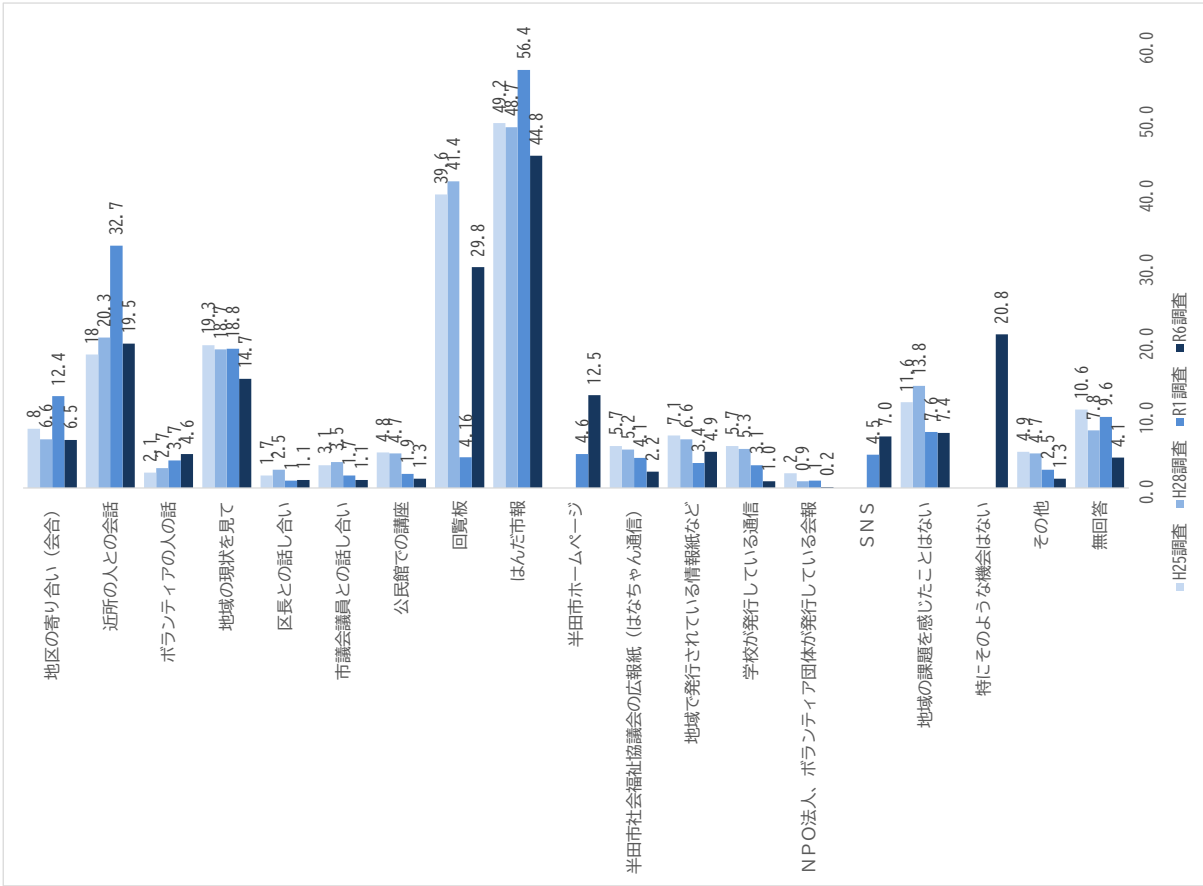


問 21 あなたが地域の課題を知る・感じる機会は、次のうちのどのようなときですか。 単位：％
(3つまで番号に○)

年齢別	有効回答数(件)	道路や公園などのゴミ拾い	街の中の花壇などの整備	(福祉施設等)がサービスを知る	手話・点字などの習得	高齢者や障がいのある方等との交流	子どもとの交流	地域でボランティア活動している方との接し	方障がいのある方との接し	高齢者との接し方・支援	子どもとの接し方・支援	関する校、こども、いじめ、ネットに	D V に関すること	と貧困、生活困窮に関するこ	い外国籍市民について学びた	ラ相対ボランティアや傾聴ボ	勉強会や等井戸の会や加	特にな	そ 他	無 回 答
10代~20代	88	29.5	12.5	10.2	12.5	5.7	15.9	10.2	9.1	9.1	9.1	9.1	3.4	4.5	2.3	1.1	0.0	36.4	1.1	0.0
30代	83	16.9	8.4	14.5	13.3	8.4	13.3	7.2	12.0	7.2	6.0	10.8	2.4	8.4	3.6	1.2	1.2	42.2	1.2	0.0
40代	94	20.2	8.5	18.1	6.4	9.6	5.3	8.5	6.4	10.6	7.4	3.2	1.1	13.8	7.4	4.3	4.3	38.3	3.2	2.1
50代	84	23.8	9.5	28.6	7.1	6.0	1.2	10.7	4.8	8.3	4.8	3.6	1.2	16.7	7.1	3.6	4.8	33.3	0.0	1.2
60代	113	25.7	8.8	26.5	6.2	8.0	8.8	8.8	3.5	9.7	5.3	6.2	0.9	7.1	2.7	8.0	4.4	31.0	1.8	4.4
70代	86	20.9	3.5	22.1	2.3	10.5	5.8	17.4	4.7	9.3	0.0	0.0	1.2	5.8	2.3	5.8	3.5	38.4	0.0	10.5
80代以上	80	8.8	1.3	22.5	2.5	7.5	2.5	16.3	2.5	15.0	1.3	0.0	0.0	1.3	2.5	1.3	5.0	26.3	2.5	26.3

居住地別	有効回答数(件)	道路や公園などのゴミ拾い	街の中の花壇などの整備	(福祉施設等)がサービスを知る	手話・点字などの習得	高齢者や障がいのある方等との交流	子どもとの交流	地域でボランティア活動している方との接し	方障がいのある方との接し	高齢者との接し方・支援	子どもとの接し方・支援	関する校、こども、いじめ、ネットに	D V に関すること	と貧困、生活困窮に関するこ	い外国籍市民について学びた	ラ相対ボランティアや傾聴ボ	勉強会や等井戸の会や加	特にな	そ 他	無 回 答
亀峰地区	80	30.0	11.3	22.5	6.3	5.0	8.8	16.3	1.3	11.3	5.0	5.0	1.3	8.8	2.5	5.0	0.0	30.0	2.5	2.5
乙川地区	134	18.7	5.2	18.7	8.2	8.2	7.5	12.7	6.0	11.9	5.2	3.0	1.5	8.2	3.7	4.5	5.2	41.8	0.0	5.2
半田地区	185	18.4	7.0	21.1	7.6	9.7	6.5	9.2	5.9	10.3	5.4	4.9	1.6	9.2	4.3	3.8	3.8	34.6	2.7	4.3
成岩地区	125	21.6	8.0	21.6	6.4	7.2	7.2	12.0	1.6	9.6	8.0	5.6	0.8	6.4	5.6	4.8	2.4	32.8	0.0	5.6
青山地区	88	21.6	10.2	21.6	6.8	9.1	10.2	8.0	4.5	6.8	0.0	6.8	2.3	9.1	2.3	1.1	3.4	33.0	2.3	11.4

「特にな



年齢別

	有効回答数（件）	地区の寄り合い（会合）	近所の人との会話	ボランティアの人の話	地域の現状を見て	区長との話し合い	市議会議員との話し合い	公民館での講座	回覧板	はんだ市報	半田市ホームページ	報半紙（はなちゃん通信）の広	紙地なで発行されている情報	学校が発行している通信	団P体が発行している会報ア	S N S	な地いい地域の課題を感じたことは	特にそのような機会はない	その他	無回答
10代～20代	88	5.7	12.5	3.4	21.6	2.3	2.3	2.3	12.5	23.9	11.4	1.1	3.4	2.3	0.0	13.6	10.2	33.0	0.0	0.0
30代	83	2.4	12.0	1.2	21.7	1.2	1.2	0.0	13.3	36.1	14.5	0.0	6.0	0.0	0.0	13.3	14.5	28.9	1.2	1.2
40代	94	4.3	16.0	3.2	13.8	0.0	0.0	1.1	18.1	44.7	19.1	0.0	7.4	2.1	0.0	13.8	9.6	20.2	3.2	2.1
50代	84	9.5	10.7	4.8	15.5	2.4	0.0	1.2	23.8	42.9	15.5	1.2	6.0	1.2	1.2	3.6	3.6	23.8	1.2	0.0
60代	113	7.1	19.5	8.8	15.9	0.0	1.8	0.0	41.6	54.9	16.8	3.5	2.7	0.0	0.9	1.8	3.5	17.7	0.9	4.4
70代	86	7.0	26.7	3.5	7.0	1.2	0.0	1.2	52.3	61.6	3.5	2.3	1.2	1.2	0.0	3.5	3.5	14.0	1.2	7.0
80代以上	80	8.8	38.8	6.3	6.3	1.3	2.5	3.8	46.3	47.5	6.3	7.5	6.3	0.0	0.0	0.0	3.8	7.5	1.3	15.0

居住地区別

	有効回答数（件）	地区の寄り合い（会合）	近所の人との会話	ボランティアの人の話	地域の現状を見て	区長との話し合い	市議会議員との話し合い	公民館での講座	回覧板	はんだ市報	半田市ホームページ	報半紙（はなちゃん通信）の広	紙地なで発行されている情報	学校が発行している通信	団P体が発行している会報ア	S N S	な地いい地域の課題を感じたことは	特にそのような機会はない	その他	無回答
亀崎地区	80	8.8	22.5	10.0	13.8	6.3	1.3	3.8	33.8	41.3	6.3	3.8	3.8	1.3	0.0	5.0	6.3	25.0	1.3	0.0
乙川地区	134	7.5	20.9	6.0	9.0	0.0	2.2	0.0	34.3	52.2	12.7	2.2	2.2	2.2	0.0	6.0	7.5	16.4	1.5	5.2
半田地区	185	4.9	17.8	3.2	16.8	0.5	1.1	1.1	25.4	41.1	14.1	1.1	4.3	0.5	0.0	8.6	7.0	23.2	1.6	4.9
成岩地区	125	7.2	20.8	2.4	20.0	0.8	0.8	1.6	28.0	49.6	14.4	2.4	6.4	0.0	0.8	8.8	8.0	16.8	0.8	3.2
青山地区	88	3.4	14.8	4.5	13.6	0.0	0.0	1.1	29.5	37.5	12.5	3.4	10.2	0.0	0.0	5.7	9.1	26.1	1.1	2.3

「はんだ市報」と「回覧板」が多い。令和元年度調査と比べ、「回覧板」と「半田市ホームページ」が増加している。

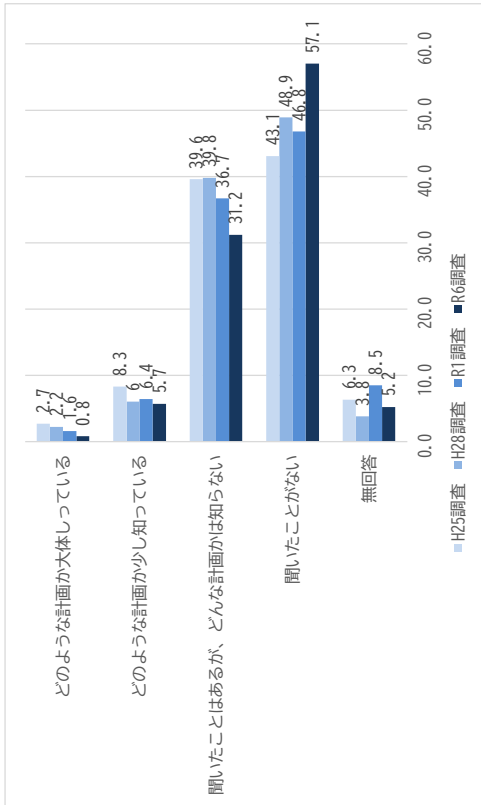
「年齢別」にみると、「10代」から「30代」は「SNS」と回答された方が10%以上となっており、「60代」以上は「回覧板」が40%以上となっている。

「地区別」にみると、「乙川地区」は「回覧板」と回答された方の割合が最も多い。

6 半田市地域福祉計画について

問 22 半田市地域福祉計画をご存知ですか。（1つの番号に○）

単位：％

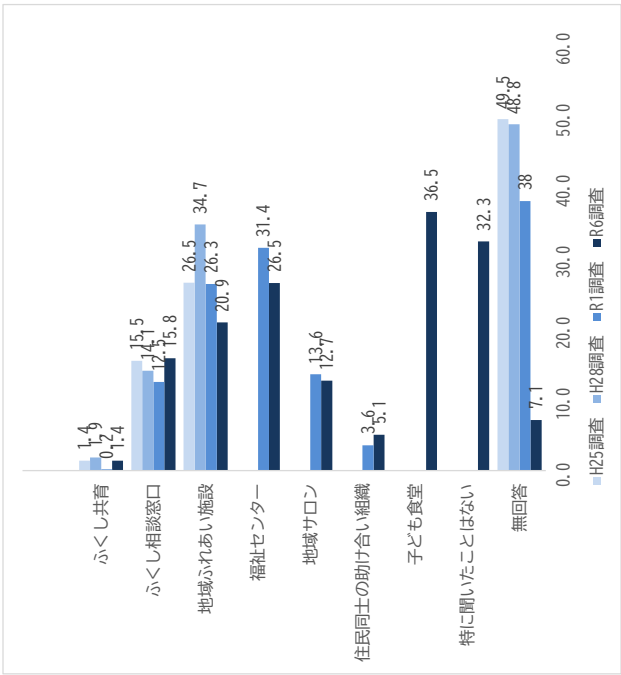


年齢別

	有効回答数（件）	どのような計画か大体しっている	どのような計画か少し知っている	聞いたことはあるが、どんな計画かは知らない	聞いたことがない	無回答
10代～20代	88	1.1	4.5	18.2	73.9	2.3
30代	83	1.2	6.0	19.3	72.3	1.2
40代	94	1.1	6.4	25.5	64.9	2.1
50代	84	2.4	2.4	36.9	58.3	0.0
60代	113	0.0	5.3	39.8	49.6	5.3
70代	86	0.0	2.3	39.5	46.5	11.6
80代以上	80	0.0	11.3	38.8	35.0	15.0

「聞いたことがない」と最も多い。「年代別」にみると「20代以下」の70%以上が「聞いたことがない」と回答している。

問 23 以下の項目で知っている・聞いたことのあるものは何ですか。（あてはまるすべての番号に○） 単位：％



年齢別

	有効回答数（件）	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	子ども食堂	特に聞いたことはない	無回答
10代～20代	89	1.1	9.0	20.2	37.1	3.4	1.1	43.8	31.5	0.0
30代	83	3.6	14.5	10.8	19.3	13.3	1.2	42.2	41.0	2.4
40代	94	3.2	17.0	14.9	20.2	12.8	5.3	37.2	37.2	4.3
50代	84	0.0	15.5	19.0	25.0	13.1	6.0	45.2	29.8	2.4
60代	113	1.8	20.4	25.7	24.8	16.8	6.2	40.7	31.0	7.1
70代	86	0.0	12.8	29.1	30.2	17.4	5.8	26.7	26.7	15.1
80代以上	80	0.0	20.0	25.0	30.0	10.0	7.5	16.3	28.8	20.0

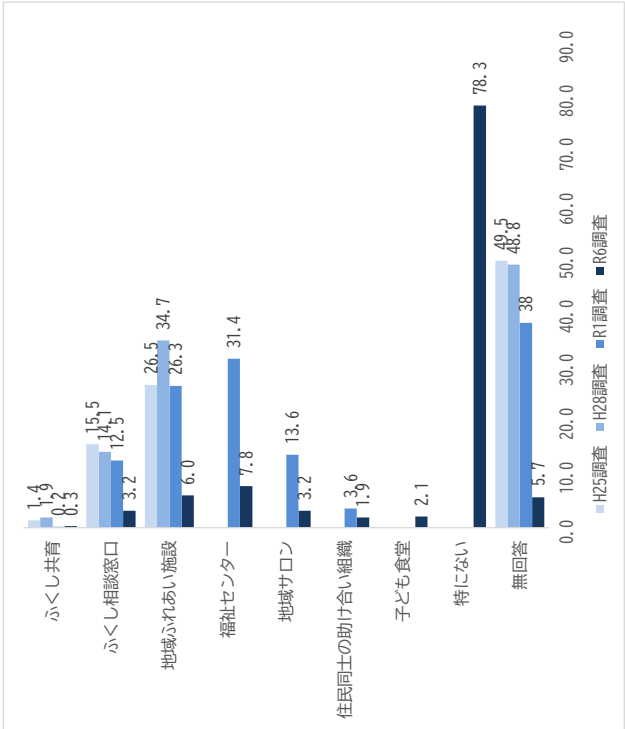
居住地区別

	有効回答数（件）	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	子ども食堂	特に聞いたことはない	無回答
亀崎地区	80	0.0	16.3	21.3	41.3	13.8	8.8	32.5	28.8	2.5
乙川地区	134	1.5	21.6	32.1	21.6	9.7	3.0	35.1	29.1	9.0
半田地区	187	2.1	11.2	20.3	24.6	10.7	5.3	38.5	29.9	8.6
成岩地区	125	2.4	17.6	16.8	27.2	20.8	4.8	45.6	36.8	3.2
青山地区	88	0.0	15.9	10.2	26.1	10.2	3.4	27.3	37.5	9.1

令和6年度調査より項目を新設した「子ども食堂」が最も多い。子ども食堂が地域にとって身近なものであることが分かる結果となった。

「年齢別」にみると、「60代以上」では「地域ふれあい施設」や「福祉センター」の割合が高く、「30代以下」と「50・60代」において「子ども食堂」の割合が高い。
地区別にみると、「乙川地区」で「地域ふれあい施設」の割合が多い。

問 24 以下の項目で参加（利用）したことがあるものは何ですか。（あてはまるすべての番号に○） 単位：%



年齢別

	有効回答数（件）	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	子ども食堂	特にない	無回答
10代～20代	88	0.0	2.3	5.7	9.1	1.1	1.1	3.4	83.0	0.0
30代	83	0.0	2.4	2.4	1.2	3.6	1.2	2.4	90.4	1.2
40代	94	1.1	6.4	4.3	5.3	4.3	3.2	2.1	83.0	3.2
50代	84	0.0	0.0	2.4	6.0	1.2	0.0	0.0	90.5	0.0
60代	113	0.9	2.7	2.7	8.0	1.8	2.7	2.7	80.5	4.4
70代	86	0.0	3.5	15.1	12.8	4.7	0.0	2.3	65.1	10.5
80代以上	80	0.0	3.8	10.0	12.5	5.0	3.8	0.0	55.0	21.3

居住地区別

	有効回答数（件）	ふくし共育	ふくし相談窓口	地域ふれあい施設	福祉センター	地域サロン	住民同士の助け合い組織	子ども食堂	特にない	無回答
亀崎地区	80	0.0	1.3	6.3	10.0	3.8	3.8	0.0	78.8	3.8
乙川地区	134	0.0	5.2	7.5	8.2	0.7	1.5	1.5	73.9	7.5
半田地区	185	0.5	3.2	7.6	7.6	3.2	1.6	2.2	78.9	5.9
成岩地区	125	0.8	3.2	3.2	8.0	4.8	1.6	2.4	80.8	4.8
青山地区	88	0.0	1.1	2.3	6.8	3.4	1.1	1.1	84.1	3.4

「特にない」が最も多く、知っているが参加（利用）していない方が多いことがわかる。年代別にみると、70代以上で「地域ふれあい施設」や「福祉センター」と回答された方が多い。「地区別」にみると、「成岩地区」において「地域サロン」の割合が最も高い。また、乙川地区で「ふくし相談窓口」の割合が高い。

「第3次半田市地域福祉計画」策定にあたって のアンケート調査



～調査のご協力をお願い～

市民のみなさまには、日頃より半田市政への理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

本市では、公的なサービスはもとより、地域のみなさまの助け合い、支え合いによって、誰もが地域で安心して暮らすことのできる社会の実現をめざし、平成22年度に『第1次半田市地域福祉計画』、後継の計画として令和3年度に現『第2次半田市地域福祉計画』を策定しました。現計画が令和7年度末に期間満了となるため、この度、『第3次半田市地域福祉計画』（計画期間：令和8年度から5年間）を策定することとなりました。

本アンケート調査は、第3次計画の策定にあたり、市民のみなさまにご意見をいただき、このちの施策等を検討する貴重な資料として使わせていただくために実施するものです。なお、調査対象の方は本市在住の18歳以上の方の中から、無作為に2,000の方を抽出しております。

ご記入いただいた内容については、すべて統計的に処理いたしますので、回答者個人が特定されたり、個々の回答内容が他にもれたりすることは一切ありません。

ご多忙のところ誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願い申し上げます。

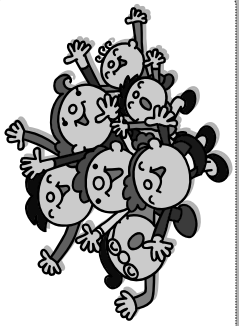
令和6年12月
半田市長 久世孝宏

- ◆ ご記入にあたってのお願い ◆
- ・ご回答は、できるかぎり宛名のご本人にお願いしますが、ご本人のみで記入が難しい場合は、ご家族の方や一緒にお住まいの方にもご協力いただきますようお願いいたします。
- ・この調査は無記名式ですので、調査票にお名前を記入する必要はありません。
- ・ご回答については令和7年1月10日（金）までに右上のQRコードからWEB上でご回答いただくか、調査票にご記入いただき、同封の返信用封筒にてご返送ください。（切手は不要です。）

【お問い合わせ】半田市福祉部地域福祉課 担当 村上、黒野
電 話：(0569) 84-0641 F A X：(0569) 22-2904

地域福祉とは？

高齢者や子ども、障がいのある方など、市民のみなさんが自分らしい生活をおくることができるよう、同じ地域に暮らすみなさんが支え合い、力を合わせて自分達が住んでいるまちを暮らしやすくする取り組み、それが『地域福祉』です。



あなたご自身（ご本人）についてお聞きます。

問1	あなたの性別についてお答えください。（1つの番号に○）			
1. 男	2. 女	3. その他（ ） ※自由記述		
問2	あなたの年齢についてお答えください。（1つの番号に○）			
1. 10代	2. 20代	3. 30代	4. 40代	
5. 50代	6. 60代	7. 70代	8. 80代以上	
問3	あなたの家族構成等についてお答えください。（1つの番号に○）			
1. 一人暮らし	2. 夫婦のみ	3. 親子のみ		
4. 親子と祖父母（曾祖父母）				
5. その他（ ）				
＜問3で「1. 一人暮らし」と答えた方にお聞きます＞				
【問3-1】緊急時に連絡が取れる親族はいますか。				
1. いる	2. いない（身寄りがいない）			
問4	あなたの世帯の状況についてお答えください。（あてはまるすべての番号に○）			
1. 子育てをしている	2. 介護が必要な高齢者（65歳以上の方）と同居している			
3. 支援が必要な障がいのある方と同居している				
4. その他1～3に類する状況（ ）	5. 1～4に該当しない			
問5	あなたは半田市（中学校区）に住んで何年ですか。（1つの番号に○）			
1. 6か月未満	2. 1年未満	3. 1年以上	4. 3年以上	
5. 5年以上	6. 10年以上	7. 20年以上	8. 30年以上	
問6	あなたの住んでいる地区（中学校区）はどこですか。（1つの番号に○）			
1. 亀崎地区	2. 乙川地区	3. 半田地区	4. 成岩地区	
5. 青山地区	6. わからない（町名をお書きください）			

問7 あなたの職業についてお答えください。(1つの番号に○)

1. 会社員・団体職員 (常勤)
2. 自営業
3. 農業
4. 教員 (常勤)
5. 公務員 (常勤)
6. 派遣従業員
7. パート/アルバイト/内職
8. 学生
9. 無職
10. その他 ()

あなたの日常生活のことについてお聞きします。

問8 近隣の人は、どの程度付き合いをしていますか。(1つの番号に○)

1. 日頃から助け合っている
2. 気の合った人とは親しくしている
3. あいさつはする
4. ほとんど付き合いが無い
5. その他 ()

問9 あなたは、日常生活の中で、どのような悩みや不安を感じていますか。
(あてはまるすべての番号に○)

1. 自分の健康に関する事
2. 家族の健康に関する事
3. 介護・障がいのある方への支援に関する事
4. 仕事に関する事
5. 近所付き合いに関する事
6. 生きがい・将来に関する事
7. 住まいに関する事
8. 収入や家計に関する事
9. 子どもに関する事
10. 災害に関する事
11. ひきこもりに関する事 (自分)
12. ひきこもりに関する事 (家族)
13. その他 ()
14. 特になし

問10 あなたは困ったことがあるとき、誰に相談していますか。
(あてはまるすべての番号に○)

1. 家族・親族
2. 近所の人
3. 友人・知人
4. 学校や保育園、幼稚園
5. 民生委員・児童委員
6. 区長・町内会長
7. 福祉事業所・施設等の職員
8. 社会福祉協議会
9. 市役所
10. 医療機関
11. 県・保健所相談窓口
12. その他 ()

13. 相談していない

<問10で「13. 相談していない」と答えた方にお聞きします>

【問10-1】なぜ、相談していないのですか。(1つの番号に○)

1. 他人に頼らずに、自分で解決したい
2. 信頼できる人・相談できる人がいない
3. 顔見知りの人に相談するのは気まずい
4. 身近に相談窓口がない
5. なんとなく相談しづらい
6. 今までに困ったことがない
7. どこに(誰に)相談したらよいのか分からない
8. その他 ()

問11 あなたは、自分が孤独であると感じることがありますか。(1つの番号に○)

1. 全くない
2. ほとんどない
3. 時々ある
4. 常を感じる

問12 近所の人のちよっとした困りごと支援や助け合い活動として、あなたができると思うことは何ですか。(あてはまるすべての番号に○)

1. 声かけ
2. 話し相手
3. 草取りや電球の取り換えなどの簡単な作業
4. ちよっとした買い物の手伝い
5. ゴミ出し
6. 家の掃除
7. 料理の手伝い
8. 洗濯
9. 短時間の子どもの預かり
10. 子育ての相談
11. 生活についての相談
12. 知っている情報や相談窓口を伝える
13. 市役所・社会福祉協議会 (包括支援センター、障がい者相談支援センター、ボランティアセンター) へ連絡
14. その他 ()
15. 特になし

問13 あなたは、今後どのようなことであれば地域に関わることができると思いますか。
(あてはまるすべての番号に○)

1. 地域のイベントや作業への参加
2. 地域活動のために土地を貸す
3. 地域住民がふれ合える場所として、空き家・空き店舗を貸す
4. 農業、建築土木、IT等の自己の持つ専門知識の提供
5. スポーツやレクリエーション、文化活動等の指導
6. 地域サロン^{※(1)}等、地域住民が集う場所でのお手伝い
7. 地域の防犯のための見回り
8. 災害が起こった場合に高齢者等、一人での避難が困難な方への支援
9. 身近な地域での困りごとなどをみんなで考える場 (ふくし井戸端会議^{※(2)}等)への参加
10. 住民同士の助け合い組織^{※(3)}等への参加
11. 寄附
12. 区長・民生委員等になる
13. その他 ()
14. 特になし

※(1)介護予防、子育てその他様々な目的のため、有志の方々が運営している交流の場

※(2)地域住民が主体となり、地域の福祉課題等を話し合う場

※(3)同じ地域に住む人のちよっとした困りごとや簡単な作業などのお手伝いをするため、地域住民が結成、運営している組織

(現在市内に5団体 (亀崎思いやり応援隊、住吉ささえたい、やなべお助け隊、ならわ思いやり隊、あおまお助け隊) が組織化され、活動しています。)

問14 あなたは福祉に関してどのような情報を得たいですか。(あてはまるすべての番号に○)

1. 介護や障がい福祉サービス等に関する情報
2. 保育や子育てに関する情報
3. ボランティアに関する情報
4. 就労に関する情報
5. 就学に関する情報
6. 健康に関する情報
7. 各種福祉講座や教室、講習会の開催状況
8. 特に得たい情報はなし
9. その他 ()

自治区やコミュニティなどの地域活動・ボランティア活動についてお聞きます。

問15 あなたは、自治区やコミュニティなどで地域の活動をしていますか。
(1つの番号に○)

1. 活動している → 問15-1・15-2・15-3へ
2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある → 問15-4へ
3. 活動したことはないが、今後活動したい
4. 活動したことはなく、今後も活動しないと思う → 問15-5へ

<問15で「1. 活動している」と答えた方にお聞きます>

【問15-1】どの程度活動をしていますか。(1つの番号に○)

1. 積極的に活動している
2. ときどき活動している
3. 誘われた時に活動している

【問15-2】どのような活動をしていますか。(あてはまるものすべての番号に○)

1. 自治区の活動
2. 子どもの活動
3. スポーツクラブの活動
4. 老人クラブの活動
5. 地域防災の活動
6. 地域サロン等の活動
7. 地域の祭り
8. その他 ()

【問15-3】どのような目的で活動していますか (1つの番号に○)

1. 地域をよりよいものになりたい
2. 隣近所とのふれあいを求めて
3. 自分自身の向上のため
4. 近所付き合いなどで仕方なく
5. 特に理由はない
6. その他 ()

<問15で「2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある」「3. 活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方にお聞きます>

【問15-4】現在活動していない主な理由は何ですか。(1つの番号に○)

1. 自治区に加入していない
2. 引越して間もない
3. 時間がない
4. 仕事などの都合で機会がない
5. 参加方法がわからない
6. 体調がすぐれない
7. その他 ()

<問15で「4. 活動したことはなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きます>

【問15-5】今後も活動しないと思う理由は何ですか。(あてはまるすべての番号に○)

1. 自治区に加入していない
2. 時間をとられない
3. 仕事が忙しい
4. 他の人に任せておけばよい
5. 体調がすぐれない
6. メリット・魅力がない
7. 家族の理解がない
8. 面倒だから
9. 他人と関わりたくない
10. その他 ()

問16 あなたはボランティア活動をしていますか。(1つの番号に○)

1. 活動している → 問16-1・16-2へ
2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある
3. 活動したことはないが、今後活動したい → 問16-3へ
4. 活動したことはなく、今後も活動しないと思う → 問16-4へ

<問16で「1. 活動している」「2. 現在は活動していないが、過去に活動したことがある」と答えた方にお聞きます>

【問16-1】どのようなボランティア活動をしていますか。(していませんか。)

(あてはまるすべての番号に○)

1. 子育てや子どもに関わる活動
2. 青少年の教育・育成に関わる活動
3. 高齢者に関わる活動
4. 障がいのある方に関わる活動
5. 健康づくり・医療に関わる活動
6. 自然や環境保護に関わる活動
7. スポーツ・文化・レクリエーション活動
8. まちづくりに関わる活動
9. 防犯、防災に関わる活動
10. 身近な話し相手や相談に関わる活動
11. 地域の人が集う場の運営に関わる活動
12. 住民同士の助け合い組織等の活動
13. その他 ()

【問16-2】ボランティア活動をはじめたきっかけは何ですか。(1つの番号に○)

1. 地域の役割から (当番制等)
2. 友人・知人に誘われて
3. 仕事上の付き合いから
4. 本、マスコミ、インターネットから興味を持った
5. 市報など行政の発行する情報誌を見て
6. ボランティア団体等の広報誌を見て
7. 生きたいを求めて
8. 時間ができたので
9. 学校や職場の勧めで
10. 学校・大学などのサークル活動から
11. 活動している人たちを見たり、話を聞いて
12. 市役所・社会福祉協議会の紹介を受けて
13. 地域や人とのつながりを求めて
14. その他 ()

<問16で「3. 活動したことはないが、今後活動したい」と答えた方にお聞きます>

【問16-3】今後、どのようなボランティア活動に参加したいと思いますか。

(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|---------------------------------|----------------------|
| 1. 子育てや子どもに関わる活動 | 2. 青少年の教育・育成に関わる活動 |
| 3. 高齢者に関わる活動 | 4. 障がいのある方に関わる活動 |
| 5. 健康づくり・医療に関わる活動 | 6. 自然や環境保護に関わる活動 |
| 7. スポーツ・文化・レクリエーション活動 | 8. まちづくりに関わる活動 |
| 9. 防災、防災に関わる活動 | 10. 身近な話し相手や相談に関わる活動 |
| 11. 地域の人が集う場の運営に関わる活動 | 12. 住民同士の助け合い組織等の活動 |
| 13. 特に決めていないが、何か社会（地域）貢献がしたい | |
| 14. その他（ ） | |

<問16で「4. 活動したことはなく、今後も活動しないと思う」と答えた方にお聞きます>

【問16-4】活動しない理由は何ですか。（あてはまるすべての番号に○）

- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 1. 時間をとれたくない | 2. 仕事が忙しい |
| 3. 他の人に任せておけばよい | 4. 体調がすぐれない |
| 5. 興味がでない | 6. メリット・魅力がない |
| 7. 家族の理解がない | 8. 面倒だから |
| 9. 他人と関わりたくない | 10. 特に理由はない |
| 10. その他（ ） | |

すべての方にお答えください。

問17 あなたは、どの時間帯であれば活動ができそうですか。（あてはまるすべての番号に○）

- | | | |
|---------------|---------------|-------------|
| 1. 平日の午前 | 2. 平日の午後 | 3. 平日の夜間 |
| 4. 土曜日の午前 | 5. 土曜日の午後 | 6. 土曜日の夜間 |
| 7. 日曜・祝日の午前 | 8. 日曜・祝日の午後 | 9. 日曜・祝日の夜間 |
| 10. 時間は特に関係ない | 11. 活動する時間はない | |
- ※概ね時間帯は次のとおりと考えてください。
午前とは8時から12時 午後とは12時から18時 夜間とは18時以降

災害時における助け合いについてお聞きます。

問18 南海トラフ巨大地震等が懸念される中で、災害時における地域の助け合いは、非常に重要なことです。あなたの住む地域における災害時の備えとして、どのようなことが重要だと思いますか。（3つまで番号に○）

- | | |
|---------------------------------|------------------------|
| 1. 災害対策の学習会 | 2. 日頃の近所付き合い、あいさつ、声かけ等 |
| 3. 地域での避難訓練 | 4. 危険箇所・避難経路の把握 |
| 5. 災害ボランティアの育成 | 6. 地域における助け合いの仕組みづくり |
| 7. 地域における情報の共有・把握（住民個々の取組やニーズ等） | |
| 8. 地域の要配慮者※(4)の把握・情報伝達の仕組みづくり | |
| 9. その他（ ） | |

※(4)高齢者、障がいのある方、乳幼児その他の特に配慮を要する方

問19 大規模災害により被災した場合、被災後の生活において、あなたは誰を頼りにしますか。（あてはまるすべての番号に○）

- | | | |
|------------------|--------------------------------|--------------|
| 1. 家族・親族 | 2. 近所の人 | 3. 友人・知人 |
| 4. 自主防災組織(自治区など) | 5. 社会福祉協議会 | 6. 行政(市役所など) |
| 7. 特にない | 8. その他（ ） | |

地域の課題についてお聞きます。

問20 あなたは地域の課題に対して、どのような活動をしたり、学んだりしたいと思いますか。（3つまで番号に○）

- | | |
|---------------------------------|-----------------------|
| 1. 道路や公園などのゴミ拾い | 2. 街の中の花壇などの整備 |
| 3. 福祉施設やサービスを知る（見学等） | 4. 手話・点字などの習得 |
| 5. 高齢者や障がいのある方等との交流 | 6. 子どもとの交流 |
| 7. 地域でボランティア活動している方との交流 | |
| 8. 障がいのある方との接し方・支援 | 9. 高齢者との接し方・支援 |
| 10. 子どもとの接し方・支援 | 11. 不登校、いじめ、ニートに関すること |
| 12. DV※(9)に関すること | 13. 貧困、生活困窮※(6)に関すること |
| 14. 外国籍市民について学びたい | 15. 相談ボランティアや傾聴ボランティア |
| 16. ふくし井戸端会議やふくし勉強会等への参加 | |
| 17. 特にない | |
| 18. その他（ ） | |

※(5)配偶者やパートナーなど、親しい者（親しかった者）から加えられる暴力。
児童虐待。

※(6)就職・住まい・家計など、様々な事情で生活に困っている状態。

問 21 あなたが地域の課題を知る・感じる機会は、次のうちのどのようなときですか。(3つまで番号に○)

- | | |
|--|---------------------|
| 1. 地区の寄り合い (会合) | 2. 近所の人との会話 |
| 3. ボランティアの人の話 | 4. 地域の現状を見て |
| 5. 区長との話し合い | 6. 市議会議員との話し合い |
| 7. 公民館での講座 | 8. 回覧板 |
| 9. はんだ市報 | 10. 半田市ホームページ |
| 11. 半田市社会福祉協議会の広報紙 (はなちゃん通信) | 12. 地域で発行されている情報紙など |
| 14. NPO法人、ボランティア団体が発行している会報 | 13. 学校が発行している通信 |
| 15. SNS (インターネット上で、情報の発信、共有等を行うことのできるWebサービス。ソーシャル・ネットワーキング・サービスの略。) | |
| 16. 地域の課題を感じたことはない | 17. 特にそのような機会はない |
| 18. その他 () | |

半田市地域福祉計画についてお聞きます。

問 22 半田市地域福祉計画をご存知ですか。(1つの番号に○)

- | | |
|--------------------------|--------------------|
| 1. どのような計画か大体知っている | 2. どのような計画か少し知っている |
| 3. 聞いたことはあるが、どんな計画かは知らない | |
| 4. 聞いたことがない | |

問 23 以下の項目で知っている・聞いたことのあるものは何ですか。
(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. ふくし共育 | 2. ふくし相談窓口 (様々な福祉に関する相談) |
| 3. 地域ふれあい施設 (有脇ふれあいセンター、フレンド乙川、さくらの家、かりやど憩の家、やなべふれあいセンター) | |
| 4. 福祉センター (福祉センター (瀬上工業雁宿ホール内)、亀崎地域総合福祉センター) | |
| 5. 地域サロン | 6. 住民同士の助け合い組織 (お助け隊など) |
| 7. 子ども食堂 | 8. 特に聞いたことはない |

問 24 以下の項目で参加 (利用) したことがあるものは何ですか。
(あてはまるすべての番号に○)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. ふくし共育 | 2. ふくし相談窓口 (様々な福祉に関する相談) |
| 3. 地域ふれあい施設 (有脇ふれあいセンター、フレンド乙川、さくらの家、かりやど憩の家、やなべふれあいセンター) | |
| 4. 福祉センター (福祉センター (瀬上工業雁宿ホール内)、亀崎地域総合福祉センター) | |
| 5. 地域サロン | 6. 住民同士の助け合い組織 (お助け隊など) |
| 7. 子ども食堂 | 8. 特にない |

◎ 高齢者や子ども、障がいのある方など、市民のみなさんが自分らしい生活をおくるためのまちづくりについて、ご意見やご要望、アイデアなどがありましたら、自由にお書きください。

ご協力ありがとうございました。

分析概要

目的

- 本市の地域福祉の推進基盤は第2層（中学校区）であり、第2層の実態を把握することが必要である。
- 第2層の住民に係る基本属性を把握することで、各中学校区の特徴を把握する。

方法

- ①住民基本台帳や障がい者手帳、介護認定情報等システムより情報を抽出する（令和6年10月1日時点）。
- ②中学校区ごとの情報に加工する。
- ③中学校区内での年齢分布等、構成比を比較する。

令和7年3月
半田市地域福祉課

※本資料は、住民基本台帳より作成しているため、実態と合わない可能性があります。

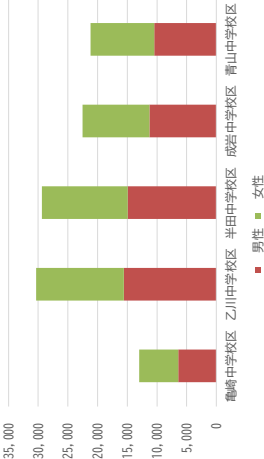
中学校区別 人口等分析

項目別分析

人口（男女）

項目	市全体		亀崎中学校区		乙川中学校区		半田中学校区		成岩中学校区		青山中学校区	
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
全体	116,365	100.0%	12,980	11.2%	30,329	26.1%	29,357	25.2%	22,494	19.3%	21,201	18.2%
男性	58,669	50.4%	6,418	49.4%	15,572	51.3%	14,933	50.9%	11,258	50.0%	10,486	49.5%
女性	57,696	49.6%	6,562	50.6%	14,757	48.7%	14,424	49.1%	11,236	50.0%	10,715	50.5%

人口（男女）



令和6年10月1日時点の人口は116,365人であり、男性が58,669人（50.4%）、女性が57,696人（49.6%）であった。

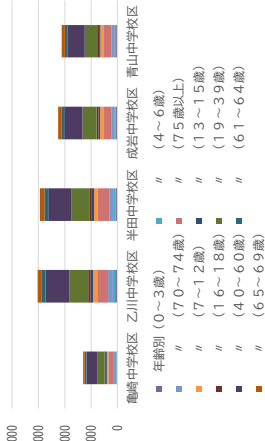
中学校区ごとの比較では、乙川中学校区が30,329人（26.1%）で最も多く、亀崎中学校区が12,980人（11.2%）で最も少なかった。

また、乙川中学校区を除く4中学校区で男女比はほぼ同等であった。

人口（年齢別）

項目	市全体			亀崎中学校区			乙川中学校区			半田中学校区			成岩中学校区			青山中学校区		
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
0～3歳	3,036	2.6%	297	2.3%	881	2.9%	748	2.5%	595	2.6%	515	2.4%						
4～6歳	2,766	2.4%	264	2.0%	846	2.8%	655	2.2%	564	2.5%	437	2.1%						
7～12歳	6,026	5.2%	610	4.7%	1,671	5.5%	1,476	5.0%	1,206	5.4%	1,063	5.0%						
13～15歳	3,304	2.8%	396	3.1%	868	2.9%	787	2.7%	675	3.0%	578	2.7%						
16～18歳	3,347	2.9%	434	3.3%	841	2.8%	816	2.8%	651	2.9%	605	2.9%						
19～39歳	27,278	23.4%	2,813	21.7%	7,290	24.0%	6,991	23.8%	5,379	23.9%	4,804	22.7%						
40～60歳	35,140	30.2%	4,042	31.1%	8,841	29.2%	8,802	30.0%	6,901	30.7%	6,553	30.9%						
61～64歳	5,840	5.0%	694	5.3%	1,471	4.9%	1,472	5.0%	1,182	5.3%	1,021	4.8%						
65～69歳	6,311	5.4%	623	4.8%	1,703	5.6%	1,588	5.4%	1,173	5.2%	1,224	5.8%						
70～74歳	6,617	5.7%	729	5.6%	1,808	6.0%	1,688	5.7%	1,147	5.1%	1,245	5.9%						
75歳以上	16,699	14.4%	2,078	16.0%	4,109	13.5%	4,334	14.8%	3,021	13.4%	3,156	14.9%						

人口（年齢別）



亀崎中学校区では、0～12歳、19～39歳、65～69歳の構成比が最も小さく、13～18歳、40～64歳、75歳以上の構成比では、最も大きかった。

乙川中学校区では、0～12歳、19～39歳の構成比が最も大きく、16～18歳、40～60歳の構成比が最も小さかった。

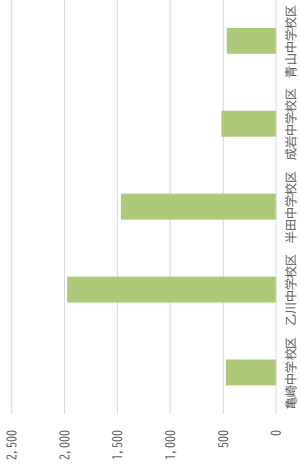
成岩中学校区は70歳以上の構成比が最も小さかった。

半田中学校区、青山中学校区ともに中学生世代の構成比が最も小さかった。

人口（外国籍市民）

項目	市全体		亀崎中学校区		乙川中学校区		半田中学校区		成岩中学校区		青山中学校区	
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
外国籍市民	4,901	4.2%	474	3.7%	1,975	6.5%	1,467	5.0%	517	2.3%	468	2.2%

外国籍市民

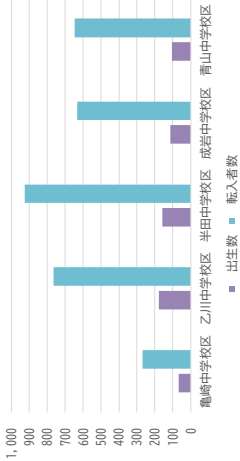


中学校区別の人口に対する外国籍市民の構成比では、乙川中学校区が1,975人（6.5%）と最も多く、青山中学校区が468人（2.2%）で最も少なかった。

人口（出生数・転入者数）

項目	市全体			亀崎中学校区			乙川中学校区			半田中学校区			成岩中学校区			青山中学校区		
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
出生数	617	0.5%	66	0.5%	177	0.6%	157	0.5%	113	0.3%	104	0.5%						
転入者数	3,239	2.8%	269	2.1%	765	2.5%	926	3.2%	633	2.8%	646	3.0%						

人口（出生数・転入者数）



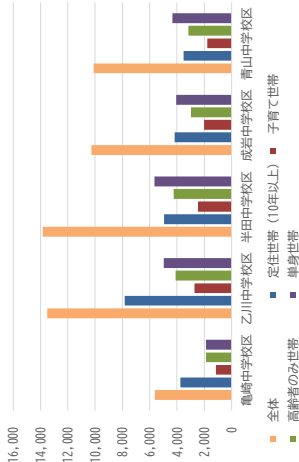
出生数の構成比は、中学校区ごとに大きな差がなかった。

転入者数は、半田中学校区が926人（3.2%）で最も多く、亀崎中学校区が269人（2.1%）で最も低かった。

世帯数

項目	市全体		亀崎中学校区		乙川中学校区		半田中学校区		成岩中学校区		青山中学校区	
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
全体	53,330	100.0%	5,625	10.5%	13,504	25.3%	13,828	25.9%	10,265	19.2%	10,108	19.0%
定住世帯（10年以上）	24,224	45.4%	3,745	66.6%	7,834	58.0%	4,950	35.8%	4,186	40.8%	3,507	34.7%
子育て世帯	10,138	19.0%	1,143	20.3%	2,730	20.2%	2,467	17.8%	2,026	19.7%	1,771	17.5%
高齢者のみ世帯	16,377	30.7%	1,885	33.5%	4,105	30.4%	4,236	30.6%	2,976	29.0%	3,174	31.4%
単身世帯	20,893	39.2%	1,887	33.5%	4,971	36.8%	5,646	40.8%	4,048	39.4%	4,339	42.9%

世帯数



世帯数の構成比は半田中学校区が13,828世帯（25.9%）で最も多く、亀崎中学校区が5,625世帯（10.5%）で最も少なかった。

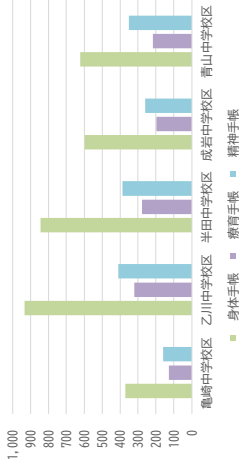
世帯数に占める定住世帯、子育て世帯、高齢者のみ世帯の構成比は亀崎中学校で最も多く、単身世帯の構成比は最も少なかった。

一方、定住世帯、子育て世帯の構成比は青山中学校区で最も少なかった。また、高齢者のみ世帯の構成比は成岩中学校区で最も少なかった。

障がい者

項目	市全体		亀崎中学校区		乙川中学校区		半田中学校区		成岩中学校区		青山中学校区	
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
身体手帳	3,367	2.9%	370	2.9%	933	3.1%	844	2.9%	598	2.7%	622	2.9%
療育手帳	1,140	1.0%	128	1.0%	320	1.1%	278	0.9%	197	0.9%	217	1.0%
精神手帳	1,565	1.3%	159	1.2%	410	1.4%	386	1.3%	259	1.2%	351	1.7%

障がい者手帳所持者

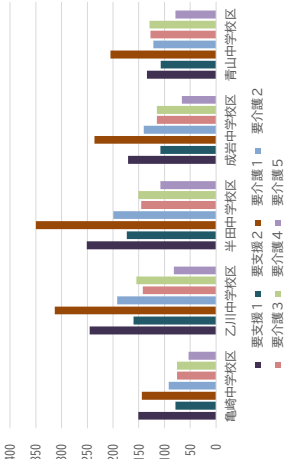


地区別人口に占める障がい者手帳所持者の構成比は、中学校区ごとに偏りはなかった。

介護認定

項目	市全体		亀崎中学校区		乙川中学校区		半田中学校区		成岩中学校区		青山中学校区	
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
要支援 1	952	0.8%	151	1.2%	245	0.8%	251	0.9%	171	0.8%	134	0.6%
要支援 2	627	0.5%	79	0.6%	160	0.5%	173	0.6%	108	0.5%	107	0.5%
要介護 1	1,248	1.1%	144	1.1%	313	1.0%	350	1.2%	236	1.0%	205	1.0%
要介護 2	745	0.6%	92	0.7%	192	0.6%	199	0.7%	140	0.6%	122	0.6%
要介護 3	605	0.5%	76	0.6%	142	0.5%	145	0.5%	115	0.5%	127	0.6%
要介護 4	626	0.5%	76	0.6%	155	0.5%	151	0.5%	115	0.5%	129	0.6%
要介護 5	388	0.3%	53	0.4%	82	0.3%	108	0.4%	66	0.3%	79	0.4%

介護認定

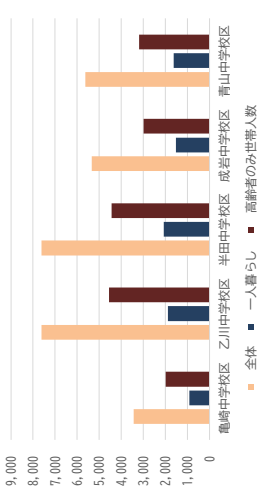


地区別人口に占める介護認定者の構成比は、中学校区ごとに偏りはなかった。

高齢者

項目	市全体		亀崎中学校区		乙川中学校区		半田中学校区		成岩中学校区		青山中学校区	
	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比	数値	構成比
全体	29,627	25.5%	3,430	26.4%	7,620	25.1%	7,610	25.9%	5,341	23.3%	5,625	26.5%
一人暮らし	8,010	6.9%	916	7.1%	1,886	6.2%	2,065	7.0%	1,520	6.8%	1,623	7.7%
高齢者のみ世帯人数	17,157	14.7%	1,991	15.3%	4,558	15.0%	4,445	15.1%	2,981	13.3%	3,181	15.0%

高齢者



高齢者全体の構成比では、青山中学校区が5,625人（26.5%）で最も多く、一人暮らしでも1,623人（7.7%）で最も多かった。

高齢者のみ世帯人数の構成比では、亀崎中学校区が1,991人（15.3%）で最も多かった。

一方、成岩中学校区で、高齢者全体、一人暮らし、高齢者のみ世帯人数のいずれの構成比も最も低かった。

亀崎中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で最も人口が少ない。
- 男性よりも女性の方が多い。
- 0～12歳の子どもの構成比は市内で最も低く、その親世代にあたる19～39歳の構成比も市内で最も低い。一方、13～18歳の子どもの構成比は市内で最も高く、その親世代にあたる40～60歳の構成比も市内で最も高い。
- 61～64歳の構成比は市内で最も高い。
- 65～69歳の前期高齢者の構成比は市内で最も低い、75歳以上の後期高齢者の構成比は市内で最も高い。
- 外国籍市民の構成比は市全体の平均よりも低い。
- 出生数、転入者数の構成比は市内で最も低い。

亀崎中学校区 【考察①】

- 0～12歳の子どもの構成比が低いのは、その親世代にあたる19～39歳の構成比が低いことによる。この世代の構成比が低いのは、定住世帯が多く、外部からの流入が少ない（またはできる土地・不動産がない）ことが考えられる。
- 13～18歳の構成比が高く、その親世代にあたる40～64歳の構成比も高い。これにより、子育て世帯の構成比も高い水準であるが、第3次地福計画が終了する5年後には、この世代の子どもは成人するため、子育て世帯の構成比は上記の0～12歳の子どもに紐づくため、市内で最も低くなる見込み。
- 高齢者のみ世帯の構成比が市内で最も多いことから、2040年を見据えると、今後、空き家が大幅に増加する可能性が高い。

亀崎中学校区 【結果②】

- 世帯数は市内で最も少ない。
- 世帯数に占める定住世帯、子育て世帯、高齢者のみ世帯の構成比は市内で最も多い。
- 世帯数に占める単身世帯の構成比は市内で最も少ないが、一人暮らし高齢者の構成比は、市の平均よりも高い。
- 要支援1の認定がある人の構成比が市内で最も高い。
- 乙川中学校区とほぼ真逆の人口構成比。

乙川中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で最も人口が多い。
- 男女の構成比では男性が多く、市内で最も男女の人数差が大きい。
- 0～12歳の子どもの構成比、出生数が市内で最も高く、その親世代にあたる19～39歳の構成比も市内で最も高い。
- 16～18歳の構成比が市内で最も低く、その親世代にあたる40～60歳の構成比も市内で最も低い。
- 70～74歳の構成比が市内で最も高いが、75歳以上の構成比は市の平均以下である。
- 外国籍市民の構成比が市内で最も高いが、転入者数は市の平均以下である。

乙川中学校区 【結果②】

- 定住世帯、子育て世帯は市の平均よりも高い。
- 単身世帯が市の平均よりも低い。
- 高齢者の構成比が市の平均よりも低い。
- 亀崎中学校区とほぼ真逆の人口構成比。**

乙川中学校区 【考察①】

- 0～12歳の子どもの構成比や出生数の構成比が最も高く、その親世代の構成比も高いことから、市内でも子どもが多い地域であることが伺える。一方、70～74歳の構成比も最も高いことから、今後、後期高齢者の構成比が増えていき、幅広い世代に対応した施策が必要であると考えられる。
- また、外国籍市民のうち、約4割が乙川中学校区にいることから、外国籍市民との共生をどのように進めるかを考える必要がある。
- 外国籍市民が最も多いが、転入者数の構成比が市の平均よりも低いことから、毎年度外国籍市民が盛んに転入しているわけではなく、一定年数居住している人が多いと考えられる。

半田中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で2番目に人口が多く、世帯数は最も多い。
- 人口構成は5中学校区の中で**最も市の平均に近い**が、13～18歳の構成比が市内で最も低い。
- 出生数の構成比が市内で最も低い。
- 転入者数の構成比が市内で最も高く、定住世帯の構成比が市の平均よりも低い。
- 子育て世帯の構成比が市の平均よりも低い。
- 単身世帯の構成比が市の平均よりも高いが、一人暮らし高齢者の構成比は市の平均程度。

半田中学校区 【考察①】

- 出生数の構成比は最も低いが、転入者数の構成比が最も高く、出生数よりも転入者の方が約6倍の人数であることから、新生児の誕生ではなく、転入者による人口の流入が予想される。転入者をいかに地域コミュニティへの参加につなげられるかが課題。
- 世帯数が最も多く、単身世帯数も市内で最も多いが、高齢者の一人暮らしの構成比は市の平均程度である。また、13～18歳の世代構成比が市内で最も低いことから、就労世代においても単身世帯が多いと考えられる。今後、この単身世帯が定住すると、一人暮らし高齢者が増加する可能性が高い。

成岩中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で3番目に人口が多い。
- 男女比がほぼ同程度である。
- 61～64歳の構成比が市内で最も高い。
- 70歳以上の構成比が市内で最も低い。
- 出生数の構成比が市内で最も低い。
- 定住世帯の構成比が市の平均よりも低い。
- 高齢者のみ世帯の構成比が最も低い。
- 単身世帯の構成比が市の平均程度。
- 人口に占める高齢者、一人暮らし、高齢者のみ世帯人数の構成比が市内で最も低い（**高齢化率が市内で最も低い**）。

成岩中学校区 【考察①】

- 市内で最も高齢化率の低い中学校区であり、一人暮らし高齢者、高齢者のみ世帯の構成比もいずれも低いことから、2世代、3世代で居住している人が市で相対的に多いと考えられる。それぞれの世代が家族と過ごす時間以外の居場所（家族教室、サロン等）が必要と考えられる。
- 高齢者の構成比が市内で最も低く、定住世帯が市の平均よりも低くなっている。転入者数が市の平均程度であることから、昔から居住していた高齢者が亡くなり、その次世代が現在の高齢者になっている可能性が考えられる。

青山中学校区 【結果①】

- 5中学校区の中で4番目に人口が多い。
- 男女の構成比が女性の方が多く、男性の方が少ない。
- 子どもの構成比が市の平均よりも低く、中でも13～15歳の構成比が市内で最も低い。
- 61～64歳の構成比が市内で最も低い。
- 65～69歳の構成比が市内で最も高く、70歳以上の構成比が市の平均よりも高い。
- 外国籍市民の構成比が市内で最も低い。
- **出生数の構成比が市内で最も低い**。
- 転入者数の構成比が市の平均よりも高い。
- 定住世帯、子育て世帯の構成比が市内で最も低く、単身世帯の構成比が市内で最も高い。
- **最も高齢化率が高く**、一人暮らし高齢者の構成比も高い。

青山中学校区 【考察①】

- 市の平均よりも少子高齢化が進んでおり、子育て世帯の構成比が市内で最も低く、高齢化率が市内で最も高い。持続可能なまちとするため、子どもが地域に住み続けたいと思えるような地域愛の醸成と、高齢者同士が互いに支えあえる仕組みが必要。
- 特殊な福祉施設があることが一要因であるが、単身世帯の構成比が市内で最も多く、定住世帯の構成比が市内で最も低い。また、一人暮らし高齢者の構成率が市内で最も高いことから、孤独・孤立状態に陥らないような地域づくりについて検討する必要がある。

権利擁護・居住支援部会報告書

(1) テーマ概要

半田市に限らず、近年では多死社会、単身独居世帯の増加、家族の基盤の弱体化、人間関係の希薄化が進んでいることにより、経済的理由だけでなく身元保証がないために住む場所を確保することが困難になってきています。また、世帯構成の多様化により、母子世帯、外国人世帯、障がい者世帯、高齢者世帯、LGBTQ、家族関係を望まない人等が生きにくさを感じる現状もあります。そのような状況の中、より住みやすく、ともに安心して暮らし続けるためにはどのような仕組みや制度が必要なのかを本部会では話し合います。

住民が尊厳を守りながら誰もが自分らしく暮らすために、普段からの見守り、専門職へのつながり、地域住民によってささえあえる環境づくりを目指します。

(2) テーマ課題・対策・取組

- ・多死社会における身寄り・居住・死後対応の仕組み
- ・意思決定を重視した「新たな権利擁護」の在り方

○新たな身元保証の仕組み：

<現状> 死亡後の費用：火葬だけでも最低 20 万円は必要です。

<課題> 費用を捻出できない入居者への対応が必要です。

<対策> ①保険を活用して補償していきます（死後対応）

②補償金は、居住支援法人によって、死後対応として火葬、病院の清算、賃借・公共料金などの支払い・解約、遺品整理の代行費用に充てられます。家賃債務保証や残置物処分は、保険によりできるようにします。



○死後対応と互助事業の啓発：

<現状> 初期費用数十万円で死後対応をできるようにする仕組みがあります。

<課題> 初期費用を支払えない人の死後対応や、死後対応を依頼できる人に繋がるようにする必要があります。

<対策> ①保険を活用：初期費用はなく、保険金等で分割して支払える仕組みを活用します。

②家族代行できる仕組み：くらし安心サポート事業（知多地域権利擁護支援センター）などで互助会・ろうスクールの企画・運営・普及・啓発します。

③国の新たな金銭管理制度を注視するとともに、上記以外の死後対応の仕組みを構築するために検討する機会を作ります。

○見守りおよびサポート体制：

<現状>住宅確保要配慮者（単身高齢者、ひとり親、障がい者、低額所得者など）の場合、認知症や病気、けがのケア、近隣トラブルや家賃滞納等、大家の心配事・不安があります。

<課題>保険だけでなく各種制度の活用や地域による見守りが必要です。

<対策>①ICTを活用：非常時の対応が可能になる、テラシテ R(中部電力)などがあります。

②2年の定期借家契約を活用：入居者の状況把握が可能になり、次の住まいを探す際の借家人の状況に合わせた入居プランの紹介・提供を目指します。

③居住支援法人とともに住まいのサポート体制を構築：宅建協会や弁護士など各士業とも連携します。また、大家等の理解を深める取組を行います。

④地域の中でのつながりの再構築：ささえあいのまちづくりのために、高齢者だけでなく子どもも含めた居場所を確保し普及・啓発します。

⑤既存の見守り・助け合いサービスを有効活用し、広報・周知を行います。

○ライフエンディングサポート事業の啓発：

<課題>終活について事前に考える機会の創出が必要です。

<対策>①自分の財産や遺品になるもの、介護・医療、葬儀やお墓について、記録したエンディングノート・もしもシート・事前指示書などを参考に、半田市独自のものを検討します。

②終活に向けた研修や各種ツールの普及・啓発を行います。

実施主体	第1層（市全域）	第2層（中学校区）	第3層（小学校区以下）
住民	・互助会による生活（ちょっとした）支援、話し合える関係づくり ・（入院時・入所時の）今まで家族が担ってきた保証人などの家族代行	・身元保証会社・権利擁護支援センターによる保険での対応 ・ICTの活用	・高齢者だけでなく子どもも含めた居場所 ・話し合える場所 ・エンディングノート・もしもシート・事前指示書の作成
事業所	・身元保証会社・権利擁護支援センターによる保険での対応 ・ICTの活用		
社協	・住む場所：近隣トラブル・家賃滞納などの大家の不安解消方法の見える化		・ちょっとした支援の可能性（ささえあいやボランティアの地域通貨、ポイント制）
行政 (関係課)			・死生観についてタブー視せずに、万が一の時のために考えておく・備える ・啓発

就労・参加支援部会報告書

（１）テーマ概要

少子高齢化や労働者人口の減少が進み、地域経済・地域コミュニティ双方において「担い手不足」が顕在化しています。福祉現場でも新卒・若手社員の定着率低下や資格要件の高さから育成・採用が難しくなっており、安定的な福祉サービス提供が危ぶまれています。また、高齢者や障がい者、生活困窮者、若年無業者など、支援が必要な方々の「働きたい」「役割を持ちたい」という意欲に応える体制づくりが求められており、単なる就労支援にとどまらず、多様な社会参加のあり方が必要となっています。地域とのつながりの希薄化や居場所の喪失が、孤独・孤立や健康悪化、フレイル等の要因となるため、社会参加が重要です。



（２）テーマ課題

課題１：福祉現場における就労

福祉人材の確保・育成が十分に出来ておらず、福祉事業所の人材が不足、安定的な福祉サービスの提供ができなくなる恐れがあります。

課題２：課題を抱えた方を含めた一般就労へのつなぎ

小・中学校の不登校者数が増加しており、高校に進学しても学校生活がうまくいかずに退学となる方や、どこにも所属することなく中学校を卒業する、「中卒無業者」が増加しています。また、ひきこもり状態にある若者や、働く意欲があっても本人の生活歴（累犯など）等によって社会的な障壁が高く、就職の機会そのものが少なく職場の定着も課題となっています。

課題３：地域人材の確保・育成（地域の担い手不足）

定年延長等によって、地域で活動する担い手が高齢化しており、各地域で「担い手不足」が課題となっています。その結果、既存のボランティアや市民活動団体の世代交代が進まず、地域でのささえあい活動が維持できなくなる恐れがあります。

課題４：情報、交流の不足

企業と福祉事業所間の横のつながりが弱く、市民や学生が地元の仕事や活動に触れる機会が少ない状況です。また、双方の課題やニーズを話し合う機会がなく、それぞれのできることやニーズを補う活動を推進することが難しい現状にあります。

(3) 対策・取組

- 趣味や地域活動、短時間勤務など多様な社会参加の機会を提供します。
- 就労困難層への継続的な伴走支援体制の強化と企業との連携により、就労に結びつきやすい環境づくりを行います。
- 地域活動と就労支援の「中間的領域」として、ユニバーサル就労により就労準備期から定着までをサポートします。

実施主体	第1層（市全域）	第2層 （中学校区）	第3層 （小学校区以下）
住民 （学生）			・他者のための活動が「自分のため」と感じられる人が多くいる状態（課題3）
事業所 （企業）	・就職後も継続的に働き続けられる環境づくり（課題1・2） ・企業との連携により仕事を細分化して、年代を問わずに働く（賃金をもらえる）機会の創出「ダイバーシティ就労プラットフォームづくり」（課題2・4）	・福祉事業所等が地域貢献活動の一環で、地域のニーズにあった活動ができる仕組み（課題3）	・法人間の同世代の職員の交流や情報交換の機会（課題1） ・実習やインターンシップを受け入れている事業所間の情報交換及び大学との連携（課題1）
社協		・学生のニーズを聞き取りつつ、事業所間で引継ぎができる仕組み（課題1）	・夏休みだけでなく、恒常的なボランティア活動への参加の機会創出（課題1・3）
行政 （関係課）	・働く意欲がない人や就労以前に治療や支援が必要な人への医療との連携（課題2） ・地域と福祉と企業の情報交換の場があり、それぞれの「できること」を掛け合わせて事業化する仕組み（課題4）	・企業同士が集まって、ノウハウを培う場の創出（課題2）	

災害にも強い地域づくり部会報告書

(1) テーマ概要

半田市をより住みやすく、安心して暮らし続けられるようにするためには、住民同士の支え合いが重要です。災害や予期せぬ事故が発生したとき、地域の人々が互いに助け合うことで迅速な対応が可能になります。また、地域の住民同士が顔見知りになることで、不審者の侵入を防ぎ、防犯意識が高まることも期待できます。お祭りやイベント、地域清掃や防災訓練などの活動を通じて交流が生まれ、活気ある地域づくりにもつながります。ちょっとした困りごとでも、近所の人に助けてもらえる環境があれば、安心して暮らせるのではないのでしょうか。



まち歩きをしながら多世代交流

(2-1) テーマ課題【地域活動への参加の仕組み】

各世代で活動参加ができていない事例・参加しない(できない)理由などが違う要因となっています。興味があり参加をしたいと思っている人も多いので、きっかけになる情報をどのように各世代に伝えることができるか、また各活動をどのように継続させていくのかが課題です。

(3-1) 対策・取組【地域活動への参加の仕組み】

実施主体	第1層（市全域）	第2層（中学校区）	第3層（小学校区以下）
住民		・多世代で楽しみながらできる交流の場を企画	・参加見込みがありそうな人への個別アプローチ ・人財育成、活動の継続を理念に追加 ・LINE 等情報共有ツール・QRコード等の使い方を習得 ・ふくしに関するネットワーク会議等の開催
事業所	・LINE 等情報共有ツール、QR コードなどの使い方講習会の開催	・事業所連絡会等への参画	・地域団体との交流
社協	・活動団体の把握・課題の抽出	・活動団体への相談機能的役割	・地域住民とのコネクト的役割
行政（関係課）	・各団体の連絡会・交流会等の開催 ・既存団体から派生する団体立上げ支援 ・tetoru が地域活動に有効活用でき、情報が悪用されないような仕組みづくり		

(2-2) テーマ課題【災害・緊急時にささえあう仕組み】

地域防災においては、防災訓練の内容や実施頻度は地区ごとになっており、安否確認のみの訓練が多く、避難所での実践的な訓練が行われている地区は多くありません。特に自主防災会の活動や地域住民の参加状況には差があり、自治区に未加入の住民には情報が届かず、訓練参加率の低下も課題になっています。一方、避難所の開設情報や備蓄内容が市民に十分周知されていないことで、被災後の生活再建への不安も大きいことも挙げられます。避難行動要支援者名簿については、発災直後の支援体制として近所の町内会や隣組の助け合いの活動が不可欠ですが、形式的なリストにとどまっており実効性のある計画までには至っていません。特に障がい福祉サービスを利用していない障がい者や高齢者への支援計画が不十分で、災害時に誰がどのように支援するかが不明確な点が課題となっています。このような現状と課題から「災害・緊急時にささえあう仕組み」が必要であることを部会で検討しました。



非常時のトイレについて学ぶ

(3-2) 対策・取組【災害・緊急時にささえあう仕組み】

実施主体	第1層（市全域）	第2層（中学校区）	第3層（小学校区以下）
住民	・様々なサークル活動で災害についての勉強会やイベントを実施し、防災意識を高める（グループ）		・地域の防災訓練への積極的に参加し近所の顔の見える関係の機会を増やす（個人） ・マイタイムラインを作成し、家族と共有（家族）
事業所	・各事業所のBCP（業務継続計画）を地域と共有して、発災時の連携に活かす		・地域の防災訓練に事業所の利用者と一緒に参加し顔の見える連携体制を構築
社協	・災害時ボランティアセンター開設訓練を実施 ・市民へ災害ボランティアセンターを周知し、住民や事業所と共に準備	・中学校のふくし共育で防災減災の内容を実施	・小学校のふくし共育で防災減災の内容を実施
行政（関係課）	・避難所の開設手順・備蓄状況を平時に住民と共有し、「自助」の準備を行えるよう支援 ・指定福祉避難所についても開設・運営手順を検討し住民と共有 ・福祉サービス未利用者・高齢者にも災害時支援プランを作成	・中学校でマイタイムラインの作成を授業に組み込む	・小学校でマイタイムラインの作成を授業に組み込む ・隣近所の助け合いには日ごろからの顔の見える関係が必要であることを周知し、自治区に入るメリットを住民へ伝えていく ・地域ごとに「要支援者支援会議」等の場を設け、名簿の内容により支援方法を具体的に検討、共助の意識を高めて実効性のある計画を準備

◆ 半田市地域福祉計画策定委員会 委員名簿（敬称略） ◆

氏 名	所 属	備 考
○原 田 正 樹	日本福祉大学	学識経験者
石 井 義 廣	半田市区長連絡協議会	地域住民
関 鋼太郎	半田市民生委員児童委員協議会	地域住民
中 村 力 章	半田市PTA連絡協議会	教育
今 井 友 乃	知多地域権利擁護支援センター	権利擁護
鵜 飼 数 正 (前任：井戸 千尋)	ちた地域若者サポートステーション	若者支援
山 崎 千 佳	半田保健所	保健・医療
森 川 武 彦	半田市介護保険運営協議会	高齢者支援
立 石 佳 輝	半田市障がい者自立支援協議会	障がい者支援
天 野 真 弓	半田市子ども・子育て会議	子ども・子育て
棚 野 敬 子	半田市健康づくり連絡協議会	健康づくり
柴 田 将 人	半田市ふくしまるごと会議	社会福祉
山 田 伸 吾	半田市居住支援協議会	住まい
田 窪 英 樹	地域福祉実践者	生活困窮
榊 原 かおる	地域福祉実践者	ボランティア

○は委員長

(市・社協)

氏 名	所 属	備 考
森 下 貴 仁 (前任：長谷川 信和)	福祉部生活援護課長	市（関係課）
木 村 智恵子 (前任：沢田 義行)	福祉部高齢介護課長	
竹 内 健	福祉部健康課長	
森 本 総一郎 (前任：小林 徹)	子ども未来部子ども育成課長	
三 輪 象太郎	子ども未来部子育て相談課長	
高 橋 直 登	教育部学校教育課指導主事	
小野田 靖	半田市社会福祉協議会事務局長	社会福祉協議会
加 藤 恵 (前任：前山 憲一)	半田市社会福祉協議会事務局次長	
小 林 徹 (前任：竹部 益世)	福祉部長	市（事務局）
山 本 勇 夫	福祉部地域福祉課長	
赤 坂 英 寿 (前任：村上 裕子)	福祉部地域福祉課	
川 口 一 美	福祉部地域福祉課	
加 藤 裕 加	福祉部地域福祉課	
黒 野 隼	福祉部地域福祉課	

◆ 半田市地域福祉計画策定調整会議 委員名簿（敬称略） ◆

氏 名	所 属	備 考
山 田 伸 吾	権利擁護・居住支援部会部会長	(R7 年度 から)
立 石 佳 輝	就労・参加支援部会部会長	
森 川 武 彦	災害にも強い地域づくり部会部会長	
森 幸	企画部市民協働課	
村 上 裕 子 (前任：富田 隆志)	福祉部地域福祉課	
鳥 居 ひとみ (前任：邑上 祥一郎)	福祉部生活援護課	
石 島 陽 子	福祉部高齢介護課	
榊 原 晶 子	福祉部健康課	
瀧 田 裕 樹 (前任：森本 総一郎)	子ども未来部子ども育成課	
櫻 井 亮 典	子ども未来部子育て相談課	
加 藤 恵	半田市社会福祉協議会事務局次長	
榊 原 智 康	半田市社会福祉協議会総務グループ	
岡 本 弘 安	半田市社会福祉協議会権利擁護グループ	
徳 山 勝	半田市社会福祉協議会障がい者相談支援センター	
山 田 大 輔	半田市社会福祉協議会包括支援センター	
中 根 靖 幸	半田市社会福祉協議会	
山 本 勇 夫	福祉部地域福祉課長	事務局
赤 坂 英 寿 (前任：村上 裕子)	福祉部地域福祉課	
川 口 一 美	福祉部地域福祉課	
加 藤 裕 加	福祉部地域福祉課	
黒 野 隼	福祉部地域福祉課	

◆ 半田市地域福祉計画策定専門部会 委員名簿（敬称略） ◆

◆◆ 権利擁護・居住支援部会 ◆◆

氏 名	所 属	備 考
山 田 伸 吾	サンユーホーム株式会社	部会長
柴 田 将 人	弁護士法人リブレ	副部会長
濱 地 洋 樹	公益社団法人愛知県宅地建物取引業協会	
有 元 吉 野	一般社団法人 J A W S	
鷲 野 林 平	社会福祉法人半田同胞園	
部 田 かね代	N P O 法人ひだまり	
金 森 大 席	N P O 法人知多地域権利擁護支援センター	
上 口 美智代	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
杉 浦 友 紀	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
瀬 口 美 江	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
岩 本 秀 雄	福祉部高齢介護課	
鈴 木 徹	建設部建築課	
加 藤 恵	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	事務局
岡 本 弘 安	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
鳥 居 ひとみ	福祉部生活援護課	
梶 田 修 平	福祉部生活援護課	
加 藤 裕 加	福祉部地域福祉課	

◆◆ 就労・参加支援部会 ◆◆

氏 名	所 属	備 考
立 石 佳 輝	社会福祉法人ダブルエッチジェー	部会長
田 窪 英 樹	一般社団法人あいち福祉振興会	副部会長
鵜 飼 数 正	NPO法人ICDS ちた地域若者サポート ステーション	
吉 川 真由美	日本福祉大学	
中 村 稔 晴	半田商工会議所	
岩 橋 平 武	半田市シルバー人材センター	
藤 條 充	半田保護区保護司会	
安 藤 須美江	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
佐 藤 章 貴	市民経済部産業課	
村 上 裕 子	福祉部地域福祉課	
梶 田 修 平	福祉部生活援護課	
櫻 井 亮 典	子ども未来部子育て相談課	
榊 原 智 康	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	事務局
中 根 靖 幸	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
赤 坂 英 寿	福祉部地域福祉課	
黒 野 隼	福祉部地域福祉課	

◆◆ 災害にも強い地域づくり部会 ◆◆

氏 名	所 属	備 考
森 川 武 彦	社会福祉法人椎の木福社会	部会長
榊 原 かおる	地域福祉実践者	副部会長
岩 浪 房 子	地域福祉実践者	
杉 文 雄	半田市民生委員・児童委員協議会	
小牟礼 広 至	自主防災会	
中 村 力 章	半田市PTA連絡協議会	
辻 桜 香	日本福祉大学学生	
伊 藤 俊	総務部防災安全課	
石 島 陽 子	福祉部高齢介護課	
榊 原 晶 子	福祉部健康課	
瀧 田 裕 樹	子ども未来部子ども育成課	
高 橋 直 登	教育部学校教育課	
松 本 涼 子	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	事務局
徳 山 勝	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
山 田 大 輔	社会福祉法人半田市社会福祉協議会	
川 口 一 美	福祉部地域福祉課	

第3次半田市地域福祉計画

2026年（令和8年）3月

発行：半田市

編集：福祉部 地域福祉課

愛知県半田市東洋町二丁目1番地

0569-21-3111（代表）

0569-84-0641（地域福祉課直通）